

児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業
報告書

平成21年3月
観光庁

はじめに

政府は観光立国推進基本計画において、総合的かつ計画的に講ずるべき施策として、「学校における地域固有の文化、歴史等に関する教育の充実」等の施策を掲げており、一部の地域においては、学校の総合的な学習の時間を活用し、地域の観光資源について学んだ児童・生徒によるボランティアガイド活動が実践されています。

児童・生徒によるボランティアガイド活動は、「将来の地域づくりの担い手の育成」、「児童・生徒の旅をする心を育む」などの観点から有意義な活動であることから、観光庁では、その普及促進に努めており、平成 19 年度は「児童・生徒によるボランティアガイド」の取組みに関する調査を行い、先進事例を紹介しました。

平成 20 年度では、平成 19 年度の調査結果を踏まえ、「観光地域づくり人材育成シンポジウム」において先進事例を紹介し、「児童・生徒によるボランティアガイド」の意義の啓蒙を図りました。また、全国の地方自治体、観光協会、商工会議所等を対象に各団体・組織の「児童・生徒によるボランティアガイド」に関する調査を実施し、各地の取組み状況等を把握すると共に、北海道松前町、青森県八戸市、滋賀県湖北町、鹿児島県鹿児島市の 4 地域で「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業」を実施し、モデル事業の実施結果に関する意見交換を行うことで、「児童・生徒によるボランティアガイド」実施における課題の把握と普及策の検討を行い、本報告書を取りまとめました。

関係各位のご協力に厚く御礼申し上げますと共に、この報告書が今後、各地において、参考として活用され、全国で「児童・生徒によるボランティアガイド」活動が実践されることを期待します。

平成 21 年 3 月
観光庁観光地域振興部観光資源課

目次

1	事業の概要	1
1-1	背景と目的	1
1-2	事業の進め方	1
2	観光地域づくり人材育成シンポジウム	2
2-1	実施概要	2
2-2	開催記録	4
3	全国アンケート調査	40
3-1	調査の概要	40
3-2	アンケート調査結果	41
4	児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業	45
4-1	児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業の概要	45
4-2	モデル事業参加地域におけるアンケート調査結果	46
5	児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業検討会	51
5-1	実施概要	51
5-2	開催記録	52
6	まとめ	54

(参考資料) モデル事業実施報告書

松前町ツーリズム推進協議会	モデル事業実施報告書	資料-1	
社団法人八戸観光コンベンション協会	モデル事業実施報告書	資料-13	
湖北町教育委員会	モデル事業実施報告書	資料-26	
石橋記念公園	NPOかごしま探険の会	モデル事業実施報告書	資料-49

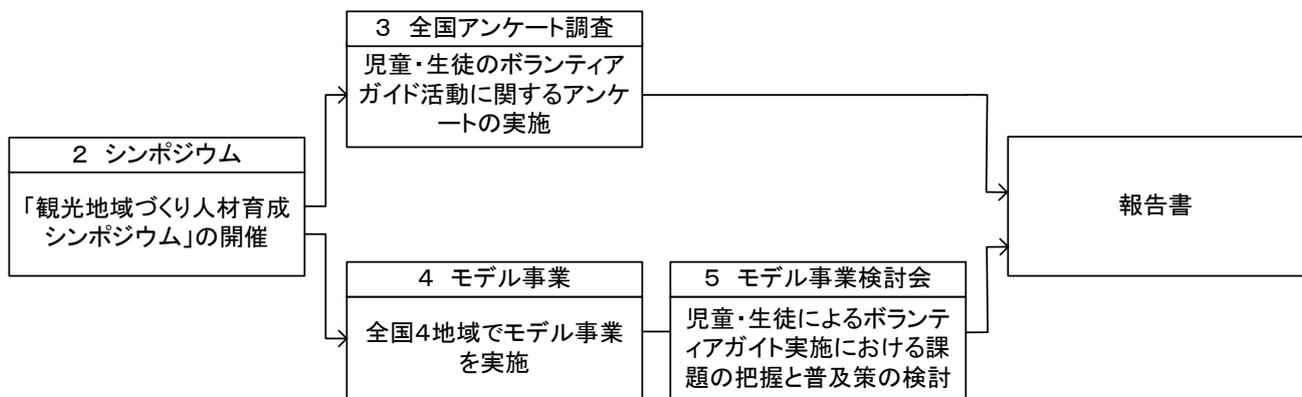
1 事業の概要

1-1 背景と目的

観光立国の推進にあたり、各地において観光地域づくりを担う層の厚い人材の育成を実現するためには、観光地域づくり人材の育成の動きが地域主導で実践されることが必要である。中でも、「地域に誇りを持った将来の地域づくりの担い手の育成」、「旅をする心の育成」といった観点から、次代の観光産業を担う若年層が観光地域づくりに参加する活動を促進することが課題となっている。そこで、観光地域づくりを実践する若年層の育成を目的に、現在一部の地域で実施が試みられている「児童・生徒によるボランティアガイド」の普及促進事業を実施した。

1-2 事業の進め方

平成20年度の事業として、「観光地域づくり人材育成シンポジウム」において先進事例を紹介し、「児童・生徒によるボランティアガイド」の意義の啓蒙を図るとともに、全国アンケート調査、児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業を実施し、現状の取組みの把握と「児童・生徒によるボランティアガイド」の普及促進を行った。また児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業（以下、モデル事業）を実施した地域が一同に会する「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業検討会」（以下、検討会）を開催し、「児童・生徒によるボランティアガイド」事業実施における課題の把握と普及策の検討を行った。



* 上図内の番号は、本報告書における章番号となっている。

2 観光地域づくり人材育成シンポジウム

2-1 実施概要

観光立国の推進に当たり、各地域において観光地域振興を担う幅広い人材の育成・確保のため、国においても「観光カリスマ塾」の開催による成功事例のノウハウの普及や、「観光地域プロデューサー事業」の実施により各地域に専門家を派遣するなどの取り組みを行っている。

そうした中で、さらに層の厚い人材育成を実現していくためには、各地域における自主的な観光地域づくり人材の育成の動きが自発的に発展していくことが必要となることから、それぞれの地域の課題や先進事例に関する情報を共有・交換することが可能となるような環境整備のきっかけづくりとして、「観光地域づくり人材育成シンポジウム」を開催した。

本シンポジウムでは「児童・生徒によるボランティアガイド」の普及促進を目的に、先進事例を紹介すると共に関係者によるパネルディスカッションを行い、ガイドを実践する上での課題の抽出や意義の認識共有を図った。

日時 平成20年6月11日(水) 13:00~17:55
場所 三田共用会議所 1階講堂 (東京都港区三田 2-1-8)
参加者 269名 (自治体・観光協会 80名、企業・産業団体 62名、NPO・財団・社団 43名、教育関係 26名、その他 58名)



プログラム

(平成 20 年 6 月 11 日現在)

13:00-13:30 第 1 部 全体会議

13:00-13:10 開会挨拶 (国土交通省 総合観光政策審議官 本保 芳明)

13:10-13:30 主催者趣旨説明 (国土交通省 観光資源課長 水嶋 智)

13:30-17:55 第 2 部 パネルディスカッション

13:30-15:35 パネルディスカッション①

「観光地域づくり人材育成の促進に関するパネルディスカッション」

<パネリスト>

後藤 靖子 氏 (山形県副知事)

花岡 俊幸 氏 (山梨県富士河口湖町観光地域プロデューサー、
NPO 法人 CCCM まちづくり会長、山梨大学名誉教授)

藏根 敏文 氏 (NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構 専務理事)

井手 修身 氏 (アイデアパートナーズ株式会社 代表取締役)

柴野 裕美子 氏 (鳥取県米子市皆生温泉 皆生菊乃家 若女将)

<コーディネーター>

梅川 智也 氏 (財団法人日本交通公社 研究調査部長)

15:50-17:50 パネルディスカッション②

「児童・生徒による観光地域づくりへの参加に関するパネルディスカッション」

<パネリスト>

栗田 慎也 氏 (株式会社ピッキオ 代表取締役)

江崎 貴久 氏 (有限会社オズ海島遊民くらぶ代表取締役
鳥羽若女将うめの薔会会長、鳥羽市観光協会青年部副会長
旅館海月女将)

松本 正光 氏 (北条まちづくり協議会 代表)

岡本 純一郎 氏 (広島県廿日市市立宮島小学校・宮島中学校 教諭)

<コーディネーター>

山田 桂一郎 氏 (JTIC.SWISS 代表/観光カリスマ)

2-2 開催記録

全体会議

<開会挨拶>

国土交通省 総合観光政策審議官 本保 芳明

観光の仕事に携わるようになった10年ほど前、観光とは何なのか、観光地域づくりに大事な何なのか、教えてくださった恩師が由布院温泉の溝口薫平さんだ。

国土交通省では、元気な観光地を引っ張っているリーダーに脚光をあて、さらに活躍いただこうという趣旨で、溝口さんを含む100名の観光カリスマを選定させていただいている。

観光カリスマの皆さんを見て分かるように、人材育成はとても大事なテーマだ。去る3月には「産学官連携検討会議」を開催し、高等教育の場面での人材育成にスポットをあてた。今回はそのシリーズとして、子どもたちを観光地域づくりの担い手としてどのように引き込んでいくかという観点でご議論をいただきたい。

人づくりは大変大事であるが、どのようにやる気を出させるか、そのきっかけを与えるかが難しい。今回のシンポジウムや懇親会などを通じて、「とにかくやってみることが大事だ」「誰でもできる」という思いを持って帰っていただくことが本日の成果になる。



<主催者趣旨説明>

国土交通省 観光資源課長 水嶋 智

観光立国の推進にあたり人材育成は避けられない課題だ。インバウンドは2007年に835万人と順調に伸びているが、国内旅行は必ずしも伸びていない。こうした状況下、若い人たちを将来の地域づくりの担い手としてどう育てるかがシンポジウムのテーマだ。

これまで多くの地域が団体型旅行に対応した観光地づくりに横並びで取り組み、地域のリーダーシップは各地方公共団体や観光協会などにゆだねられていた。国も具体的事業に対する支援を中心に取り組み、人材育成は地域にお任せしてきた。しかし観光に関する状況が変化の中で、官主導の地域づくりでは上手くいかない問題も出てきたのではないかと。

一方で民間の方々を中心とする観光地づくりの成功事例が見られるようになった。地域が独自に人材育成に取り組む事例も増え、国として側面支援できないかというのが本日の問題意識だ。情報を共有する場の提供、各地域の関係者のネットワークづくり、それらを通して学びあうことなどから観光地域づくりが進むのではないかと考えている。

今後は、地域、教育機関、観光産業界が連携して、新しい時代の観光を担っていただくことになるだろう。本日第1部のパネルディスカッションでは各地の取り組みをご紹介いただき、観光地域づくりに求められる人材像や、その核の必要な取り組みについてご議論いただく。

第2部のパネルディスカッションでは、次代を担う子どもたちの観光地域づくりへの取り組みにスポットをあてる。各地の先進的な事例をご紹介いただき、生徒・児童が観光地域づくりに参加するため、あるいは取り組みを継続させるために必要なことについて議論を深めたい。



第2部 パネルディスカッション

＜観光地域づくり人材育成の促進に関するパネルディスカッション＞

後藤 靖子 氏（山形県副知事）

観光の担い手として行政が頑張りすぎると、民間へのノウハウ蓄積が進まず活躍の場もつけれない。民間の実践力を高めることと、実践できる環境、舞台を整えることが重要。

正義感に燃えて地域で頑張る人も、正義感だけでは支えきれないし持続できない。頑張る人を支える仕組み、取り組みを持続させる仕組みが必要だ。

都市部に比べて地方では情報も機会も不足していると感じる。チャンスさえあれば良い方向の循環に入っていくこともできるはずで、そのような「場」を広めることはとても大切だ。

観光地域づくりの重要性については一生懸命伝えているつもりだが、思っている以上に浸透していない。地域のリーダーと呼ばれる方々には、観光の大切さをしつこいくらい発信し続けて欲しい。

観光地域づくりは明確な回答があるわけでもなく、ふわふわした話しが多くなりがちだが、理論的バックボーンがあることで近道を見つけられることもある。学生だけでなく、社会人も理論的なバックボーンを習得できるような場がひろがることに期待したい。



花岡 利幸 氏（山梨県富士河口湖町観光地域プロデューサー、NPO法人CCCMまちづくり会長、山梨大学名誉教授）

富士河口湖町観光地域プロデュースの業務における最終目的は、従来の行政主導型の観光まちづくりから住民主導型へともっていく運動を町民に働きかけ、住民主導、行政支援型の観光まちづくりを実行していこうというものである。

観光地域プロデューサーとして、富士河口湖から要請された業務は、観光立町としての計画策定の業務参加、人や組織づくりに関する業務、その他の業務に集約される。これを「観光まちづくりカレッジ」ということに課題を絞った。

「観光まちづくりカレッジ」の意図は観光まちづくり人材の養成の機会と場の提供をすることによって、住民主導のまちづくりの模索、クリエイティブな人間養成のトレーニングの場としたいというものである。特徴としては、地域密着型で地元の有志と私で企画運営を行い、学校運営という実践のなかで学ぶことが挙げられる。

資金の裏づけとなる補助金体制が維持できなくなってくる今後は、従来のまちづくり体制に代わる体制をつくり出していかなければならない。観光まちづくりのやり方が従来の体制を超えるために、既存組織の力を結集した新しいまちづくり体制として住民主導行政支援型まちづくり体制をつくり、自助努力するエンジン機能強化の組織づくりが必要である。

新たなまちづくり体制としては、計画ができると解散するようなものではなく、常設の委員会を設置する。そのエンジンとして、観光まちづくり専門委員会を設置し、観光まちづくりプロデューサーのような専任者が当たっていくことが良いと考える。このような体制の中での位置づけとして観光まちづくりカレッジをレベルアップの場としていきたい。



藏根 敏文 氏（NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構 専務理事）

阿寒湖で土産物屋をしていた。団体バスが減りレンタカーが増えてきた時に商店街の将来を話し合う機会があり、危機感を持った。

「2010プラン」という計画ができてやるべきことが具体的に変わった段階で覚悟を決め、商売を辞めてまちづくりに身を投じることにした。

阿寒湖には「まりも倶楽部」という女性の活動団体がある。参加している各人がそれぞれの得意分野を活かしてまちづくりに貢献しており、私たちのNPOもこのまりも倶楽部の存在に支えられているところが大きい。

地域づくりに関連する情報をどのように入手するかということとあわせて、手に入れた情報をどんな形で地元フィードバックするか。これも地域のコーディネーター役に求められる役割だと思う。



井手 修身 氏（アイデアパートナーズ株式会社 代表取締役社長）

観光地域づくりの専門家を育てる一方で、まったくの異業種から参入して価値観を変えていくような人を組み合わせることも重要だ。

観光に取り組む人材が高齢化しているように感じる。次の世代、その次の世代の参入が進まないのは各地に共通した課題。若者の参加がどうしても必要だ。

はじめから観光の勉強をしてきた人間だけでなく、様々な専門分野の人間がいくつかの業界を経て、最終的に観光に携わってくればよいと思う。

スキルを学ぶというより価値観を変えるようなプログラムの提供と、参加することで自分の価値に自信を持てるような場づくりが必要ではないか。

東京に人材育成の場があっても出席できない人もいる。例えば将来の道州制くらいのブロックごとで人材育成の取り組みがあっても良い。

観光協会や旅館組合、その他NPO法人を含む中間支援組織がどのように自立するかが課題となっている。国にはこの分野を勉強できるような講座を期待したい。

必ずしも観光業という枠組みではないかも知れないが、地域におけるサービス業としてお客様をもてなすことに関わる社会起業を促す仕組みづくりについても国に期待している。



柴野 裕美子 氏（鳥取県米子市皆生温泉 皆生菊乃家 若女将）

新しい宿泊プログラムを検討する際、女性の視点を重視したマーケティングに取り組むため、若女将を中心にした検討会を立ち上げた。これから活発に活動させていきたいと考えている。

皆生温泉では、エコツアーガイド養成エリア講習会や地元の環境についての講習会などのエリア講習会を通して地元に対する知識を深めている。

個々の体験プログラム等の担い手と、それらを束ねて地域のブランドとして情報発信できる人材の双方が必要だと感じている。

皆生温泉では現状では行政がコーディネート役を担っているが、将来的には行政だけに頼らない形にする必要がある。



梅川 智也 氏（財団法人日本交通公社 研究調査部長）

人材育成には「座学による基礎知識の習得」「実地研修による現場適応力の涵養」「人的ネットワークを通じた発展的能力の獲得」という3つのステップ、「情報の提供」「機会の提供」「場の提供」という3つのフェイズがあると考えます。

「情報の提供」とは全国の既存のプログラムについて質的に評価した上で情報共有すること、「機会の提供」とは優れたプログラムに希望に応じて参加出来る仕組みをつくること、「場の提供」とは関係者同士の交流の場や、共通する課題に関する研究会の設置など。

観光地は、観光地域づくりにおける人材育成の取組みの効果を観光客数の増加に求めがちである。しかしながら、人材育成の取組みは、その効果が直ちに現れるものではないことに加え、地域を愛する心の涵養や地域の人々のつながりの深耕など様々な視点から評価すべきであることから、長期的な視野で取り組む必要がある。

そういった観点からも、観光客数の量的拡大のみをめざすのではなく、観光地の質的向上をめざして観光地域づくりに取り組まなければならない。そのためには、観光地では人々の意識をはじめとして既存の構造を大きく変える必要があり、そうした意識改革を含めたイノベーションを実現できる人材の育成が課題となっている。



< 観光地域づくり人材育成の促進に関するパネルディスカッション資料 >

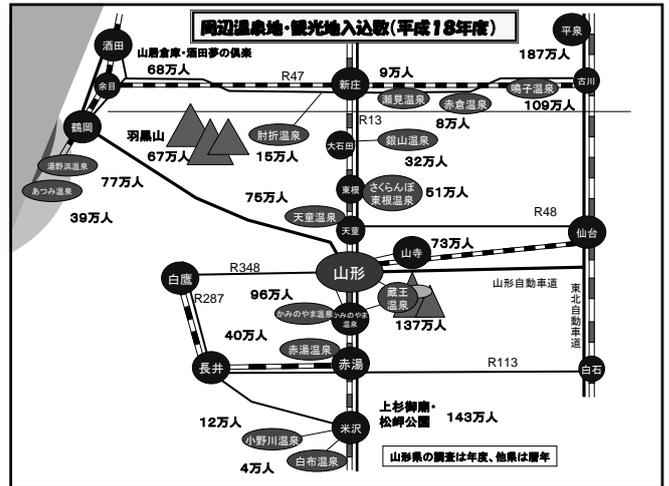
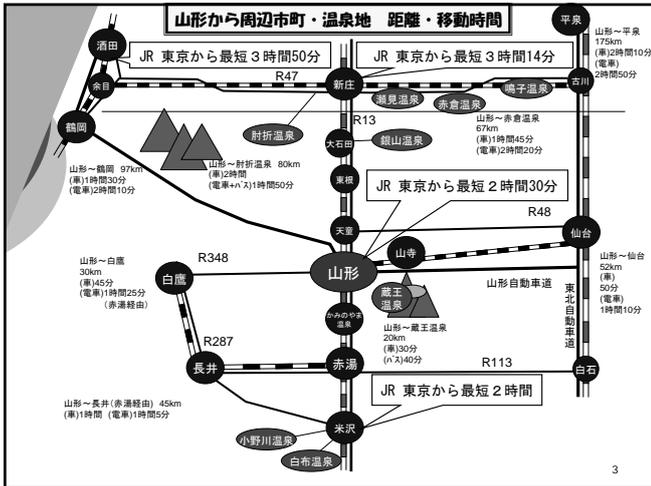
後藤 靖子 氏(山形県副知事)

人材、魅力、誇りを磨き 地域を再生していく視座と目標
～やまがた観光まちづくり塾の取組みを通じて～

2008/6/11
山形県副知事 後藤靖子

山形県の概要

- 鳥海山
- 最上川舟下り
- 銀山温泉
- 山居倉庫
- お雛さま
- 三神合祭殿
- 五重の塔
- 山寺
- 蔵王の樹水
- 蔵王のお釜



山形県 観光の現状

庄内平野と鳥海山

➔ 国際観光(平成19年)

- ・宿泊者数 約3万5千人 (国土交通省宿泊旅行統計)
- ・入り込み数 約6万4千人 台湾・韓国で80% (山形県調査)

■平成19年(1月～12月)入込数(山形県調査)
(調査対象92施設: 政府登録ホテル・旅館等81施設、立寄観光施設11施設)

	計(延人数)	台湾	韓国	香港	中国	アメリカ	その他
宿泊施設	28,274	11,607	8,436	2,302	931	2,085	2,913
立寄施設	36,296	29,622	1,801	3,161	590	658	464
合計(延人数)	64,570	41,229	10,237	5,463	1,521	2,743	3,377
対前年比	123.8%	125.5%	110.2%	258.1%	139.8%	91.8%	88.5%

山形県 観光の現状

➔ 宿泊者数 367万人 (国土交通省宿泊旅行統計)

➔ 温泉利用状況 317万人 (環境省「温泉利用状況経年変化表」)

年度	山形県 (%)	全国 (%)
H3	99.7	100.0
H4	95.3	95.2
H5	97.5	95.9
H6	93.5	96.4
H7	91.8	99.9
H8	90.7	99.9
H9	88.2	97.5
H10	85.2	94.5
H11	81.4	90.0
H12	78.6	89.0
H13	77.1	85.7
H14	74.9	85.7
H15	75.0	85.1
H16	70.1	84.9
H17	70.1	84.9
H18	70.1	84.9

出展: 環境省「温泉利用状況経年変化表」

山形における 新たな視点

- 評価軸の変化
- ➔ PR中心のキャンペーンからの脱却
- ➔ 契機とした地域の取組み誘発

■ やまがた花回廊キャンペーン (平成20年4月～6月)

地域の一人ひとりが受入主体 もてなしの心の醸成
 ・方言ボランティアガイド ふれあい・対話
 ・花の植栽、清掃 参加意識・おもてなしの心
 ・高校によるガイド 誰もが受入主体

■ 新潟DCプレキャンペーン (平成20年10月～12月)

庄内の食、歴史・文化 多業種参画
 ・食の都庄内親善大使 食産業
 ・北前船、シルク 舟運文化、伝統産業
 ・山伏体験、芭蕉譜 出羽三山の精神文化

やまがた 観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾 創設

- 事業創設の背景など
- ➔ 観光は広く地域の産業が関わるもの
- ➔ 活力ある地域＝来訪者にとって魅力
- ➔ 地域で活躍する人材が分散、過度な役割
- ➔ 知恵と工夫を繋ぐことで新たな展開を期待
- ➔ 「地域の魅力づくり」、地域ぐるみの「まちづくり」のアプローチが不可欠

やまがた 観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾 開塾趣旨

- 趣旨・ねらい
- ➔ 「住んでよし」、「訪れてよし」のまちづくり
- ➔ 多様な主体(宿泊業、農業、商業、NPOなど)のリーダーが太いネットワークで繋がること
- ➔ 各組織を縦系にネットワークを横軸に絡めた地域づくり
- ➔ 住民による「まちづくり」参画への意識醸成、ムーブメント
- ➔ やまがた観光まちづくり塾＝知恵の交流が始まる場(プラットフォームづくり)

やまがた 観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾 開催の視点

- 視点
- ➔ 知恵の交流、本物を見極める力、考え行動する力
 ・講師レクチャーを通し、異なった視点を学ぶ
- ➔ 地域で活躍する人に焦点を当てる
 ・スポットライトを当てる＝活動の周知＝努力の共有
- ➔ オープン参加可能な塾
 ・点在する人材を引き込む、巻き込む
 ・塾生は固定しない＝拡大と自然淘汰
- ➔ 視座と目標を見据える
 ・地域の光＝人材や魅力や誇りを磨いて外部にアピール、これを端緒として地域を再生
 ・「このまちに生まれてよかった」、「このまちに来てよかった」
 ＝本塾の目指す「観光まちづくり」
 ・山形をあげて取り組むキッカケづくり

やまがた 観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾の概要

- 名誉塾長 後藤靖子 (山形県副知事)
- 塾長 川口直木 (企画プロデューサー)
- 顧問 清水慎一 (株)JTB常務取締役)
- 塾生 172名 (平成20年3月末)
- 後援団体 25社・団体 報道機関、商工・農業団体
- 塾生募集 県HP及び塾生による周知 随時募集
- 塾の開催 県内4地区1回の塾生持ち回り
 塾生による企画運営、行政は後方支援
- 修了式 修了証などの授与(塾に卒業無し)

やまがた 観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾の開催状況

- 平成18年度
 - ・開講式(山形市) 7月11日
 - ・塾の開催 4回【延べ260名参加】
 - 庄内地区(酒田市、鶴岡市) 8月26～27日
 - 最上地区(金山町、大村村) 10月24～25日
 - 置賜地区(白鷹町、高島町) 11月12～13日
 - 村山地区(山形市、天童市) 1月21～22日
 - ・修了式(山形市) 3月22日
- 平成19年度
 - ・塾の開催 4回【延べ333名参加】
 - 庄内地区(遊佐町) 7月23～24日
 - 村山地区(西川町) 8月28～29日
 - 置賜地区(高島町) 11月1～2日
 - 最上地区(最上町) 1月13～14日
 - ・修了式(山形市) 3月27日

やまがた
観光まちづくり塾

平成18年度 やまがた観光まちづくり塾in庄内

- 2006年8月26日(土)～27日(日)
- 酒田、鶴岡のまちあるき
- 講師:宮城俊作 氏(奈良女子大学教授)
- テーマ:「街並みづくり事始め—景観と街の活力について」
- 参加者:64名以上



やまがた
観光まちづくり塾

平成18年度 やまがた観光まちづくり塾in最上

- 2006年10月24日(火)～25日(水)
- 金山町、肘折温泉(大蔵村)のまちあるき
- 講師:甲斐賢一 氏(別府鉄輪温泉 ホテルHAMMOND代表取締役)
- テーマ:「人づくり まちづくり」
- 参加者:51名以上



やまがた
観光まちづくり塾

平成18年度 やまがた観光まちづくり塾in置賜

- 2006年11月12日(日)～13日(月)
- 白鷹町、高畠町のまちあるき
- 講師:小川原格 氏(株式会社 代表取締役)
- テーマ:「知恵を活かしたまちづくりと官民協働の情報発信」
- 参加者:65名以上



やまがた
観光まちづくり塾

平成18年度 やまがた観光まちづくり塾in村山

- 2007年1月21日(日)～22日(月)
- 山寺、天童温泉(天童市)のまちあるき
- 講師:宮城俊作 氏(奈良女子大学教授)
- テーマ:「街の心を表現する—風情と佇まいのデザイン」
- 参加者:80名以上



やまがた
観光まちづくり塾

平成19年度 やまがた観光まちづくり塾in庄内

- 2007年7月23日(月)～24日(火)
- 遊佐町のまちあるき
- 講師:桑野和泉 氏(湯布院「玉の湯」代表取締役)
- テーマ:「自然を活かした文化」
- 参加者:59名以上



やまがた
観光まちづくり塾

平成19年度 やまがた観光まちづくり塾in村山

- 2007年8月28日(火)～29日(水)
- 月山志津温泉(西川町)のまちあるき
- 講師:島康子 氏(青森県大間町「あおぞら組」組長)
- テーマ:「「何もない」はアイデアがない証拠」
- 参加者:66名以上



やまがた観光まちづくり塾

平成19年度 やまがた観光まちづくり塾in置賜

- 2007年11月1日(木)～2日(金) 置賜地区
- 高島町内のまちあるき
- 講師:石鍋裕氏(クイーンアリス代表)
- テーマ:「美味しい田舎には人が来る」
- 参加者:115名以上

やまがた観光まちづくり塾

平成19年度 やまがた観光まちづくり塾in最上

- 2008年1月13日(日)～14日(月)
- 赤倉地区のまちあるき
- 講師:水嶋智氏(国土交通省総合政策局観光資源課長)
- テーマ:「観光まちづくりに期待すること」
- 参加者:93名以上

やまがた観光まちづくり塾

塾生による自主的な取組み HP

- ホームページの開設
- <http://yamagata.ojaru.jp/>
- 庄内地区の塾生の提案
管理は庄内地区塾生
平成18年9月に立ち上げ
アクセス5,000超

やまがた観光まちづくり塾

塾生による自主的な取組み ML

- メーリングリストの開設
- YKMJ@googlegroups.com
- 最上地区塾生による提案 管理人は肘折温泉の塾生
- 平成18年12月に開設 MLカウンター 1,500超
- ML活用の実例 塾生がML上で関連な議論と塾講師陣のアドバイス
- 事例1 2006年
Q:塾に参加し、我がまちにアートが足りないと感じた。
A:(甲斐氏)芸術工科大学の学生に入ってもらい町全体をアートしてもらおうとい
結果:東北芸術工科大学連携による「温泉街まるごと美術館」の展開
第一弾「肘折の灯」2007夏 展開済み
- 事例2 2007年
Q:案内看板設置と修景、どの様に進めればよいか。
A:(宮城氏)電子、紙媒体、屋外広告物など様々なメディアにサイン情報を掲載。メディアミックスで利用
者が選択できる様な仕組みに持って行くことが大切。屋外広告物的サインは減らし、小規模な案内・誘導サインの充実(効果的な配置とデザイン)
結果:人の動線・視点を検討し、手作りの案内看板を作成・設置

やまがた観光まちづくり塾

塾生による自主的な取組み「山形@人」

- 「山形@人」(冊子)の制作
- 庄内の塾生による提案・制作
- 平成19年3月に完成 好評発売中 800円

やまがた観光まちづくり塾

交流の中での新たな展開

薬師桜

- 外からの刺激を内からの変化に繋げる
塾の講師陣との縁を繋げる、続ける
よそ(視点、知恵)を知り、よその土地(知恵の実践)を尋ね、相互交流
- 北海道小樽市
- 小樽市に白鷹の薬師桜(樹齢1200年)の二世木を植樹
- 雪あかりの路シンポジウムへの参加
外国人ボランティア受入、仕掛けを学ぶ

やまがた
観光まちづくり塾

講師陣との縁による新たな展開

- 富山県黒部市
 - 黒部市内 前沢ガーデンに白鷹の薬師桜の二世木などを植樹
 - 黒部まちづくり協議会との交流(桜を通じたまちづくり)
 - 第一弾 2008小樽市にて
 - 第二弾 山形県白鷹町にて
 - 産業観光 → (新たな動き)
 - YKK TOURSの取組みに学ぶ
- カロツェリアプロジェクト「山形工房」
 - コーヒー&ティーボット 折りたたみ椅子
 - 鶴岡シル



やまがた
観光まちづくり塾

講師陣との縁による新たな展開

- 大分県別府市、由布院町
 - 蔵王温泉で外貨両替
 - まちあるき → (新たな動き)




やまがた
観光まちづくり塾

塾生の主体的活動 プラットホームづくり

- 「やまがた観光まちづくりネットワーク」(平成21年度～)
 - 塾生によるネットワーク集団づくり
 - ・塾生の主体的な活動を促進
 - ・自らのネットワークを自ら高めるためのプラットホーム
 - ・塾経験者による幹事会の設置
 - ・幹事会は幹事、顧問(講師陣などを予定)、事務局(県)
 - 事業計画
 - ・「やまがた観光まちづくり塾」の企画・運営
 - ・県外での勉強会の企画(Ex.大間ツアー)
 - ・合同イベント開催企画(Ex.やまがた雪明かりネットワークなど)
 - ・HP、MLの運営や企画

花岡 利幸 氏(山梨県富士河口湖町観光地域プロデューサー)

図-1 富士河口湖町観光地域プロデュース業務の具体化

(1) 事業の最終目的

1. 目的: 行政主導体制から住民主導体制の観光まちづくりへ
2. 目標: 「観光まちづくり」のための町民主体のNPOの設立
3. 手段: 観光まちづくりカレッジ(人材養成教室)の開催

(2) 今年度事業計画

1. 既存組織団体の活動状況調査
2. 観光まちづくり推進会議の設立と勉強会
3. 観光まちづくり専門家委員会の設立
4. テイクオフシンポジウムの開催
5. カリキュラムの設定と開校(一年課程、講義3回、演習15回)
6. NPO法人の設立
7. ステップアップシンポジウムの開催

(3) 進捗状況等

1. 開校
 - 5月14日講義編開講(観光原論、観光概論、先進地研修)
 - 6月11日演習編開講(課題プレゼン、調査、分析、計画、実践)

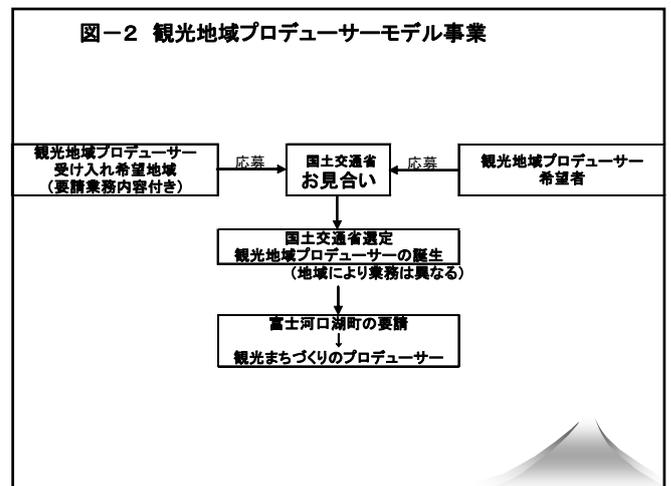


図-3 富士河口湖町における「観光まちづくり」概念の導入

わが国
1978—1980「観光からの町づくり」(社)日本観光協会
1984年「観光開発はまちづくりの総仕上げ」鈴木忠義(文献)
2000年 観光政策審議会で初めて使ったと言われる

富士河口湖町
2006.2.23『地域資源を活かした新たな観光まちづくりを考える』フォーラムで初めて使った
2007年『観光地域プロデューサーモデル事業』への応募、業務要請に用語「観光まちづくり」を使う

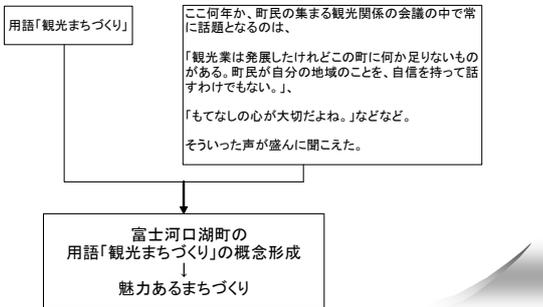


図-4 富士河口湖町が私に課した業務内容

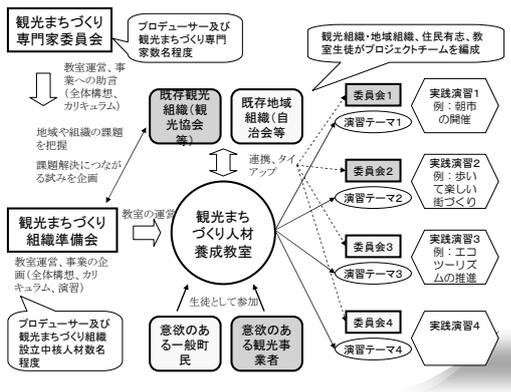
- ① 観光立町推進基本計画策定業務。
- ② 既存組織への会合に向き、意識啓発、スキルアップ、組織力強化等の研修を行う。
- ③ 観光まちづくりの組織力強化の企画や、新たに必要とされる組織の提言と必要な事業を行う。
- ④ 新たな課題に関する特定テーマの推進組織の立ち上げ支援。
- ⑤ 住民参加による観光まちづくり推進の核となり、受地型観光オペレーターともなり得る新たな組織(NPO等)の設立。
- ⑥ 住民参加による観光まちづくり推進組織のあり方の調査研究。
- ⑦、⑧の調査研究会を立ち上げ運営する。
- ⑧、その他観光まちづくり推進に必要な調査研究を企画し、成果を取りまとめ、それを通じて提言や普及啓発を行う業務

八つの業務は三つの内容に集約

- ①: 計画策定業務
- ②③④⑤⑥⑦: 人や組織づくりに関する業務
- ⑧: その他

課題の絞り込み
「観光まちづくりカレッジ」

図-5 観光まちづくりカレッジ(人材養成教室)の仕組みイメージ



参考図 従来の行政主導住民参加型まちづくりシステム

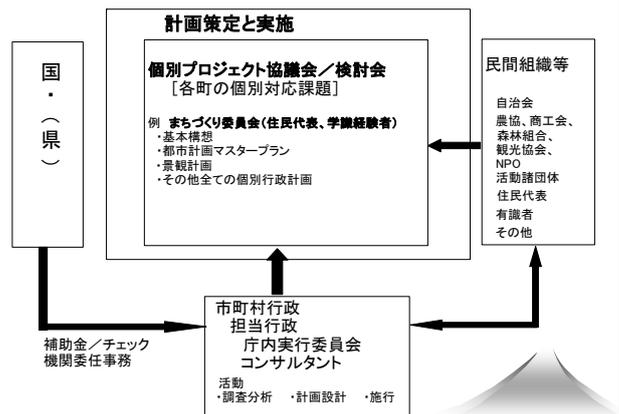


図-6 住民主導行政支援型の新しいまちづくりシステムの構築(提案)
—観光まちづくりエンジン機能の強化—

〇〇〇町 観光まちづくりプロジェクト

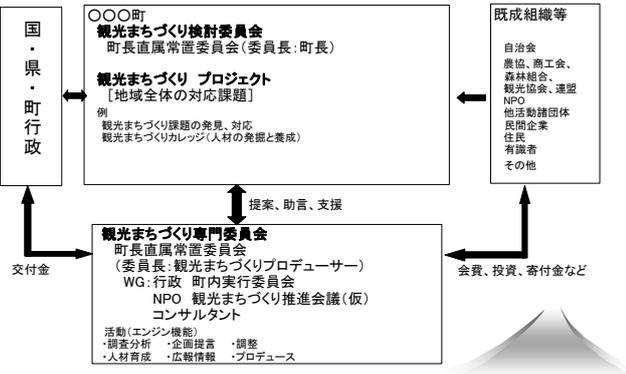


図-7 公共部門へのヒト・モノ・カネの関わり(背景)
—観光まちづくりの可能性とカレッジの目的—

やり方(技術)	ハードインフラ整備計画時代(工業社会)	ハードインフラを舞台にした行動計画時代(脱工業社会)
ヒト(法律)	官主導/公共部門担当	民主導/公共性の確保(民間では抵抗がある、手軽に公共部門に接近、官公庁では取り組みに時間がかかる) クリエイティブ業 NPO法人/商法人の参入 公益事業+収益事業
モノ(工学)	モノづくり ハードインフラ	インフラを舞台とした行動空間 ソフト+ハードインフラ リニューアル、地域資源の再評価、発見、再発見
カネ(経済)	税金、借金(国債、地方債)の投入	税金+投資、PFI、指定管理

**観光地における
プロデューサーの育成について**
～阿寒湖温泉を例にして～

2008年6月11日
NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構
専務理事 藏根 敏文

平成19年度 旅館誌



阿寒湖温泉の概要

- 釧路空港から約1時間
- 阿寒国立公園内
(温泉街は集団施設地区、周辺は第1種及び第2種特別地域)
- 阿寒湖周辺は(財)前田一步園財団が所有・管理
(森林、動植物の保護、自然環境の保全、温泉源の一括管理等を行っている)
- アイヌ文化の保存

写真 阿寒湖温泉

3

阿寒湖温泉の現状 (観光まちづくりのきっかけ) —観光地として

- 道東エリアの**宿泊拠点**(収容力7,000人)
大規模旅館(9軒)が大半を占める
- 宿泊客(延数): 98年度 102万人 ⇒ 2006年度 82万人
- 1泊が9割: 2/3が4時以降に到着し、翌朝9時までに出発
- 土産店中心の**商店街が3カ所**
- 新しい時代・旅行動向への**対応の遅れ**
団体客の減少・消費額の伸び悩み・滞在メニュー情報の不足

大型観光バス等、街中の路上駐車 国立公園内に相応しくない河川状況 大規模旅館が街と湖を遮断

4

阿寒湖温泉の現状 (観光まちづくりのきっかけ) —居住地として

※2001年度「阿寒湖温泉活性化に関するアンケート調査」阿寒湖温泉活性化戦略会議

- 住民(1,800人)の**定住希望は1/4**
- **医療施設、文化施設の不備、買い物に不便**
- **特殊な土地条件**
(集団施設地区、土地は一步園が所有)
 - 持ち家、駐車場スペース等の制約
 - 土地利用、交通、景観の乱れ
- **生活者の視点の欠如**
(観光関係者&男性が街を仕切る)

阿寒湖温泉地区への居住希望

現住所にずっと住み続けたい	8.5%
しばらくは住み続けるが将来は温泉地区以外へ移りたい	23.7%
わからない	33.9%
無回答	33.9%

5

魅力ある阿寒湖温泉に向けたステップ

危機感

まちづくりへの住民参加

肩書きをはずした議論の場の設定(特に女性参加の促進)

議論経過・結果の情報公開(ニュースレター、インターネット等)

→

町全体温泉街全体の合意形成

阿寒湖温泉活性化

観光を阿寒町(現釧路市)の核となる産業と位置づけ、行政・民間の協力のもと、活性化について議論し、事業を進める

観光を、市街地整備や就業問題とも連携して考え、観光客だけでなく**住民**にとっても住みやすい町を目指す

事業実施時期を短・中・長期に区分し、**できることから着手する**

↓

阿寒湖温泉活性化戦略会議 (2000年度)

ビジョンづくり (2000~2001年度)

6

2000年度・2001年度の活動

- **観光関連施設や組織の実態把握**
 - アンケート及びヒアリング調査を実施
- **資源の棚卸し(住民の意識改革)**
 - 2回のワークショップを開催(外の目録)
- **ニュースレターの発行**
 - 始めは価値観を醸成し、住民の積極的な参加を促す
 - 観光会議での議論や各種活動について随時情報を公開
 - 町広報紙と一緒に阿寒湖温泉の全戸に配布
- **先進地視察**
 - カナダのバンフ、ジャスパー国立公園内観光地のあり方を学ぶ(13名参加)
 - 視察参加者が後にまちづくりのキーパーソンに
- **宿泊客の実態把握**
 - アンケート調査及び住民意識調査を実施
- **「まちづくり協議会」の設立**
 - 阿寒観光協会と並行して
- **「まりも倶楽部」設立**
 - 阿寒町の女性による自主的なまちづくり活動
- **花いっぱいプロジェクト**
 - 住民の主体的なまちづくり活動としてのシンボルプロジェクト



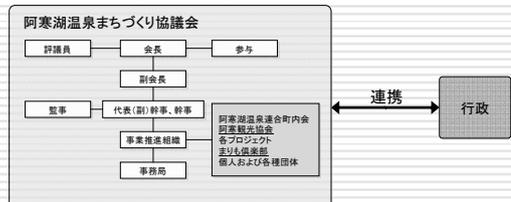
ワークショップの様子

花いっぱいプロジェクト

ニュースレター

阿寒湖温泉まちづくり協議会の設立 —2001.6

- 観光を超えたまちづくり事業を推進する組織として、阿寒観光協会とは別に設立(任意団体)
- 既存組織で推進されているプロジェクトと、基本計画で提案されたプロジェクトの調整(重複分野の軽減、弱点分野の強化等)
- 2010年度の目標に向けた実行プロジェクト選定と実施管理



阿寒湖温泉まちづくり協議会

評議員 会長 参与

副会長

監事 代表(副)幹事、幹事

阿寒湖温泉連合町内会 阿寒観光協会 各プロジェクト 実行委員会 個人および各種団体

事業推進組織

事務局

連携 → 行政

「阿寒湖温泉再生プラン2010」の概要

2002年3月策定

- 観光客の個人化の動きに危機感を感じた関係者が、(財)日本交通公社とともに策定に取り組んだ
- その後も、各種プロジェクトを展開
- 旧態依然とした関係者に対する意識改革プラン: 「阿寒湖温泉の再生はまず意識改革から」も同時策定
- 全戸に配布



「阿寒湖温泉再生プラン2010」

「阿寒湖温泉の再生はまず意識改革から」

<2005~2007年度> 第二期・再生プランの策定(プランの見直し)

- わが国を代表する温泉リゾートとして、魅力ある阿寒湖温泉を目指す。
- 基本戦略—国際化対応を重視



基本戦略1. 美しい景観・優れた自然環境を楽しむ街にしよう

基本戦略2. 阿寒湖温泉の情報を発信し、誘客を促進しよう

基本戦略3. 滞在する楽しさ!! 温泉地にしよう

基本戦略4. 楽しく、おいしく、便利な商店街にしよう

基本戦略5. 自ら阿寒湖温泉の未来を考え、行動しよう

※「目指すべき地域イメージ」や目標数値は変わらない

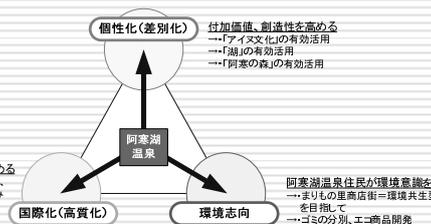


レイク・ルイーズ(カナダ)

マリンレイク(カナダ)

<2008~2010年度> 第三期・再生プランの策定(プランの見直し)

- 2000年当初想定していなかった事象や、業界・消費者志向・環境変化等を鑑み、「個性化(差別化)」「国際化(高質化)」「環境志向」を意識して、プロジェクトを構築



個性化(差別化) 付加価値、創造性を高める
→「アイ文化」の有効活用
→「遊」の有効活用
→「阿寒の森」の有効活用

国際化(高質化) 国際的にも通用する質・水準を高める
→湖岸公園、土地利用(駐車場配置)、交通システム(力強い運行)、街並み景観、案内板、緑化など
→システム(着地型、外国語対応)、ルール(路上駐車削減)

環境志向 阿寒湖温泉住民が環境意識を高める
→まりも里商店街=環境共生型商店街を目標として
→ゴミの分別、エコ商品開発

※「目指すべき地域イメージ」や目標数値は変わらない

阿寒観光協会とまちづくり推進協議会合併の経緯

●阿寒観光協会(任意法人)の概要

- 設立: 昭和24年(1949年)
- 目的: 阿寒町の観光振興
- 会員構成:
 - 宿泊施設、土産物店、飲食店、アイヌ工芸協同組合等
- 活動:
 - 観光客誘致活動(イベント・スポーツ大会の開催、修学旅行誘致活動、宣伝キャラバン隊(本州・海外)等)
 - 街並みの景観整備(現在は「花いっぱい運動」)
 - 宣伝・広告活動(パンフ・マップ作成、ホームページ)
 - 観光客へのサービス向上、ホスピタリティ運動
 - マスコミ、旅行会社への情報提供と取材協力
 - 観光関連組織との連携(負担金)
- 予算: 6~7千万円/年
- 財源: 収入BEST3
 - ①町からの補助金
 - 平成11年度3380万円→15年度2970万円
 - ②分担金1500万円
 - 会員の店舗・旅館の間口による会費
 - ③特別協賛金(旅館組合)
 - 600万円
 - ※会費(1.8万円/件×約140件=250万円)
 - その他(比例分担金、賛助会員、寄付金等)

●阿寒観光協会の課題

- ・ イベントの負担(数と期間、時期、資金、人材)
- ・ 従来の観光振興事業では観光客増加に繋がらなくなった
 - 「まりも祭り」のような伝統的な行事、旅行会社に向いている情報発信の仕方・・・
- ・ 平成15年度の職員が1名減となり、今後も増員の予定がない
- ・ 会費の未収金の増加、町からの補助金削減等、予算が逡減しており、諸事業の根本的廃止や縮小等の見直しが急務
- ・ 観光協会という組織が、現在必要とする機能：「観光まちづくりを総合的にコーディネートする機能」を果たしていない、果たせない

13

●阿寒湖温泉まちづくり協議会の課題

↑再生プラン策定時に設立

- ・ 元々活動原資がない
 - 町からの補助金と観光協会会費の時限的割り増し(まちづくり特別分担金・3年間で活動してきた)
 - いずれも平成15年度で終了する。
- ・ 阿寒湖温泉再生プラン2010の実現に向けた各種プロジェクトの推進
 - これまで比較的取り組みの遅れていたまちづくりの機能が必要とされる
 - そのため、組織の体制強化・機能充実が緊急の課題
- ・ 専任スタッフがない
 - 事務局体制の不備が課題

14

●釧路市との合併(2005年10月)を睨んだ組織のあり方

- ・ 合併後、阿寒湖温泉を代表する組織の充実・強化が不可欠
- ↓
- ・ 組織合併と法人格取得が望ましい

●新組織スタートまでのシナリオ

- ・ 2003年9月～12月
 - 2組織による合併プロジェクトにて、合併の意義、合併後の事業内容・組織・役員・スタッフ・会員(観光協会)のあり方、事業費等を検討
- ・ 2003年11月
 - それぞれの会員に合併に向けた説明文書の送付、説明会の開催等
- ・ 2004年4月
 - 各組織の総会及び合併後の新組織発足の準備
- ・ 2005年1月
 - 各組織の総会で合併決議、その後、新組織スタート

15

主な観光まちづくり事業

花いっぱいプロジェクト

- ・ 花講習会・園芸市の開催
- ・ 「阿寒湖温泉の花づくりガイド」の作成と配布(2002年度)
- ・ 日中韓観光大臣会合(観光サミット)の装花(2006年度)
- ・ 阿寒湖中数敷地内で育苗
- ・ 緑化基金の創設(2005年度)

花講習会

まりもの里 商店街の花壇

ぶらっと大賞の賞金で購入した育苗のための「耕転機」

阿寒湖温泉の花づくり
＜内容＞基本方針と推進体制
全体構想
花カレンダー
花づくり名人 等

16

人材育成と人材確保

- ・ まりも倶楽部の活躍(2002年度～) —詳細
- ・ 阿寒湖温泉VJCSの設立(2005年度～)

▶外国人観光客の誘致活動を行ったり、彼らへのホスピタリティ向上を図るために、阿寒湖温泉在住の外国人や外国語に興味のある住民などでつくれたボランティア組織。



VJCSによるハンガール語講座

- ・ ニュープラン設立(2007年度～)

▶阿寒湖温泉の将来を担う次世代まちづくり組織として、業種や組織を越えて集まった若者たちで構成され「自分たちが楽しいならば、外からいらっしやる方々も阿寒湖温泉を楽しめるはず」をモットーに、阿寒湖温泉の未来のために、自分たちが提案して、自主的に活動して行く会。

- ・ おもてなし講座の開催(2007年度) —後述(地西MG)

17

女性による活動組織「まりも倶楽部」設立(2001年度)

- ・ 活躍の場が少なかった阿寒町の女性の人材発掘
- ・ 女性の視点からのまちづくり。無理せず、楽しく、できることから。

●多様な活動を積極的に展開

- ・ 様々な観光マップの作成
 - 四季折々に手作りマップを制作(2002年度～)
 - 「あかん 食べる・買うガイド」(2002、2005年度)
- ・ 地場食材活用の料理研究
 - レシピ集の作成、試食会の開催(2002年度～)
 - 農水省主催：食のアメニティコンテスト優良賞受賞作「ヒメマスご飯」(2004年度)
 - ザリガニスープの販売(2004年度)
- ・ 釧路新聞「まりもな時間」連載(2002、2003年度)
- ・ 花いっぱいプロジェクトへの参加(2003年度～)
- ・ 携帯灰皿の作成、販売(2003年度)



まりも倶楽部の多彩な活動

18

「イオマンテの火まつり」10周年企画事業 (2007年度)

旅館組合中心から**住民の協力**も得て、一新。

- ・モンリとのコラボによる新プログラム
- ・ステージのリニューアル
- ・タイマツ行進




「阿寒の滞在プログラム」販売 (2007年度)

- ・4月から早朝ボッケ「ガイド付き森林浴ウォーク」の実施
- ・10月より「阿寒川秘境プレミアムトレッキング」を試験販売。販売促進用チラシの作成

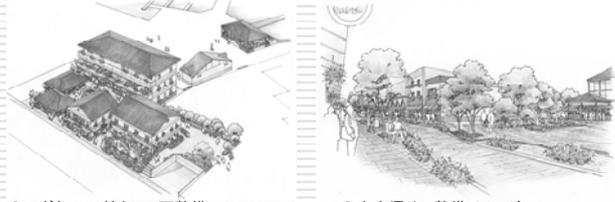
着地型旅行商品



19

まりもの里商店街整備構想・計画 (2006年度)

1. 環境共生型商店街としての取り組みを強化する
2. 色彩と素材に統一感のある美しい景観を整備する
3. 中央通りの安全性・快適性を向上させる
4. 個店の魅力を向上する
5. 商店街を組織化し、一丸となって活性化を推進する



●にぎわいの核として再整備 ●中央通りの整備イメージ

20

その他にも...

- ・足湯4カ所、手湯4カ所整備 (2002年度～)
- ・地域通貨と財源確保の仕組みづくり (2002年度)
- ・「滞在プログラムパンフレット」(2003年度 JTB旅連補助事業)
- ・「土地有効活用ビジョン」(2006年度)
- ・阿寒の森・まちづくり基金の創設 (2007年度) ...補助金の負担分に充当
 - ・3商店街、宿泊施設、観光関連業者、金融機関、交通事業者等による寄付金を元に創設



ポケット灰皿製作・販売 (150円、2003年)



観光タウン情報センター(仮)建設中 (2009年4月完成予定)



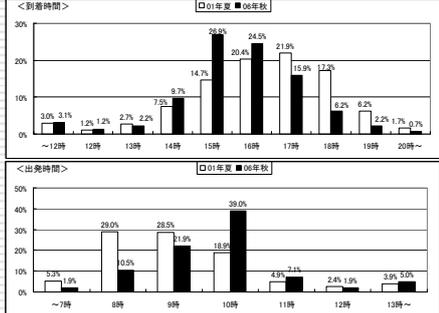
ぐるっと湯めぐり橋 (旅館組合2002年度～)

21

来訪者滞在時間調査 (2001・2006年度)

- ・ **滞在時間の変化**
<2001年度と2006年度との比較>

滞在時間	2001年度	2006年度	伸び率
1泊	16.7時間	18.2時間	9.0%
2泊	42.9時間	43.5時間	1.4%



22

阿寒湖温泉で導入した主要な補助事業

- ① 環境省・湖畔公園整備事業
- ② 国土交通省・観光まちづくり推進事業 (まりも家族手形)
- ③ 国土交通省・観光ルネサンス事業
- ④ 国土交通省北海道局・交通社会実験
- ⑤ 内閣府・都市再生事業 (温泉街まるごとマーケティングシステム)
- ⑥ 総務省(ふるさと財団)・地域再生マネージャー事業

23

①「阿寒湖岸の公園化」

目的
誰でも自由に湖と触れあえ、のんびりと時を過ごせる快適な空間づくり

展開方向
湖岸遊歩道整備、湖畔公園整備、「湖畔中央公園(仮)」の整備等



阿寒湖畔園地整備
↑整備前 整備後(2006年度) ↓

24

②「まりも家族手形 Step I」社会実験

—2002年 11月～12月

成功

- ・案内パンフレットを付けて、宿泊客に無料で配布
- ・手形持参者に対し、商店街の協賛店がそれぞれに考えた「特典」を提供



まりも家族手形

結果

- 利用者の9割は特典に満足しており、今後も8割が利用意向を持っている。
- 協賛店からは、「来店者との会話が増えた」という効果が上げられており、商店街の活性化や売り上げアップに向けて、まりも家族手形の継続を望む回答が9割を占めた。
- 手形の配布を担当した宿泊施設においては、商店街へ出る宿泊客は手形のおかげで増えたものの、自施設の売店売り上げには大きな影響はなく、協賛店同様、9割が手形の継続を希望している。

25

③国土交通省・観光ルネサンス事業

「阿寒湖温泉FVS向上プラン～来阿外国人満足度向上事業～」(2005～2007年)
- F_V_S=foreign visitors' satisfaction(外国人観光満足度)

わが国を代表する湖畔の温泉リゾートを目指し、国際化への対応を強化
外国人観光客が快適に過ごせるシステム(交通手段、情報ツール等)を整備

- <事業主体> NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構
<事業概要>
- 阿寒湖・雪と氷の温泉街循環バス運行事業
 - アイヌ文化関連情報ツールの充実
 - 阿寒湖温泉二大観光施設の外国語情報提供の充実
 - 東アジア観光客誘致商品造成強化事業
 - 来阿外国人観光客統計の充実(満足度評価システムの整備)
 - 阿寒湖温泉外国人サポーター制度の構築・運営

26

④「こちよい湖畔のんびり温泉 阿寒湖」社会実験-実施概要-

- 期間:2006年8月11日～10月15日(66日間)
- 内容:・**ボンネルフ**(一方通行)の実施
 - ・**無料循環バス**の運行 9:00～17:00
 - ・**オープンカフェ**の実施 1箇所
 - ・**コミュニティバス**の運行(住宅地～温泉街)
- 主体:NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構、釧路市、釧路開発建設部



27

⑤内閣府・都市再生事業(温泉街まるごとマーケティングシステム)

2004年度 全国都市再生モデル調査
温泉街全体の来訪者満足度調査

- ・誘客策を検討するためのマーケティングデータが皆無
- ・携帯電話を活用したインターネットアンケート調査システムの構築
- ・来訪者の特性に応じた的確な誘客戦略を実行

調査結果の活用方法

- マーケティングという発想そのものの普及啓発
- 温泉街全体の来訪者の実態と客層別のニーズ把握
- 客層のニーズに応じた誘客策の実行による来訪者の増加
- 再来訪を促す戦略(Plan Do)を本システムによって検証(See)し、実効性を高める

28

⑥総務省(ふるさと財団)・地域再生マネージャー事業

2006年度・2007年度

- ・国際観光地にふさわしい観光まちづくり事業推進マネジメント
 - ・着地型旅行の商品化に向けた支援事業
 - モニターツアーの実施
 - 人材育成・プログラムづくり支援
 - 推進体制づくり支援事業
 - ・阿寒湖温泉来訪者滞在時間調査
 - ・2010計画推進マネジメント
 - 再生プラン・第2期計画監理
 - 再生プラン・第3期計画の策定
- ・釧路市観光振興ビジョン策定事業サポート
 - ・釧路市における観光産業分析、観光経済波及効果シミュレーションに関わる作業フレームの作成
 - ・MICE推進に向けた支援
 - シンポジウム、勉強会を通じたMICEに関する意識醸成
 - 推進体制とPRツールの検討

29



後半(まちづくりに参加するきっかけについて)へ続く

30

1. 略歴

- 1956年:阿寒湖温泉生まれ
阿寒湖温泉育ち
- 1974年:東京へ(4年間の大学生生活)
- 帰阿～:家業の観光土産物店を継ぐ(～2004年)
(その間)商工会青年部、商店街事務局、花いっぱい運動 等
- 2000年:阿寒湖温泉活性化戦略会議・阿寒湖温泉活性化検討委員会・まちづくり部会幹事
- 2001年:先進地視察(カナダのバンフ、ジャスパー等国立公園内観光地)
同年:まちづくり協議会事務局次長
- 2005年:家業をたたみ、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構設立と共に、常務理事に就任(2007年:同 専務理事)

31

2. なぜ、“観光まちづくり”に関わるようになったのか

■ きっかけ

■ 温泉街のインフラ整備に、商店街として関わる

- 商店街の町道や橋などを整備する時に、都市計画の勉強をし、“バリアフリー”、“景観”などの言葉を覚えた。

■ めぐりあい

■ 「観光客が何人来れば満足するのですか？」

- ある研究機関の方に言われ、阿寒湖温泉が200万人の観光客に耐えられる程のハード・ソフトが整備されていないことを悟る。

■ 見えてきた

■ バンフやジャスパー(カナダ)視察

- 国立公園内観光地のあり方を学び、阿寒湖温泉の方向が見えてきた。

■ まちづくり協議会の事務局の体験

- 国や北海道の観光まちづくりの“指針”を理解。→我が町の無策を痛感→住民自身が阿寒湖温泉の将来をどうしたいか明確にし、行動しなくてはいけない！

32

3. 課題

■ 自身の課題

■ 阿寒湖温泉の人材育成の課題

33

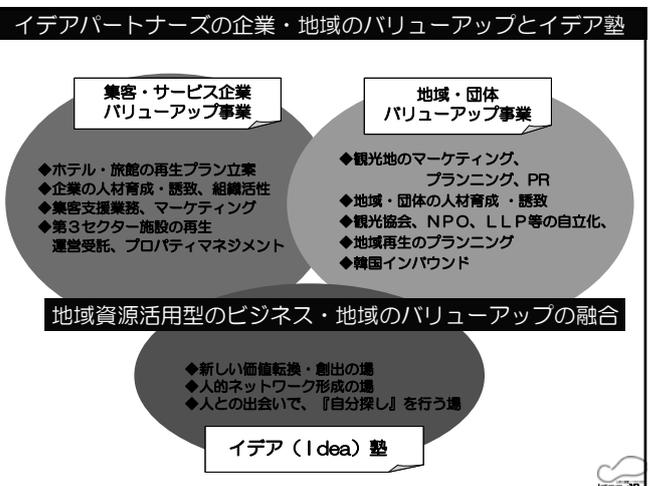
井手 修身 氏(アイデアパートナーズ株式会社 代表取締役社長)

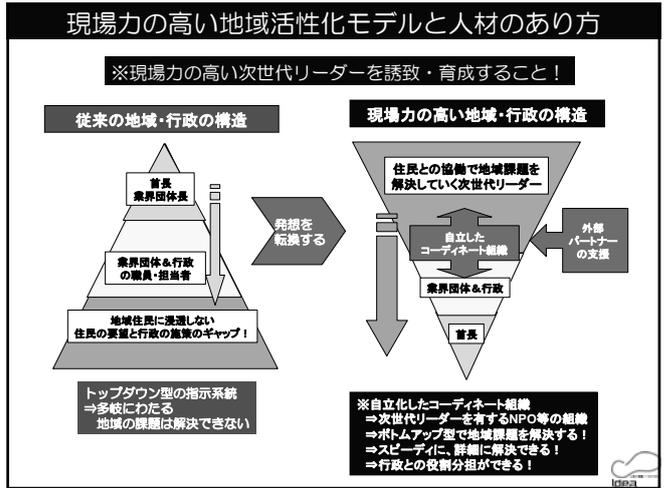
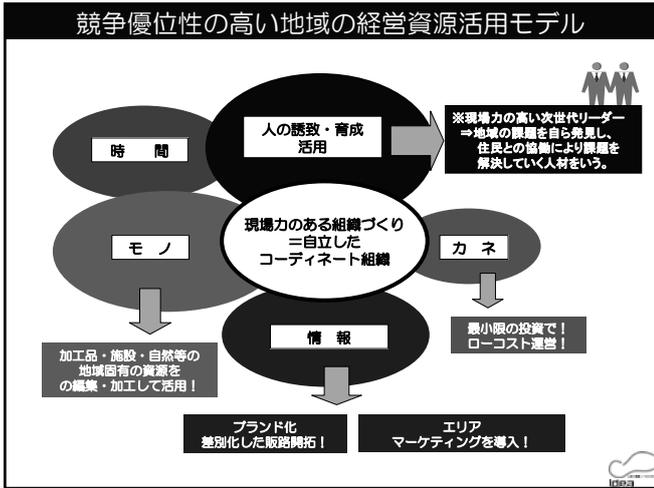
観光地域づくり人材育成
～現場力の高い地域活性化モデルと人材のあり方～

2008年6月11日



人様×笑顔×元気
Idea
アイデアパートナーズ
アイデアパートナーズ株式会社
代表取締役
井手修身





事例<長崎県波佐見町の取り組み>NPO法人グリーンクラフトツーリズム

「人材×情報」で地域観光に活力を

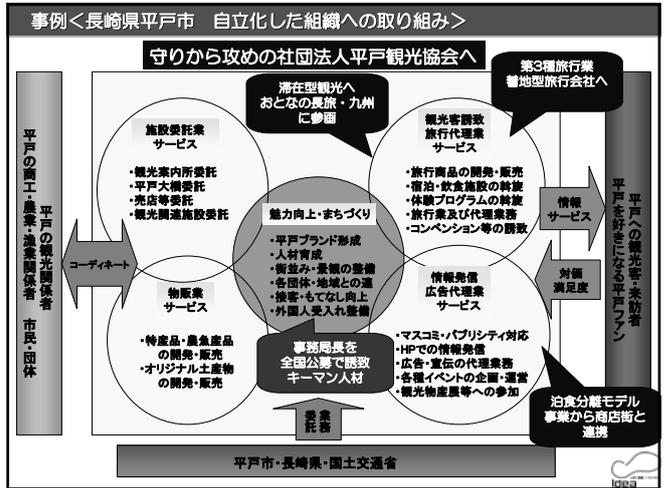
波佐見グリーンクラフトツーリズム

現場力のある組織

NPO法人を核とした地域再生
陶磁器産業の町を観光・サービス産業へ転換

NPO法人による人材の発掘・磨き上げ

窯元・工場跡を再生した
文化の陶「四季舎」



事例<九州全域 【おとなの長旅・九州】の取り組み>

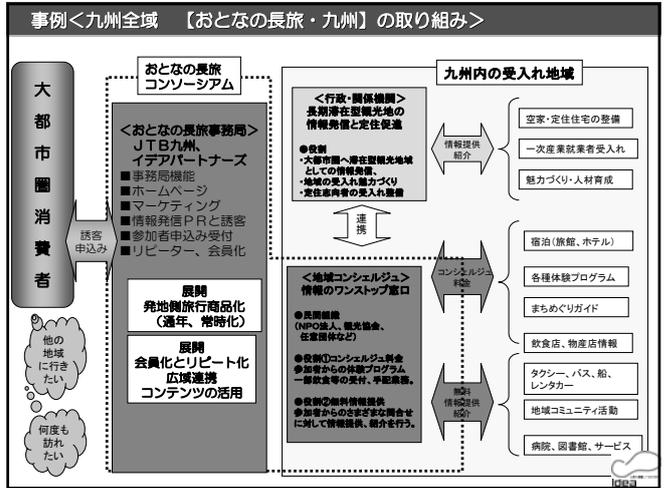
4泊5日:長期滞在:テーマ型ロングステイ

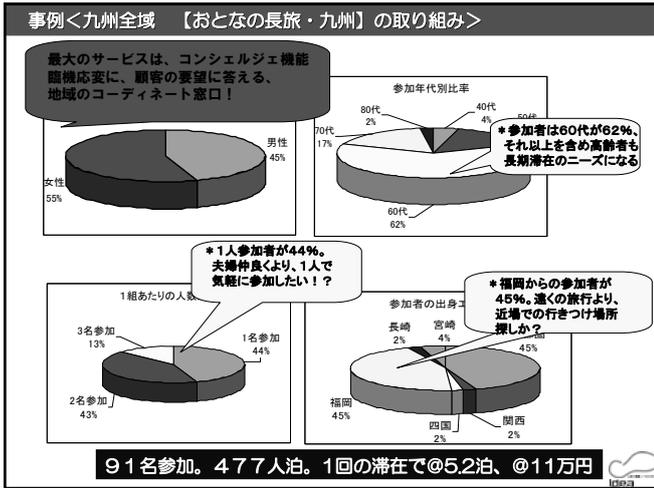
おとなの長旅・九州

阿蘇

別府

<おとなの長旅・九州コンソーシアム>
朝倉、別府、阿蘇、竹田、五ヶ瀬・高千穂
線、佐世保・波佐見・小値賀・平戸、
の各地域、九州運輸局、
JTB九州、JR九州
イデアパートナーズ





アイデア (Idea) 塾の開催

～人との出会いで、『自分探し』をしませんか～
魅力的な人との出会い、有益情報との出会いから、
自分のIDEA (アイディア、理念、目的) を広げてみませんか。
GENKI (元氣) を蓄えませんか。
あなたの新しい価値観・創造の場として、『アイデア塾』を開催します。

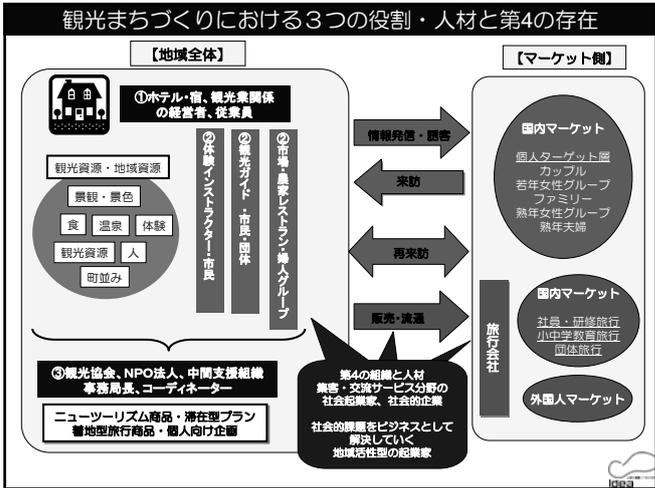
●分野は、
○宿舎生・観光まちづくり・地域活性化、
○食と農、○中国・韓国との交流、
○人材育成・教育、○コミュニケーション・元気、
○商品開発・マーケティング、○社会起業家、社会的企業 等。

- 第1回 2006. 6.
【ゲスト】 井門隆夫さん ツーリズムマーケティング研究所
【テーマ】 「旅館業と観光業界の今、これから」
～新しい観光業モデルの構築と人口減時代の需要創造に向けて～
- 第2回 2006. 8.
【ゲスト】 清水慎一さん JTB 常務取締役
【テーマ】 「観光まちづくりにおける関係者の役割」
～「観光」から「交流協働型地域振興」への脱皮～
- 第3回 2006. 10.
【ゲスト】 小役丸 秀一さん 株式会社グラ/24K 代表取締役
【テーマ】 「旅と観光の融合」
～旅館業でも飲食業でもない環境適応業グラ/24Kの展開～
- 第4回 2006. 12.
【ゲスト】 藤谷 浩介さん 日本政策投資銀行 地域企画部 参事役
【テーマ】 「人口成熟問題の地と政策」
～マスコミや学者の語らぬ基本数字とセオリー～
- 第5回 2007. 1.
【ゲスト】 石崎祥之さん 立命館大学教授 (観光マーケティング、交通論) 他数名
【テーマ】 「福岡県開港町「ぶどうの樹」で学ぶ」
「ローカル・ツーリズムを通じた地域づくりと集客サービス」

アイデア (Idea) 塾の開催

経営の実践セミナー

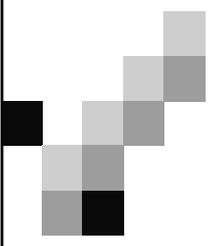
- 第6回 2007. 4.
【ゲスト】 大谷 由里子さん 有限会社志縁塾 代表取締役
【テーマ】 「相手の心を掴むコミュニケーション術」
～その言葉、口に出す前に3つ考えなさい～
- 第7回 2007. 7.
【ゲスト】 冨谷 幸治さん
【テーマ】 「まちかかわりと自分探し」
日本を代表する数々の地域活性化イベントを手がけてきたプロデューサーが語るマーケティング、イベントと「まちの活性化」(長崎さくらの事例も含む)。
- 第8回 2007/10/17
【ゲスト】 町 幸さん 九州旅客鉄道株式会社取締役
【テーマ】 「顧客第一主義を実践しよう」
～ホテル再生から鉄道、旅行会社、観光地の活性化まで～
- 第9回 2007/11/22
【ゲスト】 平田 進也さん 日本旅行 カリスマ添乗員
【テーマ】 「激速のカリスマ添乗員から学ぶ笑いと涙のおもてなし」
～2万人のファンを持つ平田流おもてなしの極意を聞く～
- 第10回 2008/01/22
【ゲスト】 田村 馨さん 福岡大学商学部教授
【テーマ】 「2008年の行方、九州の行方」
～鍵を握るのは顧客、ユーザーの立場にたてるか～
- 第11回 2008/07/22
【ゲスト】 アレックス・カーさん 日本人より日本の「美」を知っている東洋文化研究者
【テーマ】 「美しい日本を次の世代に」
～美しい日本とは、京町家再生、そして日本の観光が進む道は～
- 第12回 2008/09/26
【ゲスト】 松嶋 俊美(まつば とみ)さん (株)石見銀山生活文化研究所長
【テーマ】 まちをデザインする、暮らしをデザインする
～土地からの授かり物、「復古創新」の発想を活かす～



観光地域づくり人材育成のあり方

- ①実践型コーチング編・コミュニケーションスキルUP
 - 「観光振興」「まちづくり」分野において、住民・企業とのさまざまな関係者とコミュニケーションを如何にうまく取れるかが成功の鍵。
- ②現場第一線で活躍する講師による基礎的スキル・手法・知識の取得
 - 単なる机上の理論でない、商品開発、販売促進等のスキル・手法・知識を取得する。
- ③各人材の課題に合わせたマン・ツー・マン型
現場フィールドワーク型研修による実践活用
 - 各地域の観光振興、住民協働まちづくりの課題はさまざま。各々の人材の課題に対して、マン・ツー・マン形式で現場フィールドワークの中で、実践で活用できるものにする。
- ④九州・首都圏を中心としたまちづくりキーマン、
エージェント、国とのネットワークを活用

※地域の課題を自ら発見し、解決していく現場力の高い次世代リーダー誕生



皆生温泉における 観光地域人材育成づくり

2008年6月11日
皆生温泉旅館組合青年部
柴野裕美子

1

地域の観光資源を活用した宿泊プログラムの開発

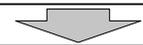
■泉質 『ミネラル豊富な塩の温泉』
～保温効果が高く、脂肪燃焼効果がある～

■立地(ロケーション)

- ①海が目の前に広がる
- ②「白砂青松」の美しい風景
- ③西日本最高峰・秀峰「大山」まで車で20分
- ④日本有数の漁港「境港」まで車で20分
- ⑤山陰観光の拠点(松江まで車で1時間、鳥取まで車で2時間)

■食材の宝庫

- ①「境港」の海の幸
- ②「宍江」「興大山」等の名水
- ③大山山麓に広がる農地で採れる新鮮な野菜や「大山地鶏」等



脂肪燃焼ソフトを核に3本の柱で健康温泉保養地づくり

旬食・旬感・皆生温泉 **スリミングステイ** ～3%美しくなる旅～

2

地域の観光資源を活用した宿泊プログラムと人材

新しい『滞在型商品』の開発に伴い、温泉地全体をあげて
「①立地を生かした現地発着ツアー商品」
「②泉質を生かした入浴プログラム」
「③地産地消の健康食」
それぞれの部門の人材育成を旅館従業員を含めて行っている

①オフィシャルツアー	②脂肪燃焼ソフト	③健康食ソフト
シーカヤック体験 ビーチウォーク 大山ぶなの森 座禅体験 下町巡り 等々	温泉の再認識 (温泉教授制度) 入湯方法 セルフエステ 体組成計	1,300kcal以下 塩分6%以下 春夏秋冬メニュー 季節ごとの旬の共通食材 栄養士と調理士のコラボ 各宿の調理士が連携

3

地域の観光資源を活用した宿泊プログラムと人材

①オフィシャルツアーの開発

◆エコツーリズム推進のきっかけ

推進母体: 大山中海隠岐エコツーリズム協議会

皆生エコツーリズム推進戦略会議が改組。
山田桂一郎氏と旅館組合青年部メンバーとの
将来ビジョンについての話し合いの中で生まれた

大山中海隠岐エコツーリズム協議会の主な構成団体

- ・大山山麓観光推進協議会
- ・山陰中央リゾート協議会
- ・皆生温泉旅館組合
- ・NPO法人大山中海観光推進機構
- ・NPO法人皆生ライフセービングクラブ
- ・鳥取県(オブザーバー)

4

地域の観光資源を活用した宿泊プログラムと人材

①オフィシャルツアーの開発と人材育成

◆エコツーリズム推進の経緯

- '06.8.3 山田桂一郎氏講演(皆生温泉)
- '06.8.18 初のシーカヤック体験(青年部とモンベル)
- '06.10.25 日本カヌー連盟公認指導員検定
- '07.3.11 大山中海エコツーリズムサミットin皆生大会
- '07.3.12 エコツアーガイド養成講座('01の1月まで2回開催)
- '07.4.9 大山中海隠岐エコツーリズム協議会設立総会
- '07.5.17 エコツアーガイドエリア講習会('011月まで4回開催)
- '07.10.21 皆生と大山、両ツアーデスクオープニングセレモニー
- '08.3.10 エコツアープロデューサー養成講座
- '08.3.12 「スリミングステイ」発表会及び試食会

5

地域の観光資源を活用した宿泊プログラムと人材

①オフィシャルツアーの開発と人材育成

◆シーカヤックプランの開発を決意

青年部が中心となり、趣旨に賛同する有志とともに
皆生レクリエーションカヌー協会を設立 ('06.11.17)

【活動趣旨】
(1)皆生温泉の活性化
皆生温泉の新しい観光メニューづくりとして、山田桂一郎氏の「皆生温泉は夏の期間しか海の活用を考えていない」という提言により、夏以外でも海を活用でき、さらに集客に結びつけるツールとしてカヤック体験を導入。アウトドアメーカーのmont-bellの協力により、13万人のmont-bell club会員を呼びこむ。



▼
フレンドエリア登録

6

地域の観光資源を活用した宿泊プログラムと人材

①オフィシャルツアーの開発と人材育成

◆シーカヤックプランの初年度の実績

【主な活動】

カヌー体験会
観光客向け体験メニュー
勉強会
関係団体との連携・交流

【構成】

日本カヌー連盟公認指導員・・・9名
(うち6名エコツアーガイド養成講習終了)
指導員候補者・・・・・・・・・・2名
(うち1名エコツアーガイド養成講習終了)
アシスタント・・・・・・・・・・6名
(うち3名エコツアーガイド養成講習終了)

昨
シ
ー
ズ
ン
2
4
0
人
集
客



7

地域の観光資源を活用した宿泊プログラムと人材

②「皆生温泉教授制度」の創設

◆皆生温泉の泉質の良さを最大限に生かす 創設の目的

皆生温泉の泉質、入湯方法、人体への効果、出の組みなどの一知識の習を行い、皆生温泉を れる方々に対するとしての ス タリティーの を図る。各旅館 ～2。

■対象 旅館主、旅館従業員、地域住民

■講座数 1年間 4講座

- 1回 温泉に関する知識の習得、皆生温泉の特徴
- 2回 皆生温泉の効果的入浴方法
- 3回 温泉の人体に対する影響
- 4回 他の温泉に学ぶ

■認定 4回受講者「皆生温泉教授」
3回受講者「皆生温泉助教授」
2回受講者「皆生温泉講師」

認定証、バッジ贈呈

8

地域の観光資源を活用した宿泊プログラムと人材

②「皆生温泉教授制度」の創設

◆創設から1年間の経緯

H19.8.26 第1回講義 鳥取大学名誉教授理学博士 吉谷昭彦氏 45名受講
演題「温泉ってなんだ!？」

H19.10.23.第2回講義 鳥取大学名誉教授理学博士 吉谷昭彦氏 27名受講
演題「温泉ってなんだ!？パートⅡ」

H19.12.14.第3回講義 日本健康開発財団調査役 矢崎 誠氏 30名受講
演題「温泉の身体に与える影響・入湯方法など」

H20.2.22第4回講義 鳥取大学医学部教授 吉岡伸一氏 28名受講
演題「温泉の身体に与える影響・医学的見地」

H20.3.18補講 鳥取大学名誉教授理学博士 吉谷昭彦氏 32名受講
演題「皆生温泉の本当の魅力」

H20.5.27補講 鳥取大学名誉教授理学博士 吉谷昭彦氏 14名受講
以上の受講歴から、温泉教授25名、温泉準教授17名、温泉講師10名の認定を行い、
バッジ及び認定証を授与した。
また、温泉教授の存在と活用方法について公式ガイドブックに掲載し、紹介した



9

地域の観光資源を活用した宿泊プログラムと人材

③「地産地消の健康食」の開発

◆管理栄養士と調理士達による研究開発

■温泉地全体の新しい将来像の周知徹底

■春夏秋冬それぞれの共通食材を設定

皆生温泉ならではの旬の食材を選定する。

■調理講習会開催

各旅館調理師のカロリーや健康に対する知識の向上。

■旅館各々に管理栄養士による個別指導

1200kcal以下、塩分6%以下。

■旅館各々が春夏秋冬ごとのメニューを開発

料理写真撮影及びお品書きが完成

平成20年3月12日には発表会を開催した



10



11

<児童・生徒による観光地域づくりへの参加に関するパネルディスカッション>

栗田 慎也 氏（株式会社ピッキオ 代表取締役）

ガイドで一番大事なのはお客様の満足度。子どもたちがガイドすることに対して、お客様の満足度がどのような形で高まるのか、興味深い。

子どもたちにとって、地域の自然とふれあうことはとても感動的な体験だ。地域に対する深い愛着を持つきっかけとなるような機会をどれくらい持てるかが大事である。

地域で子どもによるガイドを継続させていくためには、受け皿となる組織や仕組みをどうつくるかがとても大事である。

ガイドに必要な要素は、専門性、ホスピタリティ、エンターテインメント。マンネリ化を避けるためには、ガイド内容を専門的に掘り下げることに加えて、エンターテインメントの部分、特に意外性をどう演出するかがポイントになってくる。

ガイドの導入は短期的に見てもお客様の満足度向上につながる。また長期的な地域づくりの視点に立ったときにも、地域らしさをまず子どもたちに伝えていくことは大切だ。この両面において、子どものガイド養成はこれからとても大事な取り組みになる。



江崎 貴久 氏（有限会社オズ海島遊民くらぶ代表取締役、
鳥羽若女将うめの薈会会長、鳥羽市観光協会青年部副会長、旅館海月女将）

“高校生ガイド”はプロのガイドと子どもたちのボランティアガイドの中間的な位置づけになる。お客様側からすれば、お金を出す以上プロフェッショナルであることを求めるが、大人とまったく同じようにはできない。プロのガイドのフォローがあれば、「地元愛着を持った高校生がガイドする」ということが付加価値になるのではないかな。

お客様とガイドの関係性はひろがりつつあって、様々な関わり方が考えられるのではないかな。ボランティア活動をするために旅行するのと同様に、地域の人材育成に関わるために旅行する、ということも今後あるかも知れない。

繰り返し利用して下さるお客様を見ると、プログラムのリピーターというよりも、特定のガイドのリピーターという方が多い。子どもによるガイドでも、このお子さんに会いたいというお客様が増えればよいのではないかな。

子どもは子どもの気持ちが分かるはず。子どもが大人をガイドするだけでなく、子どもが子どもをガイドするという取り組みも輪を広げる上で大切ではないかな。



松本 正光 氏
(北条まちづくり協議代表)

子どもたちは地域のボランティアガイドから指導を受けている。まずは自分たちの地域を知り、それを町の人や来訪者に自分たちの声で伝えようということで、特に観光ということ意識しているわけではない。

ガイドを受けた方からお礼状が届き、子どもたちが返事を書くこともある。そうしたやり取りの中から子どもたちは成長している。

学校、地域、父兄、行政が関わって子どもたちのやる気を起こすような環境づくりを行うことが大切。たとえばマスコミが取り上げてくれるだけでも違ってくる。

総合的な学習の時間等に子どもたちが校外で活動していると、地域住民から何をしているのかと声がかかり、子どもたちもそれに答える。こうしたやり取りの積み重ねで子どもたちだけでなく地域の人たちの意識が変わることも、取り組みの成果の一つではないか。

ガイドの申し込みは観光協会が窓口になって集約し、学校行事との調整もした上で日程を確定する。基本的には土日と夏休み、冬休みのみの対応になる。

子どもたちも大人のガイドのアドバイスを受けてガイド内容を少しずつ更新する工夫をしており、これがマンネリ化を避けることにつながっている。



岡本 純一郎 氏
(広島県廿日市市立宮島小学校・宮島中学校 教諭)

子どもたちが行うガイドは、その熱心さからお客様の満足度は非常に高い。その後も子どもたちとお客様の間でメールのやり取りに発展することもあり、子どもたちにとっても励みになっている。

廿日市市立宮島小、中学校では県立広島大学や芸能保存会と連携している。子どもたちの活動に継続的に注目して支援してくれる地元の団体は、一番頼りになる存在だ。

宮島は小さい町だが、それゆえに観光協会、土産物屋など様々な関係先に子どもたちの保護者が勤務していて、ガイドの取り組みを支えていただいている。

子どもたちが作ったビラや、中国運輸局の支援を受けて作成したポスターで情報発信している。ビラは6~8年生が呼び込み隊になり、栈橋付近で配布している。

この取り組みを通して、宮島を愛し宮島を伝えていけるような人づくりを進めていきたい。



山田 桂一郎 氏

(JTIC.SWISS 代表／観光カリスマ)

これまでは観光、学校教育、地域づくりの3者がそれぞれ希薄な関係であった。ここに「児童・生徒による観光地域づくり」という考え方を持ってくると、3者の関係性がぐっと近く、強くなる。将来性ある観光地域づくりや継続的な人材育成など永続可能な「感幸・かんこう」地域としての未来像が見えてくる。

また、子どもたちの豊かな感性が地域の多様な可能性を引き出すことにもなる。そして、子どもを中心にした取り組みを通じて親も変わっていく。親だけでなく地域の大人たちが変わっていく。そして子どもたちが10年後、20年後には地域の主体になっていくことで地域が激変する可能性がある。

更に、子どもたちの取り組みは地域を一つにまとめるための有効な横串になる。環境への取り組みと基本的に同じであるが誰もが表立って反対することが出来ない。地域のエゴと利害関係を封じ込めることも可能なのである。この事業を通して起こり得る変化や二次的、副次的効果の意味を十分に意識して頂き、まずは行動してみて欲しい。



総括 (国土交通省 観光資源課長 水嶋 智)

本日のパネルディスカッションを通して、具体的な検討テーマをいただいたことを感謝したい。論点をあらためて整理して、皆様にもフィードバックさせていただきたい。

各地域と国との間で、双方向に情報の格差があることが分かった。地域には支援制度等に関する情報が届きにくく、国には各地域の取組状況や本当の悩みが届きにくい。「観光地域づくり相談窓口」という仕組みもあるので、双方向のコミュニケーションをより密にしていきたい。

今回のシンポジウムを一過性のもので終わらせないため、地域の皆さんと議論する場を設けるなど、次のステップにつなげることを考えていきたい。

< 児童・生徒による観光地域づくりへの参加に関するパネルディスカッション資料 >

桑田 慎也 氏 (株式会社ピッキオ 代表取締役)


桑田 慎也
1

 picchio WILDLIFE RESEARCH CENTER ピッキオ/ワイルドライフリサーチセンター
2



<h3>ピッキオの企業概要</h3>	
・ 創立	1992年
・ 法人	株式会社とNPOの併設
・ 年間顧客数	20000人 (一般・団体)
・ スタッフ数	(2008年4月) 14名
・ 多彩なスタッフ	
-	インタープリター調査・研究者
-	野生動物の保護管理専門家
-	プロカメラマン
5	

<h3>ピッキオの事業理念</h3>	
<p>「森本来の姿を経済的な価値として高く評価 できれば未来に森を残していける」</p>	
	
<p>ビジネスという手段で、 森や野生生物を守っていく</p>	
6	

私たちが考えるエコツーリズムとは

(地域が持続可能な観光のあり方)

すでにある自然、文化、人々の生活など地域資源を活用し、その魅力を引き出し、演出させていく

エコツアー事業

それらの魅力を地域と連携し維持管理する仕組みが備わっている。

保全事業

地方の経済振興

地域資源の保全

地域コミュニティの形成

7



クマの捕獲と追跡調査

発信器の装着

ロケーション(位置確認)



軽井沢野鳥の森 ネイチャーウォッチング

軽井沢を訪れる観光客に「生き物ってすごい！」を伝える
自然体験型 アミューズメント



学校団体の環境教育事業

11



エコツアーガイド養成事業

- 東京都小笠原自然ガイド認定講習
- 屋久島ガイドセミナー
- 茨城県行方市 観光コンセプト策定

12

こどもパークレンジャー



- レンジャーの仕事を地元の子供たちが職業体験
- 子供たちは発信器付きのクマを探してみたり、冬眠穴に入る体験をします

13



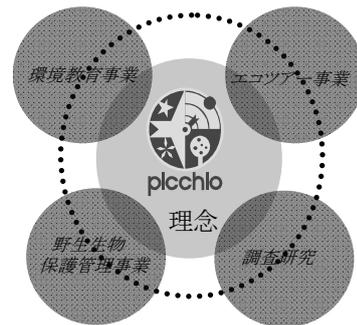
軽井沢高校との取り組み

尾瀬高校との取り組み



15

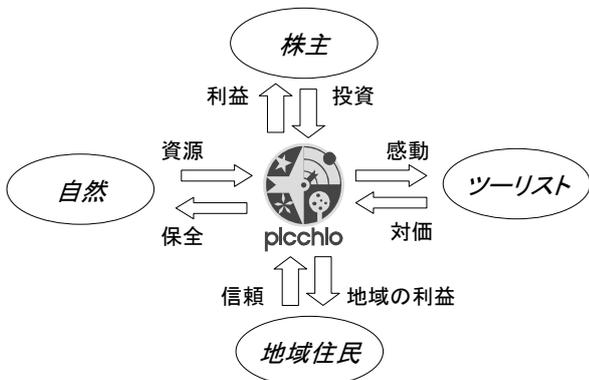
ピッキオの事業概念



軽井沢の森の保全に貢献するビジネスの実践

16

ピッキオの目指す持続可能な仕組み



17

エコツーリズムの役割

- ・地域の魅力を引き出し→ガイドの役割
- ・競争力維持のためには、他地域と差別化し、地域らしさを活かした観光を実現する必要

エコツーリズムの考えなくして、地域の観光はありえないのでは？

18



サステナブルな観光地域づくり

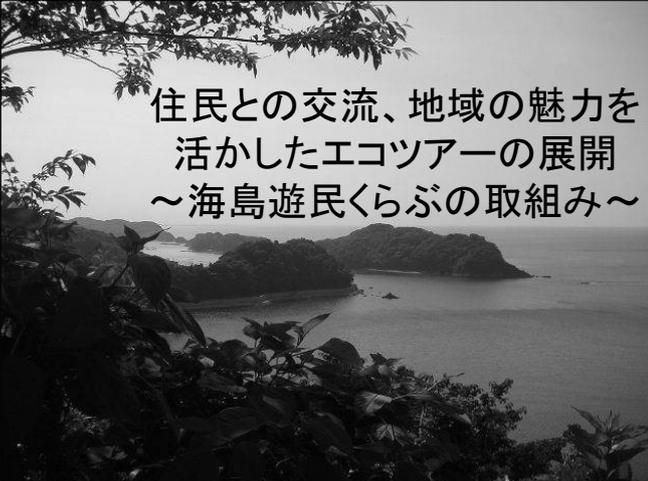
- 地域の魅力の資源化
- 地域の人材育成



ありがとうございました。

20

江崎 貴久 氏（有限会社オズ海島遊民くらぶ 代表取締役）



住民との交流、地域の魅力を
活かしたエコツアーの展開
～海島遊民くらぶの取組み～



三重県鳥羽市

鳥羽駅周辺 



鳥羽の風景 



鳥羽の風景



鳥羽の風景



鳥羽の風景



海島遊民くらの概念 エコツアー

「素敵な自分を見出す島の旅」
大人を休む日、大人になる日

自然も人も、知らない何かの
発見を通して、自分自身の素敵さを
発見する。

主な評価・受賞



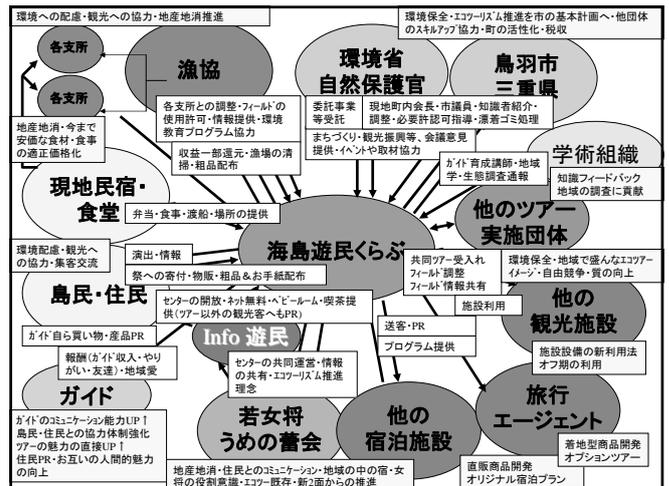
- 「島からのおくりものツアー」
「無人島たんけんツアー」
「島の裏側たんけんツアー」
がグッドエコツアーに推奨！
(NPO法人エコツーリズム協会)
- スタッフ中、3名が全国「このガイドさんに会いたい
100人」に選定！
- 第2回環境省エコツーリズム大賞特別賞受賞！
- **第3回環境省エコツーリズム大賞
優秀賞受賞！**

主なツアーメニュー

- 島たんけんツアー(無人島・島の裏側)
- 海藻の森たんけんツアー(シュノーケル)
- 島からのおくりものツアー(ウォーキング)
- 砂浜ランチツアー(ウォーキング)
- 蛍・海ほたる鑑賞とワインを楽しむツアー
- 海ホテルと4億年のタイムスリップ！
- つりざお片手に路地裏おさんぽツアー
- 伊勢海老お料理大学

また来たい！会いたい！ガイドさん

- 前もって、調査や研究をする。
- メンバー全員共通で伝えたいことはなに？
- あなたが今日、このガイドで伝えたいことは？
- ガイドの個性とチームワーク
- お客様・住民・ガイド・資源(歴史文化・財・自然)、この4者に優しい利用の工夫



お客様にとって地域にとって 必要なガイドになる。

- ☆観光による環境負荷の軽減
- ☆参加者への環境教育での社会貢献
- ☆鳥羽の観光の質の向上
- ☆集客交流
- ☆新しい雇用の場
- ☆地元への経済効果



高校生・子どもガイドの効果

以前6年前に鳥羽小学校の協力のもと、モニターツアーに参加した地元の子どもからガイドになりたいという少年が現れた。現在17歳。高校生の育成には、大人のガイドの何倍も体力と時間がかかる。



当時鳥羽小学校6年生



現在、高校3年生

海島遊民くらぶ内では……

- 社会生活の模範を示そうとするスタッフの精神的な向上
- ガイドとしての模範を示そうとする知識的・精神的な向上
- 指導される立場のスタッフが指導者に成長。
- そのための指針とプログラムを作成。
- スタッフ同士の協力体制と団結力。

地域では……

- 若女将会を中心に自分の子どもたちなど次の世代に希望を持ち、今まで自分本位だった経営への義務感が、自分たちの存在価値へと変わった。
- 地域の将来が明るく見える。
- 学校の協力の姿勢が大きく見えるようになった。

インフォメーションセンター遊民

うめの薈会
鳥羽を元気にしようと活動中の美人若女将会

インフォメーションセンター遊民

海島遊民くらぶ
エコツアーの企画・運営



女性の目線・一般主婦の目線で、町に必要なものを提供

インターネットの無料解放

ベビールーム設置

鳥羽の若女将たちが自信を持ってご案内できるお店やスポットの紹介ボード

【若女将への効果と意義】
顔出し→言ったことへの責任
外国語への対応→努力の先頭に立つ姿勢

鳥羽若女将うめの薈会



京都薬科大後藤先生指導
やまとたちばな屠蘇散作り

京都 漆器のアソベ 遊部氏協力
パリフリ漆器開発

鳥羽若女将うめの薈会



外客用MAP作成

鳥羽磯部漁協食材提供&うめつぼ指導
地産地消！キッズクッキング

鳥羽若女将うめの蓄会



仕事後、深夜の勉強会



東京・大阪のプレス懇談会
旦那衆に代わって！



集客目的ではない住民との交流

海島遊民くらぶ&うめつぼで進めるエコツーリズムの事業

海に優しい商品の推進

下水道整備が整っていない鳥羽では、事業者以外には下水がそのまま海へ流れだしている。そこで、環境負荷のほとんどない漁協の販売する洗剤「わかしお」の使用を推進



- ・うめの蓄会→観光事業者・旅館事業者へ
- ・海島遊民くらぶ→Info遊民から
一般市民へ発信と販売

漁協と観光業者を結びつけ、同じ目的に向うための事業にしたい。
だから、あえて、「わかしお」

地域の人材育成にとって大切なこと 指導されていた立場から、 指導者へステップアップさせる！

次は、自分たちの町は、自分たちで受け継ぎ、再建していく
仕組みと体質を作ること→魅力と活力の持続する地域

松本 正光 氏（北条まちづくり協議会 代表）

北条まちづくり協議会

「子どもたちと連携した継続性のあるまちづくり」

将来の地域づくりの担い手の育成



活動のねらい

登録文化財 高井家

駅ロータリー

行政と住民が連携しながら、
歴史・文化遺産を生かしつつ、
景観・環境づくり、防災意識の向上を図り
まちを愛する人たちの心を豊かにする
人権文化あふれるまちづくりを推進していく。

南町ポケットパーク



宮前町 防災訓練



防災学習
一時避難案内板学習

協議会が目指すもの

- ①花あふれる、みんなが愛し、誇りをもてるまち、安全への日頃の備えも忘れない
"西国街道 北条の宿"。
- ②子どもたちと連携した取り組みは、子どもたちが地域に愛着を抱きまちづくり後継者育成に繋がる。
- ③「住みつづけたいまち、住みつづけて良かったと言えるまち」心のふるさちづくり。



環境学習 まちの下水道

協議会主活動

①イベント

- ・H16/7 住民への報告会
- ・H17/5 第1回「北条の宿を謳う！」展
筆と和紙で北条の宿を表現
- ・H18/4 第2回「北条の宿を謳う！」展
江戸末期～昭和初期生活道具、まちなみ今昔(写真)
- ・H19/5 第3回「北条の宿を謳う！」
すずむしの音色をまちなみに
- ・H20/2 第4回「北条の宿を謳う！」
子どもまちなみ絵画展

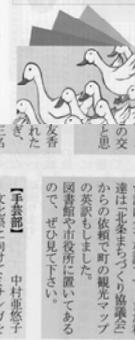


③ 広報

- ・「防災マップ」
H16初版・H17改版 各 3,000部
- ・「西国街道 北条の宿」観光パンフレット
H16初版・H18改版 発行 各10,000部
- ・「西国街道 北条の宿」英訳初版H19 3,000部
北条高校生ESSクラブ英訳



北条会報



- ・「西国街道 北条の宿」中国語訳H20 計画 3,000部

子どもたちと進める継続性のあるまちづくり活動

まちづくりの主役は、
ややもすれば大人を対象にすることが常であるが、
次世代を担う子どもたちを参画させることを
忘れてはならない。

なぜならば、
10年後まちづくりの中心になるのは間違いなく彼らである。
又、子どもたちとの連携した取り組みは、
子どもたちがわがまちを愛する地域教育にも繋がり
子どもたちの心にアイデンティティを育むことになる。

- ①対象 北条小学校児童数3～6年生350人／500人

- ②総合的な学習 14回／年 60～90分/回

③学習目的

- ・自分たちのまちのしきみを知り、まちの魅力・誇りを肌で感じ体験する。
- ・教科書で学習したことをまちの中に当てはめて習熟度をさらに高める。
- ・次世代にまちづくりの中心になる子どもたちに活動を通して地域教育に繋げる。

環境(下水道)学習



北条小歴史ガイド隊



ふるさとの歴史を体感し、伝える天使



北条まちづくり協議会 北条小学校との連携活動 2008.4.16

学年	NO	項目	11月7日	11月14日	11月21日	11月28日	12月5日	12月12日	12月19日	12月26日
3年生	1	大分県立美術館								
	2	北のまちづくりを学ぶ ふるさと学習	11月7日	10月24日	11月7日	11月				
	4	お泊り体験コース習熟体験		12月6日	12月13日	12月20日	12月			
	5	歴史・関心づくりを 歴史教育体験・歴史学習学 習・まちづくりを 学ぶ文化祭参加費等 補助費等費・まちづくり	1月18日	1月24日	1月29日	1月				
	6		2月7日	2月13日	2月					
	7				11月21日	11月28日				
	4年生	1	自然環境 磯崎キッズ	6月17日	6月24日	6月31日	6月			
2	歴史の百景鑑賞	10月6日	9月28日	10月5日	9月、10月					
3	食と健康 (まごころはち)		10月13日	11月14日	11月					
4	昭和記念館に 行く		10-12月	11月28日	11月					
5	ひょうたん園遊園地 見学			11月29日	11月					
5年生	1	歴史 下見遊園地	6月27日	6月27日	9月3日					
2	歴史ふれあい館見学 歴史・関心づくりを 学ぶ文化祭参加費等 補助費等費・まちづくり	11月18日		5月2日	5月、10月					
3										
4	竹とんぼ作り			6月14日						
6年生	1	ふるさと史書発見の 旅	2月24日	10月4日						
2	ふるさと史書発見の 旅 文化を 楽しむ活動			2月9日- 2月17日						

結 論

・北条まちづくり協議会では、
総合的な学習のコーディネイトを行ってきた。

子どもたち
自分のまちに魅力・誇りを抱いた姿が
学習後のミニ新聞作成、関係者へのお礼の手紙から
まちへの想いが伝わる。

地域にも
子どもたちの学習を知る機会を作り、
関係機関(行政等)・地域住民が学習に
参画する効果を生んでいる。

体験活動には
必ず子どもたちとその内容により様々な大人との
出合がある。両者には「人権」が根底にあり、
ふれあうことで人権意識が芽生え、育つ。
まさしく両者にとっての「心づくり」の場である。

課題は！
教育方針の変化である。
総合的な学習時間減少時に
子どもたちと校外体験活動を通して
如何に連携を図るかである。

子どもたちが学んだことを
地域に結びつけ
歴史、文化・環境、景観
・防災・福祉を体験する
北条まちづくり協議会の試みは
変わらないだろう。

教科書で学んだことは「頭」に残る。
手で、肌で触れ、体験したことは「心」に残る。

残してやりたい「ふるさと」を
子どもたちの「心」に。



子どもたちと連携した活動は、
スタートから4年目を向える。
今後も、子どもたち・関係機関と連携した
継続性のあるまちづくり活動を推進していきたい。

観光地域づくり人材育成シンポジウム
宮島小中学校・宮島中学校の取組み
平成20年6月11日(水)
於：三田共栄会議所1階講堂
東京都港区三田2-1-8

廿日市市立宮島小学校・宮島中学校の紹介
年間約300万人が訪れる国際観光地
平成20年度から小中一貫校に！！
文部科学省の研究開発学校
県立広島大学との連携

4年前の生徒実態

宮島を誇りに思える生徒の育成

- 宮島のことを誇りに思うと答えた生徒 60%
- 大人はなくても宮島に住みやすい
- 宮島へ行くイメージがよい（友人・友達）
- 神社や鳥居など古い文化財が多い。
- 不便である。

小中一貫教育として

- 小学校段階から社会見学や宮島の伝統や文化に触れる学習を実践。
- 5年生から県立広島大学と連携した、「宮島学講座」により、宮島の伝統や文化への理解を深める。
- 8年生では宮島英文パンフレットの作成や修学旅行先の京都での宮島アピール

宮島に役立つことはできないだろうか？

ボランティアガイドのスタート

- 中国運輸局からビジットジャパンのキャンペーンとして
- 広島通訳・ガイド協会の協力の協力
- 生徒に呼びかけて

ガイドに必要な情報や技術を収集

日本人には詳しく
外国人には単純に！！

- 地域の観光ガイドの方からガイドのポイントを学びます。
- 宮島学講座で平家琵琶奏者の荒尾努さんから宮島と平家のつながりを学びます。

まずは日本人ガイドから



リハーサルを行い課題を見つけ解決します。

- ・声が小さい。
- ・もっと笑顔で
- ・観光客へもっと呼びかけよう！！



○ いよいよ本番！！

- ・大鳥居が壊れた原因は？
- ・千畳閣にあるいたずら書きで一番古いのは？
- ・大鳥居の柱と柱の間には板が何枚あるの？

日本人ガイドを通して

宮島について詳しく調べることができた
拍手してもらったり、ほめてもらいうれしかった
宮島がすごいところだと実感した



国際ガイドに向けて！！



○ 海外からこられる人は何を期待しているのだろうか。

- ・宮島ではどこを観光しましたか？
- ・困ったことはありませんでしたか？
- ・宮島の印象は？



○ プロのガイドの方から国際ガイドのポイントを学ぶ。

- ・宮島のよさを簡単に伝えよう
- ・大きな声で笑顔で
- ・サンキューを忘れずに！！

宮島の特色を生かしたボランティアガイド



今年度は、初めて和服を着てガイドに挑戦しました。宮島芸能保存会の方の協力をえて、和服の着付けも学びました。ガイドが和文化を学ぶきっかけになっています。

ガイドの合間に宮島踊りを披露し、宮島のPRを行いました。宮島学講座での「宮島踊り」がガイドに生かされています。

これからのボランティアガイド



○ 8年生もガイドに協力した。

- ・ガイドを紹介するピラの作成
- ・ガイド用使が紙芝居の作成
- ・観望者の声かけ

○ 6年生も取り組みを視学

- ・小学生も将来自分たちが取り組む内容として自覚

学習の成果



- 地域の行事へ年一回以上参加する中学生割合が100%！！
- 宮島のことを誇りに思うと感じる小学校5年生以上の児童生徒約80%
- 海外の人と積極的に関わりたいと感じる小学校5年生以上の児童生徒の割合が約95%！！



3 全国アンケート調査

3-1 調査の概要

各地で取り組まれている「児童・生徒によるボランティアガイド」の実施状況を把握することを目的として、全国の行政や観光関係団体等 3,357 団体に対してアンケート調査を実施した。

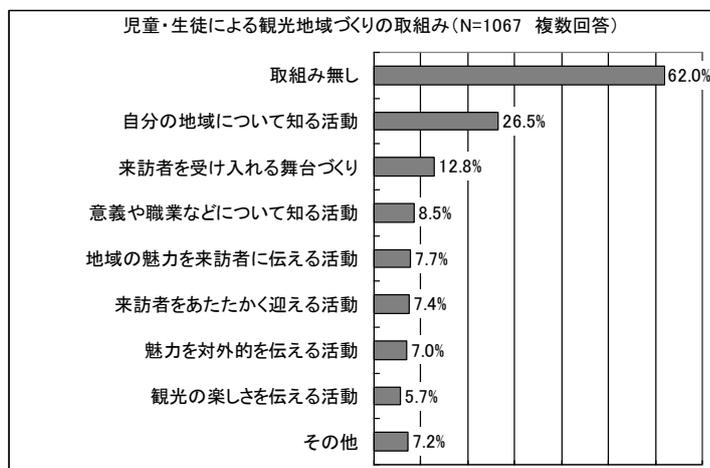
送付先	都道府県、同観光連盟（観光協会）、市区町村同観光協会、 商工会議所等 3,357 団体
調査方法	調査票郵送記入式
調査時期	平成 20 年 11 月 18 日～平成 21 年 1 月 30 日
回収状況	1,235 団体（回収率 36.8%）

調査結果概要

- ◇ 「児童・生徒による観光地域づくりの取組み」については、「取組みなし」が 62.0%と最も多く、今後、取組みの拡大に向けた施策が必要であることが明らかとなった。
- ◇ 今回の調査の目的であるガイド活動など「地域の魅力を来訪者に伝える活動」の実施については、7.7%と限られた地域での取組みとなっている。
- ◇ 「児童・生徒によるガイドに取り組む意義」としては、「自分たちの地域について学習するという点」の回答が最も多く、コメントでは、教育の観点からも児童・生徒の地域学習に対する期待が伺える。「児童・生徒によるガイドの取組みを進める上での課題」としては、「観光・教育分野の主体の連携」の回答が 38.4%と最も多い。
- ◇ 「児童・生徒によるガイド等の取組みを進める上での要望」では、「教育分野との連携のサポート」、「資金的補助」、「ノウハウの共有」が挙げられている。

3-2 アンケート調査結果

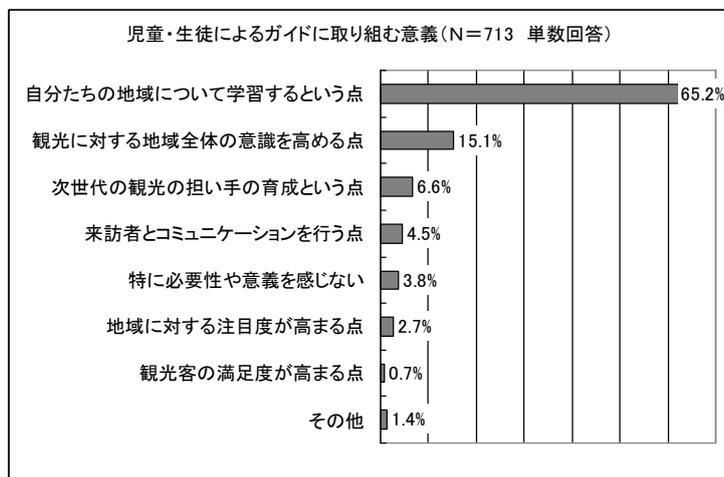
① 児童・生徒による観光地域づくりの取組み



【その他】の記述

- ・観光キャラクターや新商品の開発案の発表（広島県・呉市産業部観光振興課）
- ・宮城県一迫商業高等学校が栗原市の食材を使用した弁当を市内企業と協力して考案し駅や物産イベントで販売（宮城県・栗原市産業経済部田園観光課）
- ・島の特産品の開発（愛知県・一色町建設経済部産業振興課佐久島振興室）

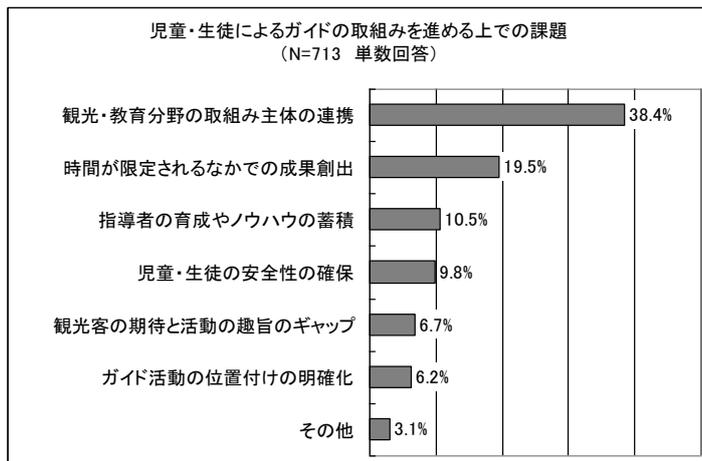
② 児童・生徒によるガイドに取り組む意義



【その他】の記述

- ・子どもたちの観光力を育成することが全てを良くする（徳島県・東みよし町商工観光課）
- ・教育観点からの地域学習は必要と思われる（山口県・周南市観光協会熊毛支部）
- ・地域の児童は1人でたくさんの活動をこなす多忙（福島県・只見町観光まちづくり協議会）

③ 児童・生徒によるガイドの取り組みを進める上での課題



【その他】の記述

- ・具体的な企画と実行主体の能力に関する課題（岐阜県・美濃加茂市観光協会）
- ・先生方の関わり方と理解（兵庫県・多可町産業振興課企業立地室）
- ・教育カリキュラムとの調整（北海道・釧路観光協会）
- ・教育委員会がリードしないとうまくいかない（新潟県・加茂商工会議所中小企業相談室）
- ・継続することは不可能だと考える。（児童・生徒が継続で行うものではない）一時的にも人と接することや地域を知ることにより意義を感じる。（宮崎県・日南市商工観光課）

④ 児童・生徒によるガイド等の取り組みを進める上での要望

（教育分野との連携に関して）

- ・授業の1つとして明確化しないと授業の他の行事も行っている教育機関は困難（高知県・東洋町産業建設課）
- ・教育要綱などに地域学習の項目を盛り込み児童・生徒に学習機会の場の提供を図ってほしい。職場体験などの推奨により観光産業やそれに類する分野への理解を深めてほしい（長野県・下諏訪商工会議所）
- ・学習する上で授業の一環として時間を特別に設けることや観光と教育の連携が円滑になるように自治体などの積極的な取り組みや周知が必要（青森県・鱒ヶ沢町観光協会）
- ・各学校で郷土の歴史を学習していることは知っているが活動が教育現場だけで完結しており、地域振興と連動していない。公的機関に両者の橋渡しをして欲しい（岩手県・奥州市世界遺産ガイドの会）

（資金面に関して）

- ・資金面でのサポートプログラム、広く門戸を開き情報収集や学習の機会を提供すること（岐阜県・美濃加茂市観光協会）
- ・経費などの財政的支援が必要である（福島県・田村市大越行政局産業建設課）
- ・自主財源で賅っている部分多いのでこのような活動育成の補助事業を新設すべき（鹿児島県・西之表市経済観光課商工観光係）

（ノウハウに関して）

- ・児童・生徒にガイド等を指導・養成する機関と人材（ガイドセンター）をバックアップして欲しい。（財政的な援助）子どもたちを育成してゆく場が少ない（北海道・摩周湖観光協会）
- ・児童生徒の活動を考える場合、学校等教育関連機関などへの申請許可などが現状ではかなり厳しくなっているとも聞きます。実動として（授業などの体験として以外）は、難しいのでは。（安全面など社会的に）現実的な方法の指標があると良いと思います（山口県・柳井市観光協会）
- ・人材育成等で取り組んでいる先進地域の紹介や情報提供など（岐阜県・大垣商工会議所中小企業経営指導相談所）
- ・現状で当地域内では行っていないが、実際に行なっている地域などで危険な事例は無かったのか心配である。児童・生徒たちの活動中の安全確保への対策は規制を設けるなど万全を期した上で行われるべきだと考える（秋田県・秋田白神ガイド協会）

⑤ 児童・生徒によるボランティアガイドの活動事例

都道府県	事業名称	実施主体	事務局	取り組み状況
北海道	目指せ！小学生観光ガイド	札幌市立緑丘小学校	札幌市立緑丘小学校	札幌市内の観光施設の歴史や見どころを調べてガイドブックを作成し、それを元に観光施設で観光客のガイドを実践する
北海道	常呂高等学校ボランティア局 ワッカ原生花園等観光ガイド	常呂高等学校ボランティア局	常呂高等学校ボランティア局	ワッカ原生花園及び常呂遺跡の森での観光ガイド
北海道	てしかがジュニア自然ガイド	てしかがえこまち推進協議会 人財部会	てしかがえこまち推進協議会事務局 (弟子屈町観光商工課内)	摩周湖交通実験時 摩周湖での定点ガイド(8月下旬終了済)・硫黄山での定点ガイド(来年1月下旬に2回目を実施予定)。定点ガイド本番までに体験観光をしガイド内容を自分たちで考える
青森県	奥入瀬渓流エコツアーリズムプロジェクト	奥入瀬渓流エコツアーリズムプロジェクト実行委員会 (県、市、観光協会、NPO法人が)	(社)十和田市観光協会	青森県立十和田西高等学校生徒が溪流ボランティアガイドウォークに協力
岩手県	平泉中学校	平泉中学校	平泉町教育委員会	いわてコミュニティ・スクール事業で世界遺産にちなみ実践活動を行い平泉を認識し来る観光客のもてなし活動
山形県	東沢バラ公園1日ボランティアガイド	村山市ボランティア協会	村山市商工観光課	村山農業高校の生徒が東沢バラ公園のバラまつり期間に1日ガイドを行う。ガイド講習会として事前にボランティア協会の会員から高校生に公園の概要ガイドの仕方を教える
福島県	福島小学校ボランティアガイド	雛の里八女ぼんぼりまつり実行委員会	八女市商工観光課	「雛の里・八女ぼんぼりまつり」において地元小学生のボランティアガイドの実施
千葉県	ボランティア通訳ガイド	千葉県立成田国際高等学校		「成田太鼓祭」「成田弦祭」において外国人の方への声かけ、通訳・案内等を行っている
神奈川県	親善都市子ども交流事業	湯河原町親善都市子ども交流事業実行委員会	湯河原町教育委員会 社会教育課	親善都市子ども交流事業において来町した子どもたちに当町の子どもたちが観光ガイドを行った。事業前にそのための学習会を行った
石川県	やまなかチャレンジクラブ	山中児童センター		①「お散歩号」に乗ってガイドボランティア②お達者クラブの方々と桜公園で観光客にお茶を振る舞う③山中老人センターの民謡会の方々と山中節の学習
長野県	こども桜ガイド	飯田市座光寺公民館	飯田市座光寺公民館	麻績の里の桜まつりに合わせて舞台桜、石塚桜、舞台校舎、竹田人形館等の観光スポットを小学生のボランティアガイドが案内する
岐阜県	史跡ガイド	ボランティア歴史ガイド、駅前街角案内ボランティア	関ヶ原町教育委員会	小・中学校を対象に町の古戦場の案内養成
岐阜県	高山市立北小学校(6年生)	高山市立北小学校	高山市立北小学校	6年生の子ども達がグループに分かれて高山市内の観光スポットで観光客を相手に観光案内を実施
静岡県	初島小中学校島内観光案内	熱海市立初島小中学校	熱海市立初島小中学校	来島者(観光客)への島内案内
愛知県	別子銅山について学ぼう	愛媛県立新居浜南高等学校情報科学部		HPあかがねの里別子銅山へ、別子銅山近代化産業遺産 八十八カ所ふれあいめぐりあいガイドブック作成、別子銅山学習ビデオ作成、観光施設「マイントピア別子」においてボランティアガイドを実施
三重県	中学生ボランティアガイド	松阪市教育委員会文化課	松阪市教育委員会文化課	事前に講習を受けた後、常設展示を来館者1名ずつに解説。職員手づくりの古墳時代の装束で説明
京都府	宮津市立府中小学校		宮津市立府中小学校	児童が添付のパンフレットを手書きで作成し地元の土産物店に置き、観光客を中心に天橋立周辺を紹介する
兵庫県	奥銀谷小学校生野銀山ボランティアガイド	奥銀谷小学校		課外授業の一環として坑内ガイドを行っている
広島県	宮島中学校英語ガイド	廿日市市立宮島小中学校	廿日市市立宮島小中学校	島内観光研修の座学(通訳ガイドを講師)・観光スポットでの英語でのガイド
山口県	柳井商業高校生が発案「日帰りバスツアー」	柳井商業高校(現在 柳井商工高校)情報研究部 調査研究班	(株)防長トラベル柳井支店	平成17・18年度に地元旅行会社協力の下、高校生による日帰りバスツアーを企画実施。高校生によるガイドの実施、高校生ふれあいトークの実施、「旅のしおり」作成配布
徳島県	屋間小学校ふるさと観光キャンペーン	東三好町立屋間小学校6年生	東三好町立屋間小学校6年生	吉野川ハイウェイオアシス(東みよし町)は年間110万人の来訪者が訪れる。その場所で作成した観光案内ツールにて観光キャンペーン(案内)を行う

都道府県	事業名称	実施主体	事務局	取り組み状況
愛媛県	まつやま観光キッズ	松山市	松山市観光産業振興課	あいさつ、道後の案内、ポストカード等記念品の配布、写真撮影など
福岡県	門司港観光ガイド育成塾	門司区役所まちづくり推進課	門司区役所まちづくり推進課	小学5年生を対象に総合学習の時間を使い地域の歴史・文化等に関する講義を5回、フィールドワーク1回、ガイドの練習1回、ガイド実習を行った
福岡県	「Yokoso! Kanagawa」プロジェクト	田川市立金川中学校	田川市立金川中学校	校区内の観光情報の発信、観光ガイドの実施や自転車の無料貸し出し等を中学校が主体となって行っている
佐賀県	佐賀市立勤興小学校「ふるさと勤興見て歩きツアー」	佐賀市立勤興小学校5年生	佐賀市立勤興小学校	校区の歴史と町並みを小学生が案内ガイドするもの。参加自由。全6コース有り
佐賀県	孔子の里ジュニアガイド	財団法人 孔子の里	社団法人 孔子の里	毎月第2・第4土曜日の午前中、多久聖廟の案内を行う
長崎県	島原市立第一小学校子どもボランティアガイド	森岳地区モリモリ広場	島原市立第一小学校	年6回のモリモリ広場の講座の1つとして観光ボランティア教室を開催している
長崎県	島原市立第二小学校子どもボランティアガイド(霊丘地区よか活動「町角探検サークル」)	霊丘地区よか活動委員会	霊丘地区よか活動委員会	地区の観光名所について指導者から子どもたちが学び近くの観光名所で実際に観光へ来られた人へガイドを行っている。始めたばかりでまだ子ども達は恥ずかしがってガイドしているが一生懸命取り組んでいる
大分県	子どもボランティアガイド	豊後高田市観光まちづくり(株)		夏休み期間中、希望する中学生に指導し来訪者をガイドする
大分県	湯の町こどもガイド	別府八湯竹瓦倶楽部	別府八湯竹瓦倶楽部	定期的ではないがガイドも行っている
大分県	由布院こどもガイド養成講座	由布院温泉観光協会	由布院観光総合事務所	平成18年度に試験的にこどもガイドの研修を実施。その後他地域の観光体験プログラムも体験し、21年度以降研修会を実施する
宮崎県	飫肥中学校観光ガイド案内	飫肥中学校		日南市観光ガイドボランティアの会の指導を受けガイド案内を中学生が実施

4 児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業

4-1 児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業の概要

児童・生徒によるボランティアガイドの育成における課題を整理しその解決策を検討するため、「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業」を実施することとした。

モデル事業では、これから新たに児童・生徒によるガイドボランティア活動に取り組もうとしているボランティアガイド団体・観光関連団体・観光地域づくり団体・教育機関・自治体等に対して支援を行うこととし、平成20年9月17日（水）から10月3日（金）まで募集を行い、応募のあった以下の4団体で実施した。

実施主体・事業名	取り組み内容
松前町ツーリズム推進協議会 「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業」	<ul style="list-style-type: none"> ・松前高校の課外授業として「史跡ガイド講座」を実施 ・「福山（松前）城と寺町」の歴史・文化を次世代の生徒たちに伝える ・単位修得後、検定試験（地元観光関係者と一般町民を対象とした史跡ガイド）を実施 ・合格者は桜祭りにおいてガイドを行う
社団法人八戸観光コンベンション協会 「山の楽校ボランティアガイド育成事業」	<ul style="list-style-type: none"> ・中沢中学校総合学習の一環として実施 ・体験メニューを一緒に体験しながら、参加者に歴史・文化を案内 ・学習の成果として、学んできた歴史・文化を紹介する手作りパンフレットを作成
湖北町教育委員会 「湖北町子どもボランティアガイド育成事業」	<ul style="list-style-type: none"> ・町内4つの小中学校（朝日小学校、小谷小学校、速水小学校、湖北中学校）において展開 ・朝日小学校・湖北中学校において、ボランティアガイドの実施 ・小谷小学校において、児童手作りのガイド用資料作成 ・速水小学校において、観光コースマップの作成
鹿児島県 石橋記念公園 NPO かごしま探検の会 「石橋記念公園 子どもガイド育成事業」	<ul style="list-style-type: none"> ・石橋記念公園・記念館において募集している小中学生の「子ども学芸員」のなかから「子どもガイド」を育成 ・イベント等でガイドに取り組む ・春休み等にも子どもガイドの活動を継続させていく

各モデル事業において、活動に参加した児童・生徒数および児童・生徒によるボランティアガイドの利用者数は以下の通りとなった。

	モデル事業に参加した 児童・生徒数	児童・生徒による ボランティアガイド利用者数
松前町ツーリズム推進協議会 「児童・生徒によるボランティア ガイド普及促進事業」	ガイド養成講座参加者数 15名 講演会参加者数 195名 実践練習及び検定参加者数 7名	実践練習及び検定参加者数 13名
社団法人八戸観光コンベンション協会 「山の楽校ボランティアガイド育 成事業」	勉強会参加者数 35名 ガイド講座参加者数 6名 ガイド実践数 6名	ガイド利用者 40名
湖北町教育委員会 「湖北町子どもボランティアガイ ド育成事業」	<朝日小学校> ガイド講座・ガイド実践数 8名 <小谷小学校> 勉強会参加者数 21名 <速水小学校> 勉強会参加者数 21名 <湖北中学校> 勉強会・ガイド実践数 4名	<朝日小学校> ガイド利用者 40名 <湖北中学校> ガイド利用者 約10名
鹿児島県 石橋記念公園 NPO かがしま探検の会 「石橋記念公園子どもガイド育成 事業」	勉強会参加者数 30名 ガイド実践数 13名	ガイド利用者 199名

4-2 モデル事業参加地域におけるアンケート調査結果

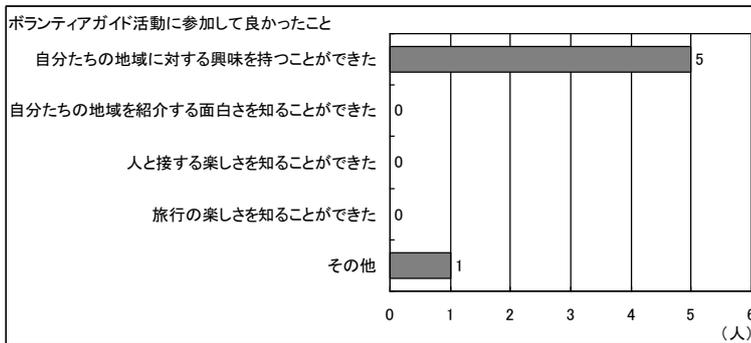
各モデル事業において、本事業に参加した児童・生徒および児童・生徒によるボランティアガイドの利用者に対して、以下の通りアンケートを実施した。

	アンケート実施概要
松前町ツーリズム推進協議会 「児童・生徒によるボランティア ガイド普及促進事業」	・ガイド検定試験を受けた高校生6名。 ・ガイド検定試験に参加した観光関係者。アンケート協力者数11名
社団法人八戸観光コンベンション協会 「山の楽校ボランティアガイド 育成事業」	・ボランティアガイド活動を行った中学生6名。 ・児童・生徒によるボランティアガイドの利用者。アンケート協力者数12名
湖北町教育委員会 「湖北町子どもボランティアガイ ド育成事業」	・ボランティアガイド活動を行った小学生8名。アンケートの結果は、3 回のガイド活動毎に実施したアンケート結果をまとめて掲載 ・児童・生徒によるボランティアガイドの利用者。アンケート協力者数 50名
鹿児島県 石橋記念公園 NPO かがしま探検の会 「石橋記念公園 子どもガイド 育成事業」	・ボランティアガイド活動を行った小中学生。結果の概要としては、2月 28日に小中学生13名に対して実施されたアンケート結果を掲載 ・児童・生徒によるボランティアガイドの利用者。アンケート回収数57 枚

<児童・生徒アンケート結果（概要）>

○ボランティアガイド活動に参加して良かったこと

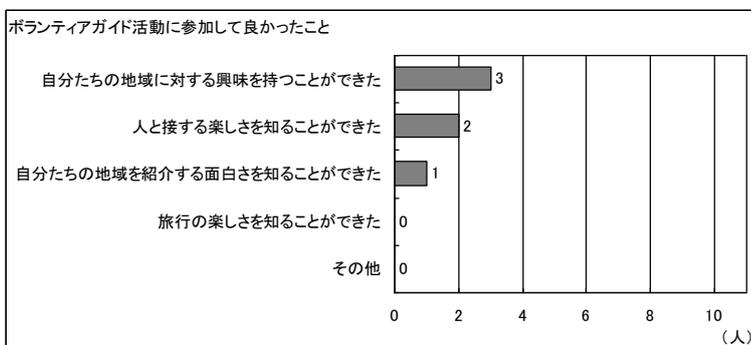
松前町ツーリズム推進協議会「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業」



(自由回答)

- ・歴史を知っていくうちにどんどん知りたくなったから。
- ・今までどうでもいいと思っていたことが、この活動を通して知ることができ、理解することで段々と楽しいと感じるようになりました。
- ・松前の知らなかったことを知ることができた。

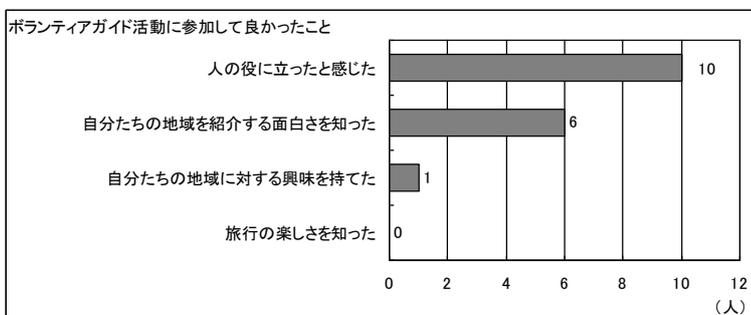
社団法人八戸観光コンベンション協会「山の楽校ボランティアガイド育成事業」



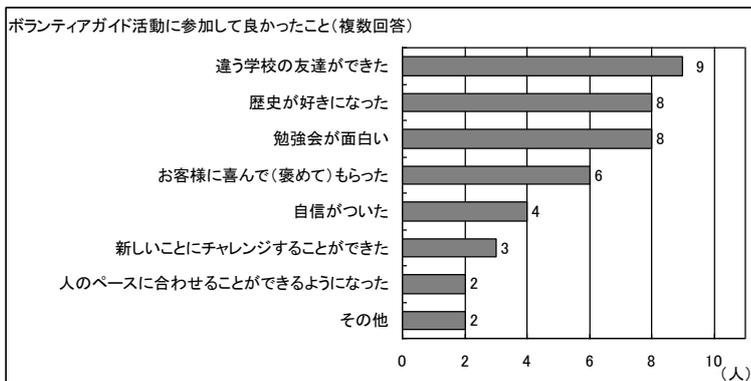
(自由回答)

- ・自分の説明でお客様が笑顔になった。
- ・今まで知らないことがたくさんあったが、たくさんのことを学習できたから。
- ・今まで人にものを教えたりする経験がなかったから。

湖北町教育委員会「湖北町子どもボランティアガイド育成事業」



鹿児島県 石橋記念公園 NPO かごしま探検の会 「石橋記念公園 子どもガイド育成事業」

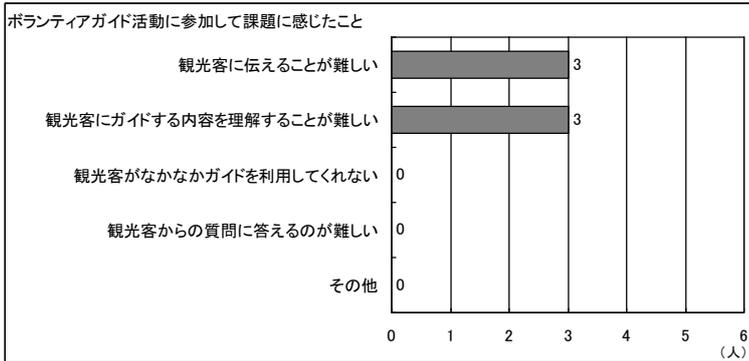


(その他意見)

- ・人とのふれあいが多くなった。
- ・年下の子とのふれあいが楽しかった。

○ボランティアガイド活動に参加して課題に感じたこと／大変だったこと

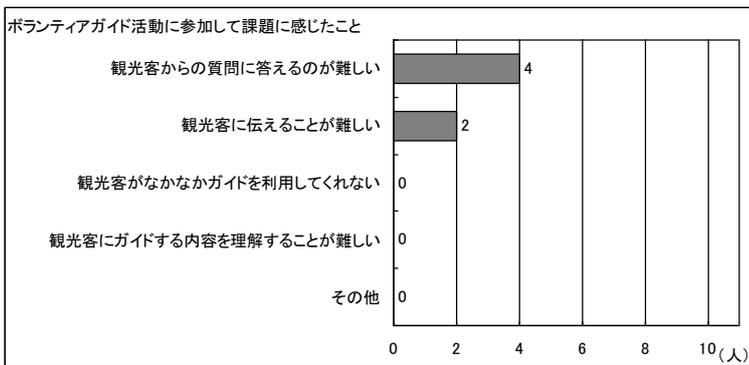
松前町ツーリズム推進協議会「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業」



(自由回答)

- ・敬語の使い方が少し困難でした。
- ・最初はただ文書を読んで暗記する感覚だったのが、理解することで楽しくなってきた。
- ・内容を理解していかに観光客に分かりやすく伝えることができるか。

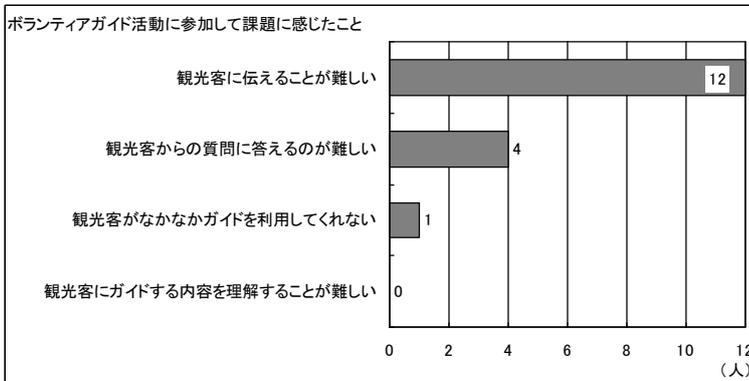
社団法人八戸観光コンベンション協会「山の楽校ボランティアガイド育成事業」



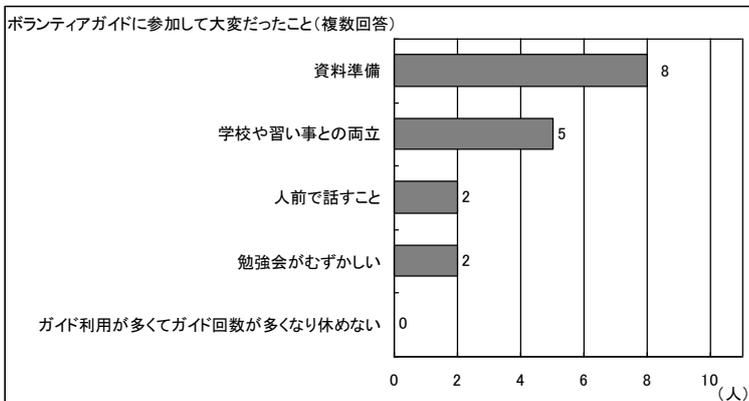
(自由回答)

- ・思っていることをなかなか言葉に出すことが出来なかったから。
- ・思いがけない質問に答えられなかったら。
- ・自分ではわかっているでもそれを相手に伝えるのが難しいと思ったから。

湖北町教育委員会「湖北町子どもボランティアガイド育成事業」



鹿児島県 石橋記念公園 NPO かがしま探検の会 「石橋記念公園 子どもガイド育成事業」

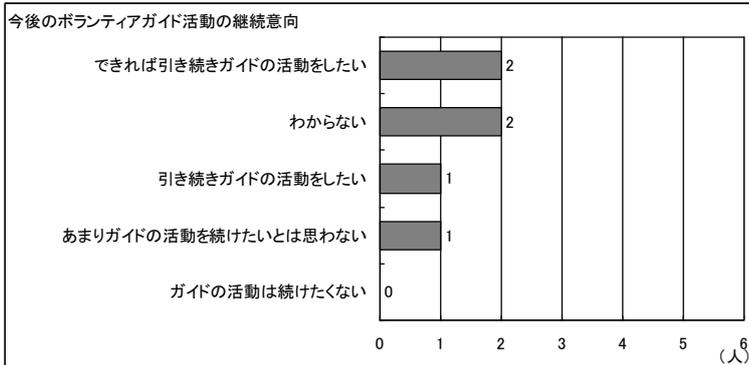


(その他意見)

- ・資料整理

○今後のボランティアガイド活動の参加意向

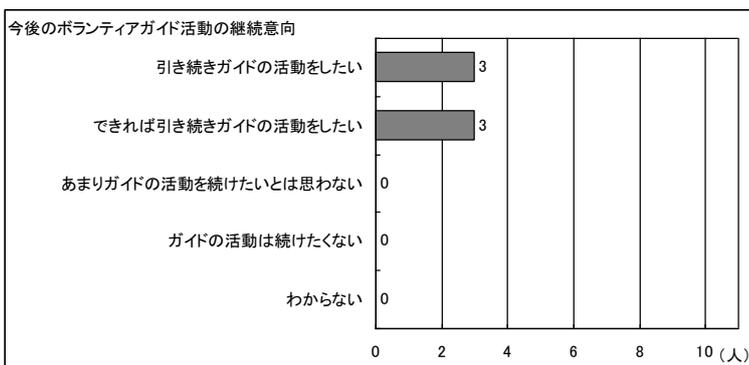
松前町ツーリズム推進協議会「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業」



(自由回答)

- ・私たち以外の人でも地域のことを知ることによって地域の活性化に繋がりますと今回の活動を通じて感じました。
- ・人と接することの練習になると思ったから。
- ・人と沢山接することが出来るので自分のためになるから。

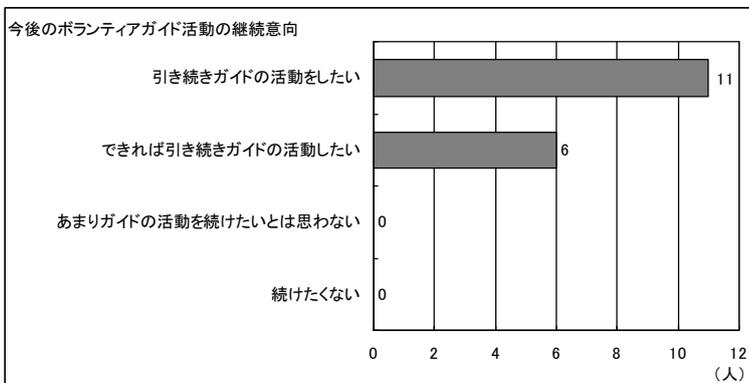
社団法人八戸観光コンベンション協会「山の楽校ボランティアガイド育成事業」



(自由回答)

- ・人と接するのが楽しいから。
- ・もっと相手にわかりやすく説明できるようにになりたいから。
- ・いろいろな知識を持ちたいし、多くの人と話がしたいから。

湖北町教育委員会「湖北町子どもボランティアガイド育成事業」



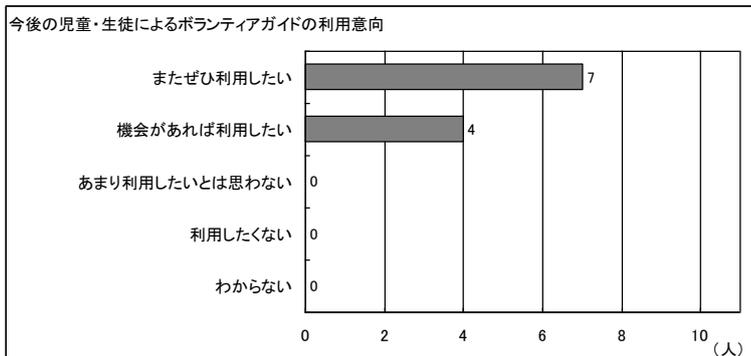
(自由回答)

- ・やってみてお客さんがわかってくれたから。
- ・観光客の人といろいろな話ができて(説明できて)楽しかった。
- ・ガイドすることが楽しくなったから。

<利用者アンケート結果（概要）>

○今後の児童・生徒によるボランティアガイドの利用意向

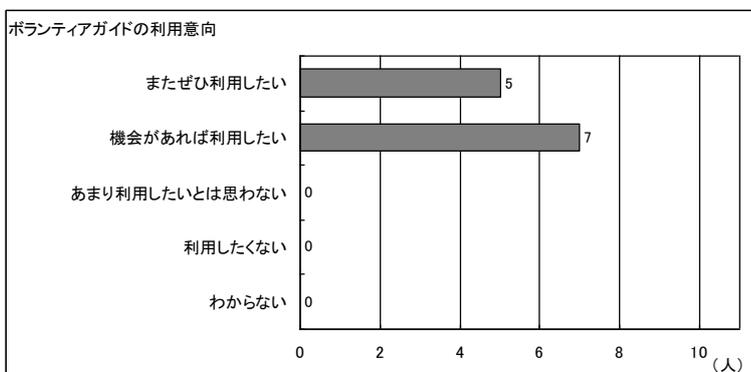
松前町ツーリズム推進協議会「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業」



(自由回答)

- ・ 分かりやすいし新鮮でもある。
- ・ 知識が得られる、優しい気持ちを取り戻せる。
- ・ 気軽に質問や会話ができる相手。

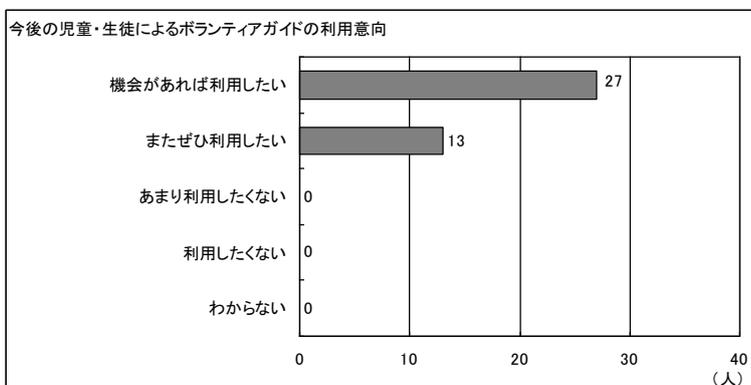
社団法人八戸観光コンベンション協会「山の楽校ボランティアガイド育成事業」



(自由回答)

- ・ 地域の元気が伝わって、自分も元気をもらった。
- ・ 楽しかったから。
- ・ 子どもたちの活動を応援したいし、そのような取り組みが地域の活性化と人づくりにつながると思うから。

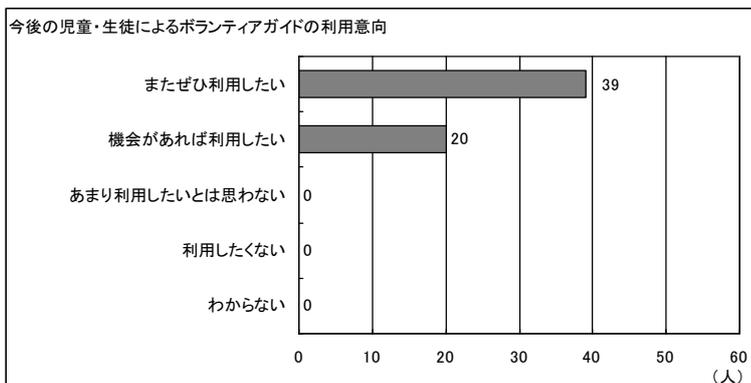
湖北町教育委員会「湖北町子どもボランティアガイド育成事業」



(自由回答)

- ・ 説明内容がわかりやすかった。
- ・ 子ども的一生懸命さがよかった。うれしかった。
- ・ 親しみやすく、気軽に聞け、会話が楽しい。

鹿児島県 石橋記念公園 NPO かがしま探検の会 「石橋記念公園 子どもガイド育成事業」



5 児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業検討会

5-1 実施概要

モデル事業実施地域の事業実施報告およびモデル事業の実務担当者間の意見交換を目的として、「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業検討会」を開催した。各モデル事業での取組みの報告を踏まえ、全国に児童・生徒による観光地域づくりを進めていく上での課題等の意見交換を行った。

期 日 2009年3月24日(火)
 時 間 13:30-16:00
 場 所 財団法人日本交通公社 大会議室(千代田区丸の内1-8-2)
 参加者 モデル事業実施地域担当者、モデル事業実施事務局、観光庁

モデル事業実施地域参加者

(北海道) 松前町	松前町ツーリズム推進協議会 (松前町産業振興課 課長)	事務局長	川合 貞之
	松前町ツーリズム推進協議会 (松前町産業振興課商工観光グループ主任)	事務局	田中 建一
(青森県) 八戸市	八戸観光コンベンション協会		赤坂 努
	山の楽校	校長	岩崎 光宏
	八戸市観光課	主査	小笠原 慶信
(滋賀県) 湖北町	湖北町教育委員会事務局	教育参事	川瀬 晃
	湖北町立朝日小学校	教諭	中村 俊男
(鹿児島県) 鹿児島市	石橋記念公園	館長	菅井 寛
	NPO かごしま探険の会		東川 隆太郎

5-2 開催記録

各モデル地域実施地域からの報告については、参考資料としてモデル実施報告書を掲載しているため、本項では質疑応答のみを掲載している。

①「児童・生徒によるボランティアガイド推進普及事業」(松前町ツーリズム推進協議会)

(質疑)

- ・ 地域が一体となった窓口の設置とあったが、これは、学校主体ではなく地域主体とした取組みに生徒達が参加するような感じか。地域主体というのはどのようなイメージを考えているか。

(回答)

- ・ 松前町推進協議会は、地域資源を活用して体験観光を作ることなどを目的として設置された。今回は本事業への参加ということで人材育成に関わる事業を実施した。現段階では、人材育成を中心とする組織だったものは協議会には無い。
- ・ 今回の取組みを進めていく中で、子ども達が地域について勉強することの必要性を感じた。そのためには、学校の先生や観光事業者が、地域の枠組みのなかで活動する組織をもう一つ作りたいと考えている。
- ・ 推進していく中では、学校を取り込む、学校の理解を得ること必要になってくる。特に安全面や、人を集める時には学校の協力が必要となる。学校と連携した組織を作りたい。

(質疑)

- ・ ガイドとなる児童・生徒の募集には苦勞すると思うが、今回はなぜ高校生を対象として本事業に取り組んだのか。
- ・ 高校生ガイドの育成において苦勞した点は何か。高校生を主体として今後も活動を継続していくのか。

(回答)

- ・ 小学生中学生は教育カリキュラムの縛りが強く、学習ということでも巻き込んで行くことが難しい。高校生の場合は、放課後のクラブ活動等で巻き込みやすい。
- ・ 今回の事業では全校生徒を巻き込むことはできず、7名の生徒会執行部を中心として実施した。今度は全校生徒にも自主参加を勧めようと言うことで、広めて実施したいと考えている。

②「山の楽校ボランティアガイド育成事業」(社団法人八戸観光コンベンション協会)

(質疑)

- ・ 学校外での体験活動となるが、児童・生徒の安全対策はどのように行ったのか。

(回答)

- ・ ボランティアガイドの活動の場となった「山の楽校」は市が管理している施設であり、施設内で起こった事故には保険が適用されるようになっている。

③湖北町子どもボランティアガイド育成事業（湖北町教教育委員会）

（質疑）

- ・ 子どもたちがボランティアガイドでやるのが学校の教育カリキュラムに組み込まれているが、今回の取組みはどのような位置づけなのか。
- ・ 今回の事業に参加した小学生が中学生になったとき、今回の取組みから得た知識等を活かしていく事業はあるのか。

（回答）

- ・ 「総合的な学習の時間」を利用して本事業を行った。「総合的な学習の時間」は、そのねらいと評価に基づいて生徒が自ら考え自ら行動するとされており、地元の湖北町の良さを知る活動を通して自分たちで課題を設定し、その課題に挑戦していくこととした。この場合では、湖北町の良さを知り、まとめ、地域に発信する、この発信するという部分が肝となる。
- ・ 来年の1月1日に市町村合併により湖北町が無くなるため、将来湖北町の良さを語るができる大人に育って欲しいということが根底にあった。
- ・ 将来的には自分の町を誇りに思う大人になって欲しい。短期間には、中学校にボランティアクラブなどを設立させて地域に貢献する活動に取り組みたいと考えている。
- ・ 平成6年から滋賀県の環境教育モデル校になっており、その取組みが学校の特徴であり、児童は鳥について自然に学び、知識も豊富である。このような既存の取組みを活かして、野鳥センターでのガイド活動を行っている。

④石橋記念公園 子どもガイド育成事業（石橋記念公園、NPO かがしま探検の会）

（質疑）

- ・ 子どもたちを募集して参加者を募っているが、学校教育以外での活動であるにも関わらず多くの参加者が集まっていることがすごい。どのように子どもたちを引きつけて集められたのか？

（回答）

- ・ まずは「この指止まれ」方式で行い、受入先が子どもたちの立場になって何が面白いのか、何が子どもの関心を引くかということを考えて行った。父兄の理解という部分もある。
- ・ 鹿児島の教育というのは、年上の子どもたちがリードすれば小さい子どもたちもついて行くということがある。年上の子ども達に小さな子どもたちを導く仕掛けも行ってきた。
- ・ 親の理解、子どもたちのやる気、職員の一生懸命な取組みが三位一体となってこうなったのではないかと思う。
- ・ 鹿児島は郷土教育に熱心に取り組んでおり、小学校から西郷隆盛や大久保利通など幕末明治維新に関わるものを勉強している。親や祖父母は郷土の偉人を尊敬しており、子どもたちは親などから影響を受けている。
- ・ あとは「ゆるい」という姿勢があると思う。子どもたちに難しいことを言っても分からないので、地域を伝えるためには子どもの目線にたち、子どもの興味をふくらませるような方法が効果があると思う。

6 まとめ

検討会でのモデル事業の取組み報告や意見交換から、児童・生徒によるボランティアガイド活動を通して得られた成果と継続的に活動に取り組む上での課題が抽出された。

①児童・生徒によるボランティアガイド活動を通して得られた成果

- ・観光客に対してガイドをすることは、児童・生徒にとって普段経験することのない体験であったことから、各地域ともに児童・生徒の地域学習に対する意欲の向上が見受けられた。
- ・児童・生徒によるボランティアガイドには成人のボランティアガイドとは異なる親しみやすさや取組みのめずらしさから、これまでボランティアガイドを利用したことのない観光客の利用が見受けられた。利用者にとっては、訪問地域についての知識を得られるだけでなく地域の子どもと交流できる魅力的な取組みとなった。
- ・児童・生徒が一生懸命に取り組む姿が、既存のボランティアガイドや地域住民の意識啓発につながっている。

②児童・生徒によるボランティアガイド活動を進めるうえでの課題

- ・観光に関連する組織・団体においては観光地域づくりの人材育成の観点から、学校教育においては、「自ら学び、自ら考える力」や「学び方や調べ方」を身につけるといった観点から、地域の歴史・文化について学ぶ機会を設けている地域もあるが、それらの取組みがノウハウ不足や教育カリキュラムの制約で、机上を離れて実践されている例は少ない。
- ・児童・生徒は学校教育や関連行事等により平日だけでなく休日も時間が制約されることがあることから、学校等教育機関と地域づくり団体が連携し、児童・生徒にとって活動しやすい環境づくりに取り組む必要がある。
- ・実際に取組みを進める場合においては、児童・生徒の安全確保、PRのための広報活動、ボランティアガイド団体とのネットワーク形成等の実務にあたって必要な知識やノウハウ等の共有が必要である。

今後、「児童・生徒によるボランティアガイド活動」を普及促進させていくためには、既存の取組みから得られた知見を蓄積・体系化させ、それらを広く共有していく必要がある。そのための一つの手段として、取組みを推進するにあたって必要な知識やノウハウ、留意点が整理された「手引き書」の作成が有効であると考えられる。

モデル事業での取組みや検討会から得られた成果・課題を踏まえ、「手引き書」の構成案としては以下のような項目があげられる。

＜指導者向け手引き書構成(案)＞

- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業の目的と意義 <ol style="list-style-type: none"> ①具体的な事業の目的と目指す方向性 ②事業の意義と期待される効果 2. 事業を実施するために必要な環境づくり <ol style="list-style-type: none"> ①保護者に対する説明 ②学校との連携 ③地域や観光施設との連携 ④その他関連団体との連携 | <ol style="list-style-type: none"> 3. 事業の具体的な実施方策について <ol style="list-style-type: none"> 3-1 ガイドの募集から指導までのながれ <ol style="list-style-type: none"> ①ガイド要員の集めかた ②ガイド組織の作りかた ③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた ④ガイドの内容を学ぶ ⑤説明や話し方の技術を学ぶ ⑥ガイドの年齢別指導方法 ⑦タイプ別指導方法 3-2 ガイド資料の作りかた <ol style="list-style-type: none"> ①ガイド用の資料 ②お客様に渡す資料 4. ガイドをする際の注意点 <ol style="list-style-type: none"> ①児童・生徒のガイド時の安全確保 ②お客様とのトラブル防止 ③大人のフォロー |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

＜児童・生徒向け手引き書構成(案)＞

- | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイドの役割と目的 2. ガイドする内容とその調べかた <ol style="list-style-type: none"> 2-1 ガイドする場所とそこでの説明 <ol style="list-style-type: none"> ①住んでいる地域や町について ②【屋内】観光施設・展示施設・店舗 など ③【屋外】自然や景色・商店街・町並み・史跡 など 2-2 ガイドする内容の調べかた <ol style="list-style-type: none"> ①自分が興味を持ったことを調べる ②インターネットや本、雑誌で調べる ③地域の人に聞いて調べる 3. ガイドのための資料の作りかた <ol style="list-style-type: none"> ①調べた内容をまとめた資料を作る ②説明するための資料を作る ③お客様に渡す資料を作る | <ol style="list-style-type: none"> 4. お客様をご案内してみましょう <ol style="list-style-type: none"> ①ご案内のためのマナー ②ご案内の練習と上手に説明するための工夫 ③ご案内するときに必要なもの ④お客様からの質問への答えかた ⑤お客様の感想を聞いてみる ④お礼状を発送する 5. 注意すること・困ったとき <ol style="list-style-type: none"> ①ご案内するときに気をつけること ②ご案内していて困ったことが起きたとき ③その他の気をつけたいこと |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

今後、こうしたノウハウをもとに、「児童・生徒によるボランティアガイド活動」の意義が普及し、全国的に「児童・生徒によるボランティアガイド活動」が広がることを期待する。

(参考資料) モデル事業実施報告書

松前町ツーリズム推進協議会	モデル事業実施報告書	資料-1	
社団法人八戸観光コンベンション協会	モデル事業実施報告書	資料-13	
湖北町教育委員会	モデル事業実施報告書	資料-26	
石橋記念公園	NPOかごしま探険の会	モデル事業実施報告書	資料-49

<参考資料>

松前町ツーリズム推進協議会 モデル事業実施報告書

1 事業名

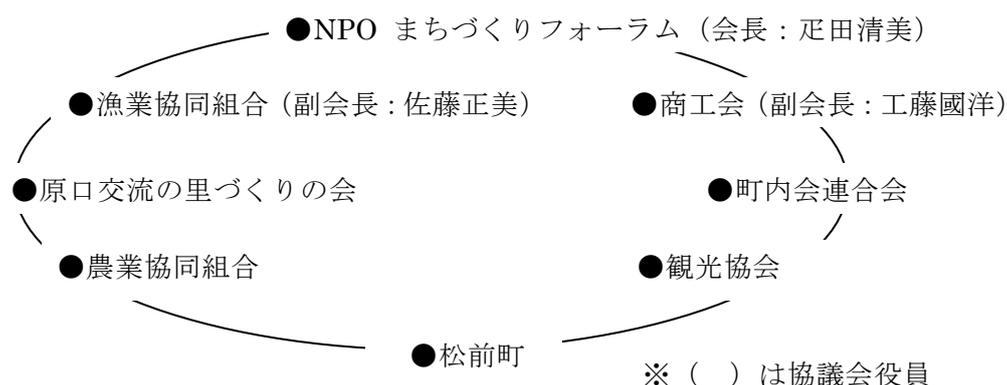
児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業

2 推進主体

(1) 体制：松前町ツーリズム推進協議会

(2) 組織概要：農林水産省の「農山漁村（ふるさと）地域力発掘支援モデル事業」の採択を受けて、観光を機軸に都市との交流を促進するための活動を行なっている。

(3) 組織構成：産業団体、住民組織、行政の 8 団体で構成



3 対象地域の概要

松前町は、北海道最南端に位置し、豊かな水産資源に恵まれ、多くの種類の漁獲が特長。産業は、水産業が中心で、町内就業者数の約半数が漁業と水産加工に従事している。観光は、道内唯一の城郭と 250 種類 1 万本の桜を観光資源に、年間 50 万人を集客している。また、風光明媚な海岸線など数多くの景勝地を有し、北前船文化発祥拠点などの唯一性に富んだ多様な観光資源がある。

4 事業全体の概要

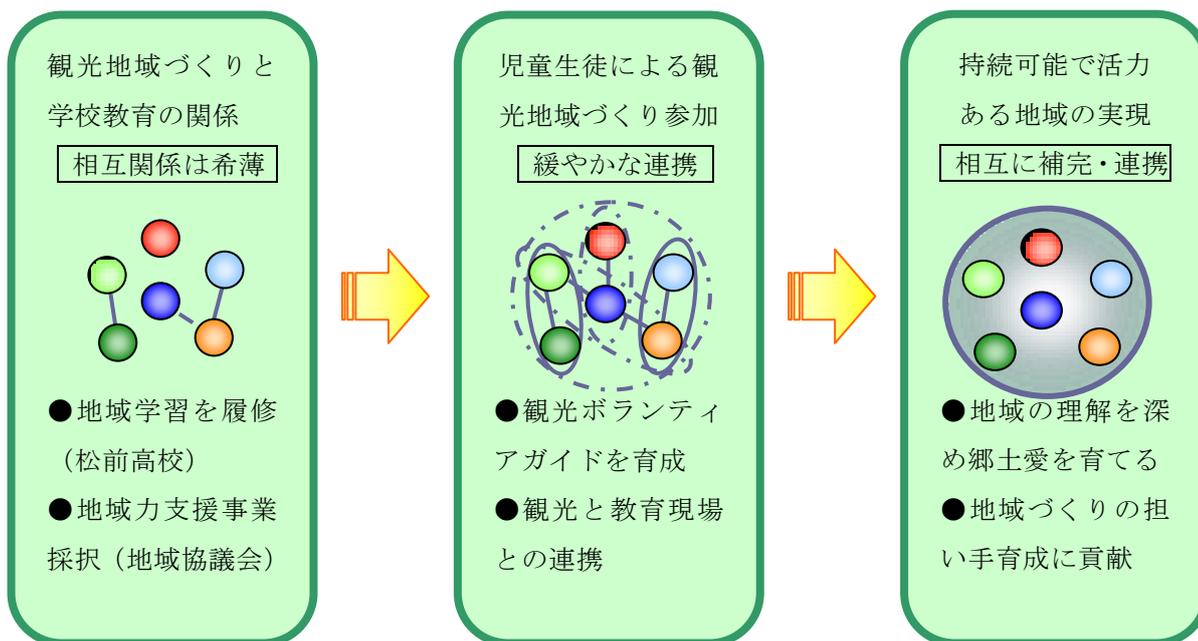
(1) 基本的な考え方

児童・生徒がボランティアガイドを実践することは、「地域への理解を深めると共に郷土の愛情を育てる」といった教育的な効果を通じて、将来の観光地域づくりを担う人材の育成に貢献するものと期待されます。

また、児童・生徒による取り組みは、地域の魅力や観光に対する子供たちの理解を深めるだけでなく、子供たちは将来の地域の広告塔であり、地域を宣伝していくためには大きな要因であることから、地域全体として息の長い取り組みを地域主体で構築することが必要と考えます。

本事業は、松前高校の生徒を対象に、歴史、文化、桜に関する知識を学び、お客様に対する話し方やおもてなしの心を身に付けて、「さくらまつり」に訪れる観光客を相手に観光ガイドを実践します。

(2) コンセプト図



(3) 平成 20 年度実施項目

- ① ガイド養成講座 3回
- ② 講演会 1回
- ③ ガイド実践練習及び検定

(4) 実施体制

専門講師による指導体制を構築

- ① 寺町 (史跡) に関する講師：松前ガイド協会代表 成田 優美 外 3 名
- ② 松前城 (歴史) に関する講師：松前城資料館館長 (郷土史家) 久保 泰
- ③ 桜・植物・自然に関する講師：松前ボランティアガイド代表 北川 聖治

(5) 検討経緯一覧表

会議内容	開催日	検討項目
第1回検討会議	平成21年1月21日	ボランティアガイドの活動について
第2回検討会議	平成21年3月13日	ボランティアガイドの評価について

(6) 検討会議まとめ

第1回検討会議	
開催日	平成21年1月21日
検討項目	ボランティアガイドの活動について
検討結果	① 活動範囲は松前公園内の観光客を対象とする ② 実践活動は「さくらまつり期間」とする ③ ガイド協会の「松前観光案内の手引き」を教本とする

第2回検討会議	
開催日	平成21年3月13日
検討項目	ボランティアガイドの評価について
検討結果	① 児童・生徒による訴求効果が期待される ② コミュニケーション能力を高める必要がある（ガイド演習の実践）

5 個々の実施項目の概要

(1) ガイド養成講座

目的：地域の理解を深めるためのテーマ学習

対象：生徒 15 名

概要：(スケジュール・内容・結果・効果)

【実施日】	11月12日(水)	11月19日(水)	12月3日(水)
【内容】	松前町の名所・旧跡を探る	桜の知識を深める	松前町の歴史を学ぶ
【講師】	成田優美(松前ガイド協会代表)	北川聖治(松前ボランティアガイド代表)	久保泰(松前城資料館館長)
【記録】			
			
【効果】	北海道遺産選定、国指定重要文化財、日本さくらの名所 100 選など、町が誇れる地域資源の再認識に繋がった。		

(2) 講演会

目的：観光ボランティアはどうあるべきかを地域全体の取り組みとして考える

対象：松前高校の生徒と保護者及び一般町民（参加者：生徒 195 名、一般 40 名）

概要：（スケジュール・内容・結果・効果）

【実施日】	1月21日（水）	
【内容】	演題：明日をつくる松前町・青少年の観光ボランティアはどうあるべきか	
【講師】	浅利政俊（日本花の会 花守）	
【記録】		 
【効果】	子供たちが参加した地域固有の風景づくり（さくらの里）に学び、観光ボランティアを息の長い取り組みとして地域主体で構築することへの理解が得られた。	

(3) 実践練習及び検定

目的：実践に向けたガイディング指導及び検定試験を実施

対象：生徒7名

概要：（スケジュール・内容・結果・効果）

【実施日】	3月9日（月）～12日（木）	3月13日（金）
【内容】	ボランティアガイドとしてのスキルを養成	観光関係者を相手にガイド検定試験を実施
【講師等】	松前ガイド協会、松前ボランティアガイド	観光関係者 13 名
【記録】		 

			
			
【効果】	コミュニケーション能力の向上、観光ボランティアガイドの意識の醸成に繋がった。		

(4) 市場調査

名 称	実施期間	概 要
利用者アンケート	3月13日	ガイド利用者に対してアンケート調査を実施
児童・生徒アンケート	3月9日～ 3月13日	ガイドを実施した子どもに対してアンケート調査を実施

利用者アンケート

問1 ボランティアガイドの利用経験

- ① 子どもに限らずボランティアガイド利用は初めて
- ② 子どもボランティアガイドは初めて
- ③ 以前に子どもボランティアガイドを利用したことがある

回答	9
	2
	—

問2 児童・生徒によるボランティアガイドの利用目的

- ① 地域住民や子どもとの交流に興味があったから
- ② 来訪地域に関する詳細な情報がほしかったから
- ③ 効率よく目的地を見学したかったから
- ④ 子どもたちの取り組みに協力したかったから
- ⑤ その他

回答	3
	—
	1
	6
	1

自由回答

- ・子どもたちが、自分の住んでいる地域をどれだけ誇りに思っているのか
- ・自分の子ども時代には考えられないことでガイドを実践する子供たちは尊敬に値する
- ・故郷を親しんでいる姿

- ・新たな取組みだったので

問3 児童・生徒によるボランティアガイドの満足度

	満 足	やや満足	どちらでも ない	やや不満	不 満
地域住民や子どもとの交流	4	6	—	1	—
ガイド内容の情報量	2	4	2	3	—
ガイド内容の分かりやすさ	3	7	1	—	—

<良かった点>

- ・笑顔で精一杯もてなしていた（4件）
- ・桜の解説が納得できるもので良かった
- ・新鮮さとがんばりが伝わってきた（2件）
- ・初めてにしては上手に出来たと思う
- ・身振り、手振りがよく出来ていて客への気遣いもあった
- ・周りを見渡ししながら説明している

<工夫した方がよい点>

- ・説明が短い、もう少し詳しくなるように
- ・スナップ写真などを用いた解説法
- ・説明に詰まったときの対応の仕方
- ・テキスト通りではない自分の話し方
- ・移動時の客の誘導方法
- ・コミュニケーションの取り方
- ・お寺の由来など具体性に欠けている
- ・回数を重ねること

問4 今後の利用について

- ① またぜひ利用したい
- ② 機会があれば利用したい
- ③ あまり利用したいと思わない
- ④ 利用したくない
- ⑤ わからない

回答

7
4
—
—
—

自由回答

- ・上手になっているかどうか
- ・分かりやすいし新鮮でもある
- ・初々しい感じがよい
- ・高校生のガイドは珍しいから
- ・知識が得られる、優しい気持ちを取り戻せる

- ・気軽に質問や会話ができる相手

回答者属性

年 齢	20代 未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代 以上
	—	1	4	1	3	1	1	—

居住地 域	松前町	11

性 別	男	9	女	2

児童・生徒アンケート

問1 ガイド参加の理由

- ① 自分たちの地域を観光客に知って欲しかった
- ① 地域について学習した成果を活かしたかった
- ② 何か地域へ貢献する活動がしたかった
- ③ 観光客に接する活動をしたかった
- ④ その他

回答	3
	—
	1
	—
	2

自由回答

- ・今までそういった機会がなかった。
- ・意外に珍しい建物が多いのに、あまり知られていないのでPRしたかったから。
- ・いろいろな人に知ってもらって、松前の魅力を分かってもらいたかった。そこから地域の活性化にも繋がるだろうと思っていたから。

問2 ガイド活動に参加して良かった点

- ① 自分たちの地域に対する興味を持つことができた
- ② 自分たちの地域を紹介する面白さを知ることができた
- ③ 人と接する楽しさを知ることができた
- ④ 旅行の楽しさを知ることができた
- ⑤ その他

回答	5
	—
	—
	—
	1

自由回答

- ・知っているようで知らないことが沢山あったから。
- ・歴史を知っていくうちにどんどん知りたくなったから。
- ・今までどうでもいいと思っていたことが、この活動を通して知ることができ、理解することで段々楽しいと感じるようになりました。
- ・松前の歴史の深さなどを知ることができたからです。
- ・松前の知らなかったことを知ることができた。

問3 ガイド活動で課題に感じたこと

- ① 観光客がなかなかガイドを利用してくれない
- ② 観光客からの質問に答えるのが難しい
- ③ 観光客に伝えることが難しい
- ④ 観光客にガイドする内容を理解することが難しい
- ⑤ その他

回答	—
	—
	3
	3
	—

自由回答

- ・まだ実際にガイドをしていないから。
- ・敬語の使い方が少し困難でした。
- ・最初はただ文書を読んで暗記する感覚だったのが、理解することで楽しくなってきた。
- ・うまく言葉で説明できていなかったからです。
- ・内容を理解していかに観光客に分かりやすく伝えることができるか。

問4 ガイド活動の継続について

- ① 引き続きガイドの活動をしたい
- ② できれば引き続きガイドの活動をしたい
- ③ あまりガイドの活動を続けたいとは思わない
- ④ ガイドの活動は続けたくない
- ⑤ わからない

回答	1
	2
	1
	—
	2

自由回答

- ・ガイドは楽しいけれど、覚えたりすることが苦手だから。
- ・私たち以外の人でも地域のことを知ることで地域の活性化に繋がりそうだなと今回の活動を通じて感じました。
- ・人と接することの練習になると思ったから。
- ・人と沢山接することが出来るので自分のためになるから。

回答者属性

学年	高校生	6	性別	男	1	女	5
----	-----	---	----	---	---	---	---

6 今後の対応について

(1) 児童・生徒ボランティアガイド育成の構想内容・実施体制・目標・スケジュール等

構想内容：観光と教育現場との連携を図り、将来の地域づくりの担い手育成に貢献する

実施体制：継続的な取り組みを支援するための窓口を設置する

目 標：小中高一貫の取り組みを目指す

- 日 程：4月 ガイド演習（コミュニケーション能力の訓練）
 (H21) 5月 ガイド実践（さくらまつり、北前船フォーラム）
 6月～ ガイド養成（総合学習の時間と連携して行う）
 9月 ガイド検定

(2) 今後の課題とその対応

- ① 児童・生徒にも理解できるような教材がないので、地域を知るためのガイドブックの整備が必要。（観光副読本 など）
- ② 地域の魅力を知る機会が少ないことから、知見を広めるためのフィールドワークを開催し、合わせて、小中高一貫の環境づくりにも取り組む必要がある。
- ③ スキルアップ研修で講師を招致するための経費など、継続的な取り組みの支援が必要。

(3) 今後の方向性

総合学習の時間を利用して、学年ごとにスキルアップする仕組みを構築する。

観光事業者（関係団体）、学校教育、行政機関等が相互に補完・連携して持続可能で活力ある地域の実現を目指す。

7 報 道 関 係

(1) 新聞記事（北海道新聞）



(2) HP



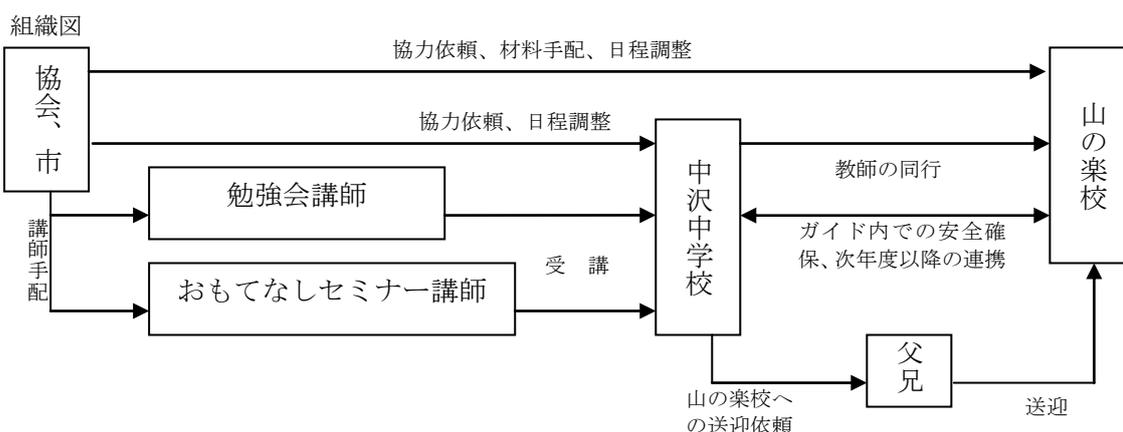
<http://www.matsumae.hokkaido-c.ed.jp/index.htm>

<参考資料>

社団法人八戸観光コンベンション協会 モデル事業実施報告書

●事業名 山の楽校ボランティアガイド育成事業

●推進主体 (社) 八戸観光コンベンション協会
協力 八戸市、八戸市立中沢中学校、山の楽校



【生徒の安全確保について】

本事業は、協会主催の事業であるが、中沢中学校の総合学習事業の一環としても取り組むことから、山の楽校への生徒の送迎について、中学校を通じて父兄に依頼することとする。また安全確保の面から、屋外でのガイドはせず、楽校内でそば打ちとせんべい焼き体験をガイドすることとし、食料品及び火気を使用することから、楽校スタッフ、中学校教師、協会(市)が必ず立ち会うこととした。

●対象地域の概要

八戸市は、青森県の南東部に位置する県内第2の市で、人口は約25万人。古くから港町として栄え、現在は、日本有数の漁業の街でもあり、北東北随一の工業都市でもある。

今回、ガイド事業を実施した「山の楽校」は南郷区(旧南郷村で平成17年3月に八戸市と合併)島守に位置し、平成15年に廃校となった増田小中学校の校舎を活かし、平成17年6月にオープンした体験交流施設。里山の田舎で、昔からの生活文化をそのまま体験するというコンセプトのもと、地区住民による運営によりさまざまな体験メニュー(楽校)が行われている。

この学区に住む住民は約100世帯、300人であるが、平成19年度は約1万5千人が山の楽校を訪れている。訪れる人はリピーターが多く、おじいさんやおばあさんたちとのふれあいを求め、何度も訪れている。

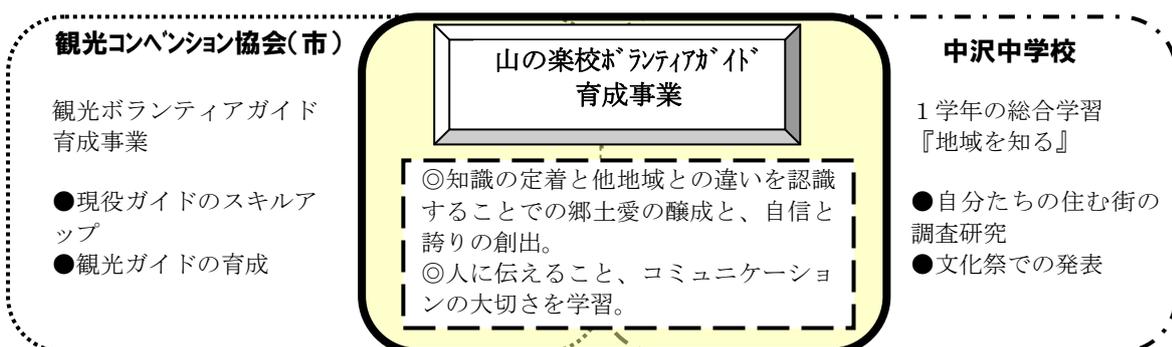
事業全体の概要

本事業は、中沢中学校が1年生時に実施する総合学習『地域をよく知る』をさらに発展させ、自分たちが学習した知識の定着と、人にものを伝えるというコミュニケーションの大切さを学ぶために実施するもので、地域に自信と誇りを持てる次世代の担い手の育成を図るものである。

実際のガイドの場となる山の楽校は、普段から田舎暮らし体験と、あたたかく迎えてくれる地元住民とのふれあいを求め多くの人が訪れている観光交流施設である。本事業の実施に際しては、運営主体の「山の楽校運営協議会」会長狛館博史氏、楽校長の岩崎光宏氏をはじめ関係スタッフの全面協力をいただくことができた。

また、本事業は中沢中学校の生徒がガイドとなって活動するものであるが、この学区は、現在山の楽校となった増田小中学校の学区の生徒も通っており、今年度の総合学習でも山の楽校を研究課題にした生徒もいたことから、その生徒たちを中心にガイドを募集し、事業を実施した。

なお、本事業は八戸観光コンベンション協会の「観光ボランティアガイド育成事業」との連携を図り、実際現場で活躍する大人のガイドと同じセミナーを受講する取り組みも組み込まれている。



○平成20年度実施項目

- ・ 郷土の学習・・・郷土史家をはじめ、各専門家からの講義により、身近な素材に対する深い知識を学習。
- ・ おもてなしセミナー・・・観光コンベンション協会のガイドスキルアップ事業の一環として、講師を招き、大人の現役ガイドなどといっしょに、コミュニケーションの基礎を学習。
- ・ ガイド実践・・・山の楽校に体験に訪れたお客様に対し、南郷特産のそばを使った手打ちそば体験と、八戸発祥の南部せんべいを作る手焼きせんべい体験をガイド。
- ・ パンフレット製作・・・山の楽校を中心に紹介する観光パンフレットを製作。

○検討経緯一覧

会議内容	日時	検討項目
第1回検討会議	9月24日 10時	申請に関する協議
第2回検討会議	10月7日 10時	事業スケジュールに関する協議

○検討会議まとめ

第1回検討会議	
日時	9月24日 10時
検討項目	申請に関する協議 ・事業への協力依頼について ・実施項目の検討について
検討結果	・山の楽校及び中沢中学校から、事業実施に関して概ね了承。ただし、中沢中学校校長より、年間スケジュールにない新規の事業であり、教職員の負担が大幅に増えることは避けたい。また県内でもこのような取り組みを行なっているところがなく、事業をどのように進めていけばいいのか検討する作業が大変であることから、協会及び市と常に協議しながら進めていきたいと申し出があった。 ・総合学習の中で、自分たちが調査したものがあるが、改めて勉強会を開き、専門家の話を聞いて、さらに深い知識を定着させる。また、生徒たちは普段見知らぬ人と接して話をする機会がないので、話し方の基礎を学習させる。そして、今回の事業の成果として観光パンフレットの企画・制作をし、南郷の観光PRも図る。
第2回検討会議	
日時	10月7日 10時
検討項目	事業スケジュールに関する協議
検討結果	・学習する内容は、中学生の負担にならないように、あれこれではなく、山の楽校、そばやせんべいといった粉食文化、南郷全体の歴史や文化に特化する。 ・山の楽校で実施する事業については、父兄から送迎いただくなど、地区全体の協力をいただくこととする。

●個々の実施項目の概要

①郷土の学習

・目的

普段暮らしている自分たちの街が、どんなところで、どんな魅力があるのか、そして他地域と違う特徴はなにかということを学習することで、地域に対する自信と誇りを芽生えさせ、郷土愛の醸成を図る。

・対象

中沢中学校 1年生全員 35名

・スケジュール及び内容

日付	講師	内容
12月1日 14:30	①山の楽校 岩崎校長	①山の楽校について

	②八戸市古館観光課長	②八戸地方の歴史について
12月12日 11:30	①山の楽校 岩崎校長 ②郷土史家 江刺家氏	①南郷のそば文化について ②八戸地方の粉食文化について
1月26日 14:30	石屋 俊夫氏	南郷とジャズについて



1年生全員が受講した勉強会



講師の郷土史家 江刺家氏

②おもてなしセミナー

・目的

ガイドとしてお客様に接するための基本的な心構え、話し方について学習し、お客様が求めるものは何か、そしてどのようにコミュニケーションを図るべきかについて学ぶ。なお本セミナーは、観光コンベンション協会が主催する「観光ボランティアガイド育成事業」のおもてなしセミナーに中学生も参加するものである。

・スケジュール及び内容

開催日 平成20年12月13日(土) 午後2時

会場 八戸市スポーツ研修センター

参加人数 42名(うち中学生6名)

セミナー青森の鎌田昌子氏を講師に招き、講義と模擬ガイド実践を現役のボランティアガイドや観光事業者などといっしょに受講。ガイドとしてまず重要なのは、お客様とのコミュニケーションをきちんと取れるようにすることで、その第一歩が笑顔で挨拶することであることを学ぶ。模擬でのガイドでは、相手にうまくガイドができず、人にものを伝える難しさを実感。



おもてなしセミナー



模擬ガイドに臨む生徒たち

③ガイド実践

・目的

地域の魅力やお客様への接し方など、これまで学習してきた成果を、実際のお客様に対しガイドすることで、知識のより深い定着と、おもてなしの心の醸成を図る。

・スケジュール及び内容

1 プレガイド実践及びガイド認証

開催日：平成20年12月20日（土）、平成21年1月6日（火）

場 所：山の楽校

内 容：実際にガイドする体験メニューのそば打ちとせんべい焼きの方法を普段実際にガイドしているおばあさんたちから学ぶ。実際に自分がお客様になって教えてもらうことにより、技術の習得はもちろん、お客様がどのようなポイントでなにを覚えてもらいたいといったことを学ぶ。

全課程が修了したところで、山の楽校岩崎校長より、6名の中学生ガイドに山の楽校ボランティアガイドとして任命。

2 ガイド実践

開催日：平成21年1月25日（日）、2月1日（日）、2月8日（日）

場 所：山の楽校

内 容：当日の楽校は竹スキーの楽校と豆の楽校であったが、教室1部屋をそば打ちとせんべい焼き体験の部屋にして、立ち寄っていただいたお客様に実際にガイドをして、そば打ちやせんべい焼きを体験していただいた。そば打ちとせんべい焼き体験の料金は無料とした。



そば打ち体験



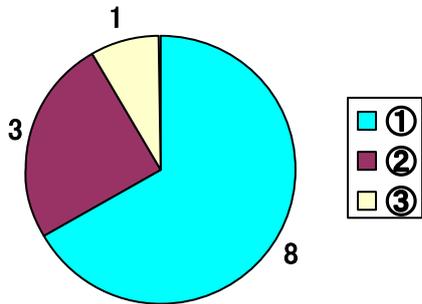
せんべい焼き体験



体験の様子

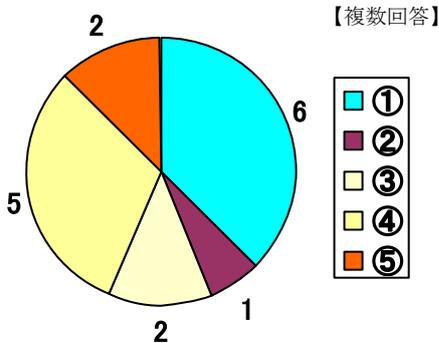
利用者アンケート結果（アンケート協力者 12名）

Q1-1 あなたはこれまでボランティアガイドを利用したことはありますか。



- ①子どもに限らずボランティアガイド利用は初めて
- ②ボランティアガイドを利用したことはあるが、子どもボランティアガイドは初めて
- ③以前にも子どもボランティアガイドを利用したこと

Q2-1 今回、あなたはどのような目的で児童・生徒によるボランティアガイドを利用しましたか。



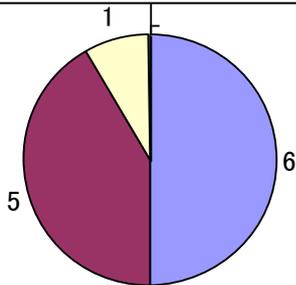
- ①地域住民や子どもとの交流に興味があったから
- ②来訪地域に関する詳細な情報が欲しかったから
- ③効率よく目的地を見学したかったから
- ④子どもたちの取り組みに協力したかったから
- ⑤その他

Q2-2 なぜそのように感じたのですか。（主な回答）

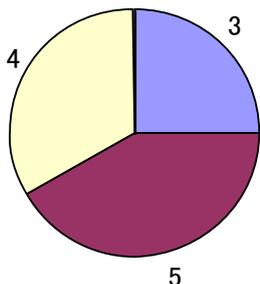
- ・子どもたちが一生懸命取り組む姿勢に感銘を受けたから
- ・次代を担う子どもたちに地域の魅力を知ってほしいし、多くの人にその良さを知ってほしい。
- ・おばあさん先生も楽しいが、子どもたちとも作ってみたかったから。
- ・子どもたちが地域のことを知り、外部の人に教えることは将来のために役立つと思ったから。

Q3-1 今回、児童・生徒によるボランティアガイドを利用してどのように感じましたか。

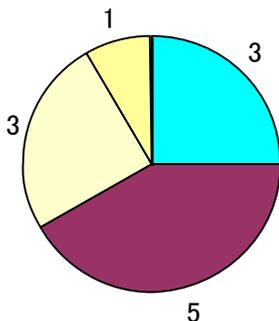
地域住民や子どもとの交流



ガイド内容の情報量



ガイド内容のわかりやすさ



- 満足
- やや満足
- どちらでもない
- やや不満
- 不満

Q 3 - 2 具体的に良かった点・工夫した方がよい点についてお答えください。

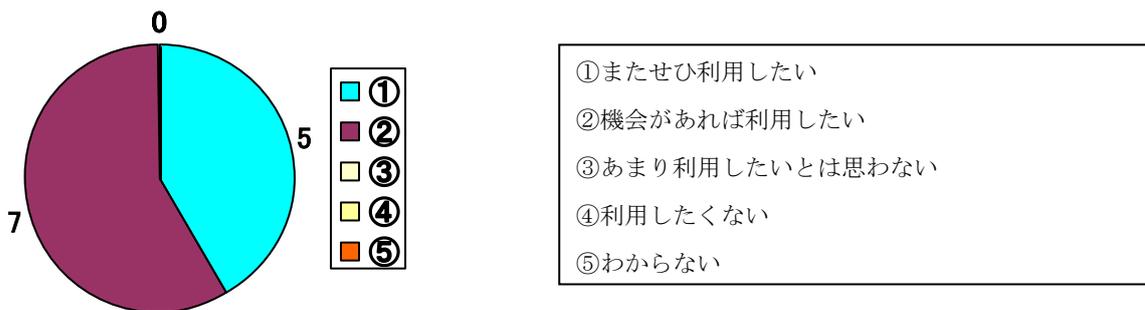
〈良かった点〉

- ・気軽に話ができてよかった。
- ・大人より子どものほうが親しみが持てる。
- ・一生懸命さが伝わった。
- ・言葉の使い方が上手でびっくりした。対応の仕方も慣れているように感じた。
- ・子どものガイドが新鮮だった。また気軽に質問できた。初々しくて楽しめた。

〈工夫した方がよい点〉

- ・もっと活動を宣伝したほうが良いと思う。
- ・もう少し元気よく。
- ・あと少し知識の習得をしたほうが良い。

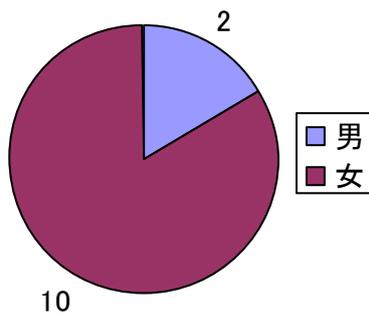
Q 4 - 1 あなたは今後も、児童・生徒によるボランティアガイドサービスを利用したいと思いますか。



Q 4 - 2 なぜそのように感じたのですか（主な回答）

- ・地域の元気さが伝わって、自分も元気をもらった。
- ・楽しかったから。
- ・子どもたちの活動を応援したいし、そのような取り組みが地域の活性化と人づくりにつながると思うから
- ・交流が必要と考えるから

Q 5 - 1 今回、あなたをガイドしてくれたガイドについてお答えください。



Q5-2 あなたのことについてお答えください。(回答をいただいた数)

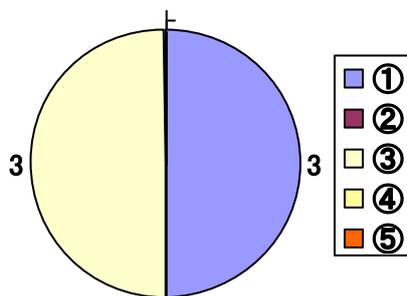
年齢	20代未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
人数			6	2	4			

居住地	青森県外	青森県内	八戸市内
人数		2	9

性別	男	女
人数	3	8

生徒アンケート結果（中沢中学校 1年生 男子1名、女子5名）

Q1-1 あなたは、今回のガイド活動にどのような目的で参加されましたか。

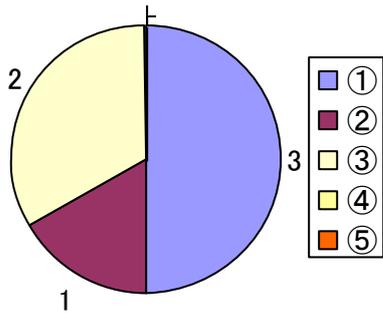


- | |
|-----------------------|
| ①自分たちの地域を観光客に知ってほしかった |
| ②地域について学習した成果を活かしたかった |
| ③何か地域へ貢献する活動がしたかった |
| ④観光客に接する活動をしたかった |
| ⑤その他 |

Q1-2 なぜそのように感じたのですか。

- ・南郷は暗いイメージだったから、観光客にもっと知って欲しい。
- ・自分のやったことをお客様に伝えたかったから。
- ・いろいろなお客様に接して、気軽に人と話せるようになりたかったから。
- ・自分の性格が良くなるように。

Q2-1 あなたは、今回のガイド活動に参加してよかった点をお答えください。

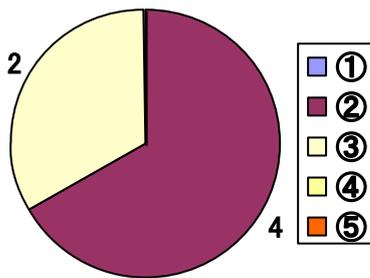


- ①自分たちの地域に対する興味を持つことができた。
- ②自分たちの地域を紹介する面白さを知ることができた
- ③人と接する楽しさを知ることができた
- ④旅行の楽しさを知ることができた
- ⑤その他

Q 2 - 2 なぜそのように感じたのですか。

- ・自分の説明でお客様が笑顔になった。
- ・こんなところでも観光客は興味を持ってくれるから。
- ・今まで知らないことがたくさんあったが、たくさんのことを学習できたから。
- ・今まで人にものを教えたりする経験がなかったから。
- ・以前は、人とあまり接したくなかったから。

Q 3 - 1 あなたは、今回のガイド活動に参加してどのようなことを課題に感じましたか。

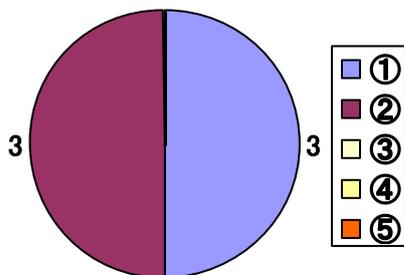


- ①観光客がなかなかガイドを利用してくれない
- ②観光客からの質問に答えるのが難しい
- ③観光客に伝えることが難しい
- ④観光客にガイドする内容を理解することが難しい
- ⑤その他

Q 3 - 2 なぜそのように感じたのですか。

- ・思っていることをなかなか言葉に出すことができなかったから。
- ・思いがけない質問に答えられなかったから。
- ・自分ではわかっているでもそれを相手に伝えるのが難しいと思ったから。

Q 4 - 1 あなたは、今後も今回の活動を続けていきたいですか。



- ①引き続きガイドの活動をしたい
- ②できれば引き続きガイドの活動をしたい
- ③あまりガイドの活動を続けたいとは思わない
- ④ガイドの活動は続けたくない
- ⑤その他

Q4-2 なぜそのように感じたのですか。

- ・もう少し観光客に南郷を知ってほしいから。
- ・人と接するのが楽しいから。
- ・今年入学する新1年生にもガイド活動をしてもらいたいから。
- ・もっと相手にわかりやすく説明できるようになりたいから。
- ・いろいろな知識を持ちたいし、多くの人と話したいから。
- ・まだわからないことも多いので、もっと勉強してから活動したいから。

成果

- ・生徒たちのガイドは、実際体験されたお客様にとって新鮮であり、純粋に一生懸命ガイドしようとする姿勢に感銘を受け、大変好評だった。
- ・ガイドをして、お客様からありがとうと言われることに、子どもたちは普段感じることのない喜びを感じており、また次はこうやろうといった向上意欲を強く感じた。
- ・子どもたちの技術の習得は非常に早く、そば打ちやせんべい体験も何度か経験しただけで、人に教えられるレベルにまで達しており、他の場面で子どもガイドを育てる場合も、比較的短期間で実現できるのではないかと感じた。
- ・市外のお客様への案内による八戸(南郷)のPRはもちろんのこと、市内に住む方でもそばやせんべいの話は知らないことが多く、それらの魅力を市民に伝え、地元の魅力を気付かせることに大きく貢献した。
- ・実際に現場で活動しているガイドも、子どもたちの姿勢を見て、改めてガイドの基礎から学習して自分たちのレベルを高めなければならないと感じさせるようになっており、市全体のボランティアガイドのスキルアップ、そして養成に大きく貢献した。
- ・これまで、中沢中学校の総合学習では地域を知るという学習はしていたが、今回のガイド事業が人材育成の面において、貴重な体験になると感じたということで来年度以降も学校事業の一つとして継続していくことを検討してくれている。
- ・山の楽校では今後も生徒をガイドとして活用したいと意欲を示している。

●今後の対応について

今回の事業は、観光と教育の観点からも非常に効果的な事業と考える。

自分の住む街に自信と誇りを持てる、次世代の豊かな心を持った子どもたちを育てる環境づくりとしては非常に有効と考えられることから、引き続き協会及び市全体としても継続・拡大できるようにしたい。

観光コンベンション協会の方針

観光ボランティアガイドの育成事業は21年度も継続して実施するので、その中に中学生のボランティアガイド育成事業として講師の手配、派遣等の依頼があれば可能な限り対応したい。

中沢中学校の方針

総合学習として地域を学ぶことは非常に重要なので、21年度についてもガイド育成事業として1年生に対し勉強会を開催したい。

今年度ガイドとして活動した生徒たちは2年生で職場体験事業があるので、引き続き山の楽校でのガイドとして活動する予定である。また新1年生の中の希望者に対し、第2期の山の楽校ボランティアガイド育成事業を実施したい。

今後の課題

- ・子どもたちにどこまでのレベル（スキル）を求めるかの判断が難しい。
- ・将来的に事業としての活動から広がり、普段の体験講座などでも活躍してもらおうとなったときにお客様から料金は徴収することが可能なのか。（就労扱いになるのか）
- ・受け入れ施設のバックアップと学校の協力が最重要。学校に負担はかけられないし、教師及び市職員等も人事異動があるので、継続させるのであれば、地域の支援が必要。

●報道関係について

本事業に関するリリースは2度（開講式とガイド事業修了事）別紙のとおり行った。

- ・方法

八戸市庁の市政記者クラブ（31社）すべてへリリース。

- ・成果

開講式（2社）—デーリー東北新聞社、読売新聞

事業修了（2社）—デーリー東北新聞社、東奥日報社

また、取材以外では青森県の人材育成プロジェクトチームの視察があり。

報道機関各位

(社)八戸観光コンベンション協会
会長 天摩正行

中学生ボランティアガイドによる新たなおもてなし 「山の楽校ボランティアガイド育成事業」開講式開催のお知らせ

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、今年度、観光庁の事業である「平成20年度 児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業モデル事業」について、当協会が申請した下記事業が採択されました。

この度、事業の実施にあたり、下記のとおり開講式を開催いたしますので、広く周知いただきますようご案内申し上げます。

記

1 ガイド育成事業実施概要

(1) 名称：「山の楽校ボランティアガイド育成事業」

南郷区中沢中学校の生徒が、山の楽校での観光ガイドの実践により、地域の魅力について学び、郷土への誇りを育むとともに、観光ガイドを通して、人との触れ合いの大切さを学ぶ。

(1) 主体：(社)八戸観光コンベンション協会・八戸市

(2) 期間：平成20年12月～平成21年2月

(3) スケジュール及び内容 別紙参照

(4) 参加者：中沢中学校 (6名)

中山貴智(なかやま たかのり)、曾我美喜(そが みき)、曾我恵美(そが めぐみ)
中山友加子(なかやま ゆかこ)、服部滯(はっとり みお)、
松長美香子(まつなが みかこ)

2 ガイド育成事業開講式

(1) 日時：平成20年12月1日(月) 午後2時30分

(2) 場所：八戸市立中沢中学校(鹿内裕明校長)

(3) 内容：挨拶 (社)八戸観光コンベンション協会 天摩正行会長
ボランティアガイド紹介
ガイド代表宣誓

参考(今回事業採択された他の地域)

松前町ツーリズム推進協議会(北海道)、湖北町教育委員会(滋賀県)、鹿児島県 石橋記念公園

NPOかごしま探検の会(鹿児島県)

報道機関各位

(社) 八戸観光コンベンション協会
会長 天摩正行

八戸らしさをお客様へガイド！中学生ボランティアガイドの誕生 「山の楽校ボランティアガイド育成事業」閉講式のお知らせ

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、今年度、観光庁からの採択を受け当協会が実施している「平成20年度児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業モデル事業」が2月8日をもって終了いたします。

これまでの講義で、地域の魅力を再発見するとともにガイドの技術やおもてなしの心などを学んだほか、山の楽校での体験講座での実践を通して、新人観光ガイドとして、今後も活躍することとなりました。

この度、今年度最後のガイド実践事業と本事業が修了するのに伴い、下記のとおり閉講式を開催いたしますので、広く周知いただきますようご案内申し上げます。

記

1 ガイド育成事業実施概要

(1) 名称：「山の楽校ボランティアガイド育成事業」

南郷区中沢中学校の生徒が、山の楽校での観光ガイドの実践により、地域の魅力について学び、郷土愛を育むとともに、観光ガイドを通して、人との触れ合いの大切さを学ぶ。

(1) 主体：(社) 八戸観光コンベンション協会・八戸市

(2) 期間：平成20年12月～平成21年2月

(3) 事業スケジュール及び内容 別紙参照

(4) ボランティアガイド：中沢中学校 1年生（6名）

中山貴智（なかやま たかのり）、曾我美喜（そが みき）、曾我恵美（そが めぐみ）
中山友加子（なかやま ゆかこ）、服部滯（はっとり みお）、
松長美香子（まつなが みかこ）

2 ガイド育成事業閉講式

(1) 日時：平成21年2月8日（日） 12時30分ごろ

(2) 場所：山の楽校（当日、山の楽校では午前9時より「豆の楽校」が開校しており、その中の一角に中学生ボランティアガイドのコーナーを設け、希望者にせんべい焼き体験とそば打ち体験をガイドします）

(3) その他：当日は中学生ガイドに修了証書を授与します

<参考資料>

湖北町教育委員会 モデル事業実施報告書

- 1 事業名 「湖北町子どもボランティアガイド育成事業」
- 2 推進主体
本事業の推進校及び推進委員，事務局員は，下記のとおりである。

	名 前	住所・所属・役職・TEL等
推進校	朝日小学校	湖北町山本1125 TEL:0749-79-0002 (FAX:8038)
	小谷小学校	湖北町丁野 524 TEL:0749-78-0036 (FAX:0003)
	速水小学校	湖北町速水2561-1 TEL:0749-78-0018 (FAX:0970)
推進委員会委員	高橋 文雄	湖北町教育委員会 教育長
	竹内 源一	湖北町まちづくり課 課長
	植田 潤	湖北野鳥センター 専門員
	中村 俊男	朝日小学校 教務主任
	森 豊児	小谷小学校 教務主任
	八木ひとみ	速水小学校 教務主任
	笹原 文雄	湖北中学校 教務主任
事務局	川瀬 晃	湖北町教育委員会 教育参事 湖北町速水2745 TEL:0749-78-8308 (FAX:1617)

3 地域の概要

湖北町は，西はびわ湖に面しており，びわ湖岸にはビオトープを含む美しい水鳥公園が広がっている。公園内には水鳥湿地センターや湖北野鳥センターがあり，野鳥観察の拠点となっている。この一体は尾上温泉と呼ばれ，宿泊施設や道の駅等もあり，写真愛好家（竹生島を背景にびわ湖に沈む夕日は絶景）やつり客も多く訪れている。

近くの湖北町立朝日小学校は，ここを活動拠点として，長年愛鳥モデル校として，環境教育を進めている。

本町の東には，浅井長政の小谷城趾がある小谷山がそびえている。長政と信長の戦いや長政の三姉妹は有名で，多くの歴史愛好家が城跡や小谷城戦国歴史資料館を訪れている。

近くの小谷小学校は，長年にわたり小谷城城祭りを中心に，浅井三代の歴史学習を進めている。

また，本町中央部は，北国街道や国道8号線，JR北陸本線が縦断している。庁舎や文化交流センター，図書館等があるいわゆる町の中心部である。

近くにある速水小学校は，「八朔大祭」を中心に，街道沿いの歴史文化の学習を進めている。

このように本町は、毎年多くの観光客が訪れる自然・歴史・文化環境に恵まれた地域であり、各学校では、この教育環境を活かした「総合的な学習の時間」を展開している。

4 事業全体の概要

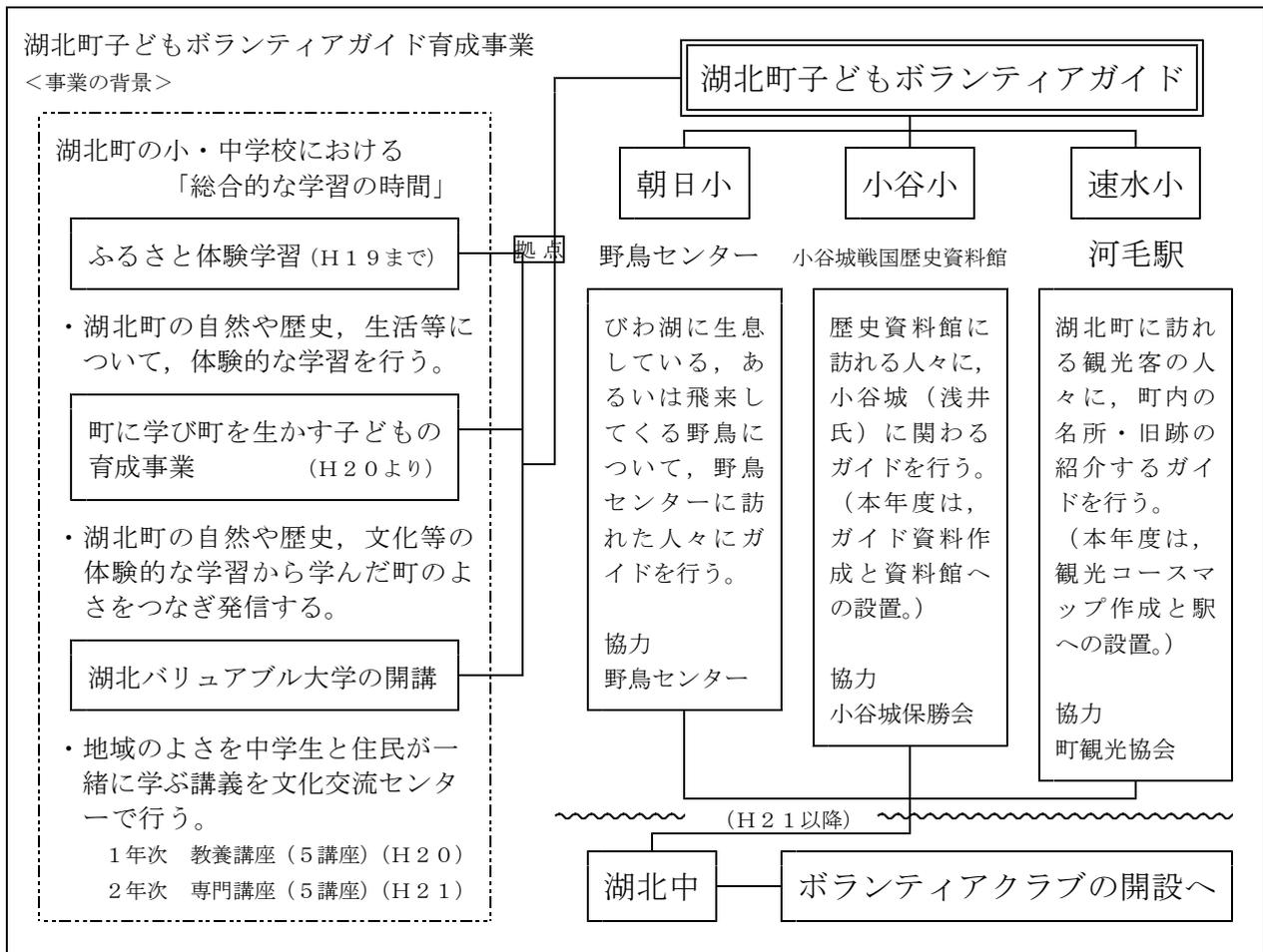
(1) 本事業の基本的な考え方

本事業の基本的な考え方は、次のとおりである。

- ボランティアガイド育成事業を通じて、ふるさと“わが町 湖北町”のよさを知り、そのよさを進んで発信することで、地域を愛し、地域に誇りを持つ児童・生徒の育成を目指す。

(2) 本事業の全体構想図

本事業の全体構造図は、次のとおりである。



(3) 平成20年度事業実施項目

本事業の平成20年度の事業実施項目は、次のとおりである。

- | |
|--------------------------------------------|
| ①朝日小学校：野鳥センターでのボランティアガイド及びガイド研修の実施とガイド資料作成 |
| ②小谷小学校：ガイド資料作成と資料の小谷城戦国歴史資料館への設置 |
| ③速水小学校：ガイド資料（観光コースマップ）作成と資料の河毛駅への設置 |

(4) 事業実施体制

本事業の3小学校別事業実施体制は、次のとおりである。

<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 5px;">推進委員会</div>	
	調整：事務局
①朝日小学校	活動児童：5，6年生「愛鳥委員会メンバー」8人 指導者：委員会指導担当者，教務主任（推進委員会委員） 活動時間：委員会の時間等及び日曜日 活動場所：教室，湖北野鳥センター（湖北町今西／びわ湖岸）
②小谷小学校	活動児童：6年生21名 指導者：6年生担任，教務主任（推進委員会委員） 活動時間：総合的な学習の時間 活動場所：教室，小谷城戦国歴史資料館
③速水小学校	活動児童：6年生37名 指導者：6年生担任，教務主任（推進委員会委員） 活動時間：総合的な学習の時間 活動場所：教室，河毛駅

(5) 事業実施に係る会議一覧及び検討結果

本事業実施に係る会議一覧及び検討結果は、次のとおりである。

ア 会議一覧表

会議名	日 時	検討項目
第1回推進委員会	H20. 10. 17 (FRI) 16:00～18:00	・各校の実施内容について
第2回推進委員会	H20. 11. 13 (THU) 16:00～18:00	・朝日小のガイド及びガイド研修の実施方法と各校の記録の残し方について
第3回推進委員会	H21. 2. 20 (FRI) 16:00～18:00	・各校の実施内容の概略報告について ・事業のまとめと次年度以降の方向性について ・中学校の活動について
その他の打合せ等		
<p>■朝日小学校と湖北野鳥センターとの打合せは、電話等にて必要な時に行った。 ◇内容：①ガイド研修実施日とその内容の決定 ②資料請求 ③ガイド実施日時の連絡 ④湖北野鳥センター来館者の情報提供等</p> <p>■事務局と各小学校との打合せは、電話等にて必要な時に行った。 ◇内容：①進捗状況の確認 ②ガイド実施日時の決定 ②提出書類等の確認</p> <p>■事務局と湖北野鳥センターとの打合せは、電話等にて必要な時に行った。 ◇内容：①ガイド実施日時の連絡 ②湖北野鳥センター来館者の情報提供等</p>		

イ 検討結果一覧表

第1回推進委員会	
日 時	・H20. 10. 17(FRI) 16:00～18:00
検討項目	・各校の実施内容について
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日小学校は、野鳥センターでのボランティアガイド及びガイド研修の実施とガイド資料作成と決まった。 ・小谷小学校は、ガイド資料作成と資料の小谷城戦国歴史資料館への設置と決まった。 ・速水小学校は、ガイド資料（観光コースマップ）作成と資料の河毛駅への設置と決まった。 ◇朝日小学校が野鳥センターでボランティア活動を実施することとなったのは、30年以上続く「愛鳥モデル校」としての実績があり、鳥の好きな児童が多く、普段から専門員から指導を受けているため鳥についての知識が豊富なことが理由である。年度の途中からでも十分に対応できると考えた。 ◇当初、中学校も計画を立て、何らかの活動をと事務局は考えていたが、年度途中であり、小学校ほど時間の融通がきかないので、実施計画にはのせないこととなった。
第2回推進委員会	
日 時	・H20. 11. 13(THU) 16:00～18:00
検討項目	・朝日小のガイド及びガイド研修の実施方法と各校の記録の残し方について
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日小学校のガイド及びガイド研修の実施方法については、次のことが決まった。 <ul style="list-style-type: none"> ①委員会活動の時間を普段のガイド及びガイド研修にあてる。 ②野鳥センターから来館者の情報をもらい、不定期に行けるときのあれば行く（長休み、昼休み、休日）。 ③休日のガイド活動を水鳥の多い1, 2月に3回ほど実施する。 ④ガイド研修は、野鳥センターにおいて専門員の指導で行う。 ・各校の記録の残し方は、主な活動内容を時間を追って記録しておく。その時々に必要な写真やビデオを残しておくことと決まった。
第3回推進委員会	
日 時	・H21. 2. 20(FRI) 16:00～18:00
検討項目	・事業のまとめと次年度以降の方向性について
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> ・事業のまとめは、各校の残しておいた記録をもとに事務局で、指定の様式にそって行うと決まった。 ・第1回の推進会議で活動予定から中学校を外したが、地域貢献活動（学校の年間計画に位置付いた活動）の中で野鳥センターでボランティアガイドができたという報告があったので、事業のまとめに記載することが決まった。 ・次年度以降については、次のことが方向性として話し合われた。 <ul style="list-style-type: none"> ①朝日小学校は、野鳥センターでのガイド活動を続け、野鳥センターの「定例観察会」に同行し、野外での活動も行いたい。 ②小谷小学校は、小谷山周辺で行われる町の祭り等を利用し、ガイド活動を行いたい。 ③速水小学校は、駅で町の名所・旧跡を紹介するガイド活動を行いたい。 ④湖北中学校は、3校のガイド経験者等を中心にした「ボランティアガイドクラブ」を結成したい。

5 個々の実施項目の概要

(1) 朝日小学校の活動

ア 目的

- ①湖北野鳥センターでボランティアガイド活動を実施し、児童が観光客の人々に自分たちの地域のよさを伝えることを通じて、自分たちの地域のよさを見つけたり再確認したりする。また、人の役に立つことの喜び、自己有能感を体得させる。
- ②この地域に生まれ育ったことに誇りをもち、わが町を担っていける人づくりの基礎を養う。

イ 対象

- ①実施者 小学5, 6年生の愛鳥委員会メンバー 8名
- ②実施対象者 湖北野鳥センターに訪れた観光客

ウ 内容

- ①野鳥センターでのボランティアガイド
- ②野鳥センターでのガイド研修
- ③ガイド資料作成

エ 活動経過

活動日時	活動場所	活動内容
H20. 10. 27 (MON) 13:10~13:30	朝日小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアガイド講座：ボランティアガイドについての説明を聞き、ガイド活動に興味を持つ。 <p style="text-align: right;">講師：朝日小学校教員</p>
H20. 11. 5 (WED) 14:15~15:00	朝日小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイド活動実施に向けて、参考書やインターネットを使って鳥の特徴を調べる。 <div style="text-align: center;">  <p>【ガイド資料の下書き】</p> </div>
H20. 11. 20 (THU) 10:25~10:40	朝日小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイド活動を実施するときの鳥の選定をする。 ①コハクチョウ、カイツブリ、オオヒシクイは、必ず説明できるようにする。 ②自分が好きな鳥（マイバード）を①以外から決め、その鳥について説明できるようにする。 ・ ガイド用説明資料を考える。
H20. 11. 25 (TUE) 13:10~13:30	朝日小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイド活動の練習をする。 ①双眼鏡で鳥を見ている人を想定して ②図鑑を参考にして鳥を見ている人を想

<p>H20. 11. 26 (WED) 13:10～13:30</p>		<p>定して ③掲示物等を見ている人を想定して</p>	
<p>H20. 11. 27 (THU) 10:25～10:50</p>	<p>野鳥センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にボランティアガイド活動を行う。 (8人) ■ 8人の来館者へ水鳥等の説明ガイドを行った ■ 来館者に、びわ湖にいるコハクチョウ、カイツブリ、オオヒシクイ等の鳥について説明する。 ■ アンケートの実施 	
	<p>【展示物の説明】</p>		<p>【水鳥の説明をする】</p>
<p>H20. 12. 3 (WED) 14:00～15:00</p>	<p>野鳥センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアガイド研修：ガイドとしての資質向上研修をする。 	
	<p>【センターの資料で学習】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ガイドとしての心構え（来館者の質問への答え方等）を学ぶ。 ■ 代表的なびわ湖の水鳥の特徴について学ぶ。 <p style="text-align: right;">講師：野鳥センター職員</p>	
	<p>【センター職員の講義を聴く】</p>		

H20. 12. 10 (WED) 13:10~15:35	朝日小学校	<ul style="list-style-type: none"> 野鳥センター設置及びガイド活動に使用する「鳥パネル」作成に向けての話し合いをする。
H20. 12. 19 (FRI) 16:00~17:00	野鳥センター	<ul style="list-style-type: none"> 打合せ会：野鳥センターへ写真資料の提供をお願いする(担当職員)等。
H21. 1. 14 (WED) 14:15~15:00 H21. 1. 28 (WED) 13:15~13:35	朝日小学校	<ul style="list-style-type: none"> ガイド用資料「鳥パネル」の作成をする。 <ul style="list-style-type: none"> ■ パネルのデザインや写真の配置を決める。 ■ 説明文章を考える。 ■ パネルの下書きをする。 ■ コンピュータを使って完成させる。 ガイド練習を行う。(鳥の名前と特徴の確認, 話し方の練習)



【ガイドグッズ】

【資料の作成】



H21. 1. 29 (THU) 16:00~17:00	野鳥センター	<ul style="list-style-type: none"> 打合せ会：野鳥センターの「定例水鳥観察会」でガイド活動を実施するための打合せをする(担当職員)等。
---------------------------------	--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------



【ガイド用資料と名札】

【野鳥センター設置用資料】



<p>H21. 2. 1 (SUN) 9:45~11:00</p>	<p>野鳥センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野鳥センターの「定例水鳥観察会」に参加し、ガイド活動を実施する。(6人) ■17名の来館者へ水鳥等の説明ガイドを行った。 ■アンケートの実施
		
		<p>【作成した資料を使って説明】</p>
		
		<p>【インフォメーションボードで鳥の数をチェック】</p>
<p>H21. 2. 4 (WED) 14:15~15:15</p>	<p>朝日小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアガイド活動の反省会をする。 ■ガイド後の感想文を書く。
<p>H21. 2. 9 (MON) 13:15~13:35</p>	<p>朝日小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイド練習を行う。(鳥の名前と特徴の確認、話し方の練習)
<p>H21. 2. 12 (THU) 13:15~13:35</p>		
<p>H21. 2. 15 (SUN) 13:00~14:15</p>	<p>野鳥センター</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアガイド活動を行う。(3人) ■15名の来館者へ水鳥等の説明ガイドを行った。 ■アンケートの実施

	<p>【鳥の位置を確認】</p> 	 <p>【ガイド資料で鳥の種類を説明】</p>
<p>H21. 2. 16 (MON) 13:15～13:35</p>	<p>朝日小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアガイド活動の反省会を行う。 ■ガイド実施後の感想文を書く。

オ 活動結果（アンケート調査等）

ボランティアガイド活動を行った平成20年11月27日，平成21年2月1日，2月15日について，下記のとおり児童及び利用者に対してアンケートを行った。

名 称	実施期間	人数	概 要
利用者アンケート	①平成20年11月27日	8	・ガイド利用者に対してアンケート調査を実施
	②平成21年2月1日	17	
	③平成21年2月15日	15	
児童アンケート	①平成20年11月27日	8	・ガイドを実施した子どもたちに対してアンケート調査を実施
	②平成21年2月1日	6	
	③平成21年2月15日	3	

(ア) 利用者アンケートについて

3回のガイド活動をまとめた利用者アンケートについては，次のような結果を得た。

Q1-1：ボランティアガイドの利用歴	人数
①子どもに限らずガイド利用は初めて	26
②ガイド利用歴はあるが，子どもは初めて	14
③子どもガイドの利用歴あり	0
Q2-1：子どもボランティアガイドのよさ	人数
①地域社会への参画意識の向上	21
②地域社会への興味関心の向上	31
③社会性が身に付く	26
④生きていく上での自信につながる	18

Q3-1：子どもボランティアガイドの満足度は		人数
子どもとの交流	5 (満足)	1 2
	4 (やや満足)	2 2
	3 (どちらでもない)	6
	2 (やや不満)	0
	1 (不満)	0
ガイド内容の情報量	5 (満足)	1 3
	4 (やや満足)	2 4
	3 (どちらでもない)	3
	2 (やや不満)	0
	1 (不満)	0
ガイド内容のわかりやすさ	5 (満足)	1 2
	4 (やや満足)	2 1
	3 (どちらでもない)	7
	2 (やや不満)	0
	1 (不満)	0
Q3-2：具体的によかった点・工夫した方がよい点		
<p>【よかった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沢山の情報をメモして準備していた。それを見ながら一生懸命説明した。とても印象に残った。＜3名＞ ・子どもたちと話をしながら観察できて、とても楽しかった。＜2名＞ ・豊富な知識を身に付けていて感心した。話し方も丁寧でとても接しやすかった。＜7名＞ ・こちらが思った以上に多くのことを知ることができた。 ・びわ湖に生息する様々な野鳥について、わかりやすく丁寧に教えてくれた。＜4名＞ ・どんな質問にも一生懸命答えてくれた。＜4名＞ ・鳥パネルがよくできていた。これで説明がよくわかった。＜5名＞ ・笑顔がすてきでした。 ・自信をもってガイドしていた。 ・地域の子どものと交流できてとてもよい。心温まる思いがした。 ・子どもなりの知っていることも話してくれるので、おもしろい情報が得られた。 <p>【工夫した方がよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張のせいもあるが、自分の知っていることを話し過ぎの感じがした。相手が全くの素人であるので、専門的な内容をもっとかみ砕いて話す練習をするとよいと思った。 ・自信のない子は、複数で始めては。直ぐ慣れるとは思いますが。＜2名＞ ・ボランティアの人数は、もっと多い方がいい。 		
Q4-1：今後もボランティアガイドを利用したいか		人数
①また是非		1 3
②機会があれば		2 7
③あまり利用したくない		0
④利用したくない		0
⑤わからない		0
Q4-2：なぜそう感じたか		
<ul style="list-style-type: none"> ・説明内容がわかりやすかった。＜4名＞ ・子どもの一生懸命さがよかった。うれしかった。＜5名＞ ・地域の子どものとの交流は楽しい。＜3名＞ ・心が和みました。 		

- ・親しみやすく、気軽に聞け、会話が楽しい。(子どもの言葉なのがよい。) < 3名 >
- ・子どもにとっても、いろんな人たちとの交流ができてよい。
- ・地元の子どもたちの知識の多さに驚かされた。パンフにはない、地元ならではの話も聞くことができた。 < 2名 >
- ・一人で観察しているより、子どもと話しながら鳥を見られて楽しかった。
- ・子どもたちががんばっている姿をまた見たいから。 < 2名 >

【滋賀県内】 27 【京都】 2 【福井】 3 【大阪】 3 【愛知】 4 【兵庫】 1

利用者全員が子どもガイドの経験はなかったが、このアンケートから、子どもとの交流、情報量、わかりやすさの全てにおいてかなり満足していることがわかった。具体的には、子どもの知識の豊富さや一生懸命さ、話し方の丁寧さに共感しているようである。

今後の利用についても、地域の子どもとの交流に価値を感じており、全員が利用したいと答えていた。

(イ) 児童アンケートについて

3回のガイド活動をまとめた児童アンケートについては、次のような結果を得た。

Q1-1：ガイド活動に参加した目的は	人数
①自分たちの地域を観光客に知ってほしい	8
②地域について学習した成果を活かしたい	5
③地域に貢献する活動がしたい	2
④観光客に接したい	2
Q2-1：ガイド活動に参加してよかった点	人数
①自分たちの地域に興味をもてた	1
②自分たちの地域を紹介する面白さを知った	6
③人の役に立ったと感じた	10
④旅行の楽しさを知った	0
Q3-1：ガイド活動の課題は	人数
①観光客がなかなかガイドを利用しない	1
②観光客の質問に答えるのが難しい	4
③観光客に伝えるのが難しい	12
④観光客にガイドする内容を理解するのが難しい	0
Q4-1：今後もガイド活動を続けたいですか	人数
①引き続き活動したい	11
②できれば引き続き活動したい	6
③あまり続けたいとは思わない	0
④続けたくない	0
Q4-2：なぜそう感じたか	
<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの役に立つのならやりたい ・お客さんに鳥のことを知ってもらいたい(特にコハクチョウを) ・やってみてお客さんがわかってくれたから < 2名 > ・観光客の人といろいろな話ができ(説明できて)楽しかった < 5名 > ・ガイドすることが楽しくなったから < 4名 > 	

子どもたちは、観光客に自分たちの知っていることを伝えることの難しさを感じながらも、人と交流し地域のよさを伝えることの楽しさや人の役に立ったことの満足感を味わったようである。

このことは、今後も活動を続けたいと全員が感じていることでもわかる。

(7) 児童の感想について

アンケートとは別に、活動後の感想を書いていた児童が4人いたので、次に紹介する。

朝日小学校の愛鳥委員会として、野鳥センターへボランティアガイドに行きました。私たちが説明すると「ああー、なるほど、そうなの」などよくわかったように受け答えしてくださいました。

ボランティアガイドとして人と接してみると、相手の人にもわかってもらえるし、また、私の方も振り返れたり、新しく発見したり、もっと知りたいと思ったり、とってもいい勉強になりました。これから将来社会に出て人との接し方など、必要になることが学べるのでとってもいいです。(I. M)

私は、今回のボランティアガイドに参加してよかったと思います。なぜなら、ガイドをして人の役に立てたと感じたからです。また、私たちが好きな鳥のことをわかってもらえるからです。

6年生の最後にこのボランティアガイドができてよかったと思います。一番うれしかったことは、説明したときにお客さんがわかったとうなずいてくれることです。最後にみんな「ありがとう！」と言ってくれました。うれしかったし、人の役に立てたんだなと思いました。いい経験になりました。

(G. R)

ぼくは、1時間ぐらいお客さんを相手にガイドをしました。沢山話せて説明もしっかりできて、とても楽しかったです。今日は、びわ湖がとても荒れていて水鳥がほとんどいませんでした。でも、オナガガモという見たこともない鳥を見つけることができたし、10人以上にガイドができました。とても満足のいくボランティアでした。

(I. R)

私は初めてボランティアガイドをしました。いっぱい人が来ていました。私は始め緊張してしゃべれませんでした。他の子は、どんどんお客さんにしゃべっていました。なんとか女の人にしゃべってみると、いろんな鳥のことを聞いてきました。「あの茶色の鳥は何？」と聞いたので、望遠鏡をのぞいてみると「オオヒシクイ」でした。お客さんに説明しました。「そうですか。よく知っているね。」と言ってくれて、私は「わかってもらえてよかった。」と思いました。最後に「ありがとう」と言ってもらえて、私は、ボランティアガイドに来てよかったです。

(Y. S)

これらの感想からも、自分たちが一生懸命に行った活動に対して、「わかった。」と言ってもらえたり、「ありがとう。」と言ってもらえたりして、子どもたちが満足し、自分の行ったことが役に立ったんだと感じていることがわかる。

このように、成長期の子どもたちが自分の力で人の役に立てた喜びや何かをやり遂げた満足感を得られたことは、これからの人生の大きな自信になることであろう。特に、今日の子どものコミュニケーション能力の低さや人との交わる力の弱さを思うとき、この子どもボランティアガイドの意義は、大変大きいと考える。そして、それが自分たちのふるさとと密接に結びついていることの意味もまた大きいと感じる。

(2) 小谷小学校の活動

ア 目的

- ①小谷城戦国歴史資料館に設置するボランティアガイド資料の作成を通じて、自分たちの地域のよさを見つけたり再確認したりする。そして、この資料を使ってわが町のよさを伝えたいと思う気持ちを育む。
- ②この地域に生まれ育ったことに誇りをもち、わが町を担っていける人づくりの基礎を養う。

イ 対象

- ①実施者 小学6年生 21名
- ②実施対象者 小谷城戦国歴史資料館に訪れた観光客

ウ 内容

- ①ガイド資料作成
- ②資料の小谷城戦国歴史資料館への設置

エ 活動経過

活動日時	活動場所	活動内容
H21. 1. 13(TUE) 9:35~10:20	小谷小学校	・ ボランティアガイド講座：ボランティアガイドについての説明を聞き、ガイド活動に興味を持つ。今回は、ガイド資料作りにチャレンジすることをめあてに持つ。 講師：小谷小学校教員
H21. 1. 14(WED) 10:45~11:30	小谷小学校	・ ガイド資料作りの計画を立てる。 ①班毎に1つずつ作る。(5班/5セット) ②パンフレット形式にする。 ③自分たちの手書きで、絵や図を入れて見て楽しいものにする。 ④カラー印刷して、小谷城戦国歴史資料館に設置する。
H21. 1. 19(MON) 13:50~14:35 H21. 1. 22(THU) 9:35~10:20 H21. 1. 23(FRI) 14:40~15:25	小谷小学校	・ ガイド資料の下書きをする。 ■レイアウトと各部分の記述内容を考える。 ■鉛筆で下書きをする。 ■子どもたちは、総合的な学習の時間で、戦国の武将浅井氏に関することや小谷城址のある小谷山周辺の歴史、地理について学んで来ている。また、毎年、地域住民と共に小谷小城祭りを行っている。(城みこし、武者行列 等)
H21. 1. 26(MON) 13:50~15:25 H21. 1. 28(WED) 14:40~15:25 H21. 1. 29(THU) 14:40~15:25	小谷小学校	・ ガイド資料の清書をする。 ■色を考えながらカラーペン等で描く。 ■イラスト等を付け足していく。 ■グループ毎に話し合いながら、細部を修正する。



【ガイド資料を作成する児童】

H21. 1. 30 (FRI)
11:35~12:20

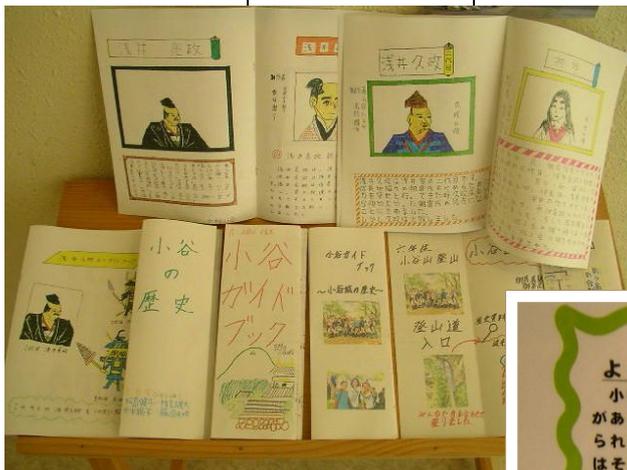
小谷小学校

- ・ガイド資料を完成する。
- 誤字脱字を調べ最終確認をする。
- スキャナで取り込み，カラー印刷して部数を揃える。

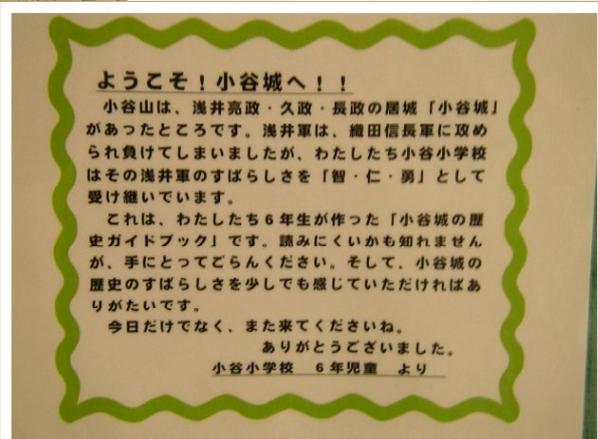
H21. 2. 25 (WED)
13:00~13:30

小谷城戦国
歴史資料館

- ・完成したガイド資料を小谷城戦国歴史資料館に設置する。



【できあがったガイド資料】



【ガイド資料の説明】



【ガイド資料を設置する】



【館長へガイド資料を手渡す】

エ 児童の感想

1月19日

5時間目にガイドブックの下書きを始めました。ミスをしないうように注意しながらやるので、とてもつかれました。かなりたいへんだと思いました。でも早く仕上げたいです。

6年 K. Y

1月19日

今日は5時間目にガイドブックづくりの下書きをしました。グループごとに作るのですが、私は、「血統略図」を写すのがとてもたいへんでした。血統略図を見ると、浅井長政の家の歴史がよくわかりました。まちがえないようにしんちょうに下書きしました。

6年 W. H

1月26日

5～6時間目は、ガイドブックの清書をしました。下書きをカラーペンなどでなぞっていくのですが、とても緊張しました。このガイドブックが小谷山を訪れる人たちに見てもらえると思うと、できるだけいねいに作り上げたいと思います。あんなに真剣になって書いたのは、ひさびさだったのでとてもつかれました。

6年 K. K

1月26日

今日は、総合が2時間がありました。ペンを使って仕上げていきました。ぼくが担当するページは、ほぼ完成です。次は友達のところを手伝おうと思います。たくさんの人が見てくれるといいなと思いますし、ガイドもしてみたいと思います。完成が楽しみです。

6年 I. S

(3) 速水小学校の活動

ア 目的

- ① J R河毛駅に設置するボランティアガイド資料（観光コースマップ）の作成を通じて、自分たちの地域のよさを見つけたり再確認したりする。そして、この資料を使ってわが町のよさを伝えたいと思う気持ちを育む。
- ②この地域に生まれ育ったことに誇りをもち、わが町を担っていける人づくりの基礎を養う。

イ 対象

- ①実施者 小学6年生 27名
- ②実施対象者 J R河毛駅に訪れた観光客

ウ 内容

- ①ガイド資料（観光コースマップ）作成
- ②資料の河毛駅への設置

エ 活動経過

活動日時	活動場所	活動内容
H20. 12. 2 (TUE) 10:50~11:35	速水小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアガイド講座：ボランティアガイドについての説明を聞き、ガイド活動に興味を持つ。今回は、観光コースマップ作りにチャレンジすることをめあてに持つ。 <p style="text-align: right;">講師：速水小学校教員</p>
H20. 12. 9 (TUE) 10:50~12:25	速水小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光コースマップ作りの計画を立てる。 ①それぞれの児童が1枚ずつ試作マップを作る。 ②名所、旧跡等の簡単な説明を入れる。 ③絵を入れて分かりやすくする。 ④コンピュータ作図して試作を完成させる。 ⑤試作作品から1, 2点を選び、河毛駅での設置・配付用を手書きで作る。
H21. 1. 20 (TUE) 10:50~12:25 H21. 1. 27 (TUE) 10:50~12:25 H21. 2. 10 (TUE) 10:50~12:25	速水小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光コースマップ（試作）作りをする。 ■それぞれの児童が試作マップをコンピュータで作る活動を進める。 ■子どもたちは、5月から7月にかけて、「地域にある歴史的遺産を巡る活動」や「地域の祭りを学ぶ活動」（総合的な学習の時間）を行っており、その時に得た知識を土台にして観光コースマップを作った。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ex. 湖底遺跡資料館 若宮古墳 山本山古墳 小谷城趾 小谷城戦国歴史資料館 北国街道（道標、渡し跡 等） 地域の祭り（八朔祭り）</p> </div>



【観光コースマップ（試作）】



H21. 2. 17(TUE)
10:50~12:25

速水小学校

・観光コースマップ（掲示・配付用）作りをする。

H21. 2. 24(TUE)
10:50~12:25

■代表児童により、手書きの掲示・配付用マップを作る。



【マップを作成する児童】



H21. 3. 3 (TUE) 10:50~11:35	河毛駅	・観光コースマップ（掲示・配付用）を河毛駅に設置する。
		<p>【配布用マップ】</p> 
		<p>【掲示用マップと子どもたち】</p>

(4) 湖北中学校の活動

ア 目的

- ①地域貢献活動（ボランティア活動）の一環として、湖北野鳥センターでボランティアガイド活動を実施し、生徒が観光客の人々に自分たちの地域のよさを伝えることを通じて、自分たちの地域のよさの再確認や人の役に立つことの喜び、自己有能感を体得させる。
- ②この地域に生まれ育ったことに誇りを持ち、わが町を担っていける人づくりの基礎を養う。

イ 対象

- ①実施者 中学3年生 4名
- ②実施対象者 湖北野鳥センターに訪れた観光客

ウ 内容

- ①野鳥センターでのボランティアガイド
- ②ガイド研修の実施

エ 活動経過

活動日時	活動場所	活動内容
H20. 9. 19 (FRI) 13:50~14:40	湖北中学校	・ ボランティア講座：学年集会でボランティアの意義等について学習する。 講師：湖北中学校教員
H20. 9. 22 (MON) 13:50~14:40	湖北中学校	・ 活動先の湖北野鳥センターについてHPやパンフレット等で調べる。
H20. 10. 3 (FRI) 13:50~14:40	湖北中学校	・ 活動内容を決定し，打合せのアポイントをとる。
H20. 10. 10 (FRI) 13:50~15:40	野鳥センター	・ 野鳥センターで活動の打合せをする。 活動1の計画と準備をする。
H20. 10. 17 (FRI) 13:50~15:40	野鳥センター	【活動1】 ・ 野鳥センターの清掃と展示物，資料等の整理をする。
H20. 10. 20 (MON) 13:50~14:40	湖北中学校	・ 活動1の反省と活動2の準備をする。
H20. 11. 7 (FRI) 13:50~15:40	野鳥センター	【活動2】 ・ 望遠鏡の扱いや展示資料の利用の仕方等を学習する。 講師：センター職員 ・ 施設利用者に鳥の説明や施設の案内をする。
H20. 11. 10 (MON) 13:50~14:40	湖北中学校	・ 活動2の反省と活動3の準備をする。
H20. 11. 14 (FRI) 13:50~15:40	野鳥センター	【活動3】 ・ 代表的な水鳥及びその説明の仕方について学習する。 講師：センター職員 ・ 施設利用者に鳥の説明や施設の案内をする。
		<p>【鳥の位置を教える生徒】</p> 

H20. 11. 17 (MON) 13:50~14:40	湖北中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・活動3の反省と活動4の準備をする。
H20. 11. 21 (FRI) 13:50~15:40	野鳥センター	<p>【活動4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水鳥のえさとなるものやセンター周辺の生態系等について学習する。 講師：センター職員 ・施設利用者に鳥の説明や展示物の説明，施設の案内をする。
 <p>【来館者と歓談する生徒】</p>		 <p>【掲示物の説明】</p>
H20. 12. 8 (MON) 13:50~14:40	湖北中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・活動4の反省と活動5の準備をする。
H20. 12. 12 (FRI) 13:50~15:40	野鳥センター	<p>【活動5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者に鳥の説明や施設の案内をする。
 <p>【センターのパンフレットを使い説明する】</p>		
H20. 12. 15 (MON) 13:50~14:40	湖北中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・活動5の反省をする。

6 事業のまとめと今後の対応

(1) 成果について

成果としては、次のことが考えられる。

- ①子どもたちは、ボランティアガイド活動をやり終えた満足感と人の役に立てた喜びを感じることができた。また、次への意欲も十分に感じられた。成長期の子どもたちにとって、ふるさとのよさを基盤として人と豊かに交わり、自己有能感を育てていけることの意味は、大きいと考える。
- ②ガイド利用者には、子どもたちのガイドに満足し、また利用したいとの思いをもってもらった。また、子どもガイドの価値もそれぞれに感じてもらった。湖北町のよさを子どもたちを通じて発信できたと考える。
- ③ガイド活動までは至らなかった学校においても、次へつながる活動ができ、ガイドへの興味を子どもたちはもつことができたと考える。

(2) 課題について

課題としては、次のことが考えられる。

- ①平日は観光客は少なく、定期的な活動は仕組みにくい。多い日の情報を得て活動するにしても、不定期の活動になるので時間割に左右されない昼休みや長休みの活動となり時間が十分に取れない。
- ②土曜、日曜の特設した活動に依らざるを得ない。この場合、スポーツ少年団等他の活動を児童がしているので、年度当初に計画的に設定しておいても人数が集まらないことが考えられる。

したがって、体験的な学習により地域のよさを学習する活動は、総合的な学習の時間、社会科等で対象の全ての児童で行う。そして、ボランティアガイド活動は、自分たちが学んだ郷土のよさの発信や地域との積極的な関わりの方法の一形態として捉えて、可能な（この方法を選んだ児童・生徒の）人数で行うのがベターだと考えられる。

(3) 次年度の方向性について

次年度の活動としては、次のことが考えられる。

- ①朝日小学校は、引き続き野鳥センターでのガイド活動を続け、野鳥センター主催の「定例観察会」に同行し、野外での活動も行う。
- ②小谷小学校は、小谷山周辺で行われる町の祭り等を利用し、ガイド活動を行う。
- ③速水小学校は、駅で町の名所・旧跡を紹介するガイド活動を行う。
- ④湖北中学校は、3校のガイド経験者等を中心にした「ボランティアガイドクラブ」を結成する。



7 報道関係内容

日付	平成21年2月17日(火曜日)	新聞名	中日新聞(びわこ版)
タイトル	朝日小の3児童 野鳥の生態紹介 センター来館者に		
記事内容			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>朝日小の3児童 野鳥の生態紹介 センター来館者に</p> <p>朝日町の朝日小学校の3児童が、近くの湖北野鳥センターでボランティアガイドを務める、センターから観察できる琵琶湖の水鳥について来館者に説明した。</p> <p>三人は、図鑑などを参考に学校で作った解説カードを手に、湖で羽を休めているコハクチョウやカモ類の大きさを紹介。来館者の質問に答えたり、観察用の望遠鏡を調整したりしていた。</p> <p>同小は野鳥を知ろうと力を入れている。(近藤歩)</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>来館者に琵琶湖の水鳥について説明する朝日小の児童ら—湖北野鳥センターで</p> <p>三人は、愛鳥委員会のメンバ―。センター職員からガイドの仕方も教わってきた。委員長は「うまく説明できて、人の役に立てた」と口をそろえていた。</p> </div> </div>			

日付	平成21年3月3日(火曜日)	新聞名	中日新聞(びわこ版)
タイトル	できたよ観光マップ 速水小6年生 JR河毛駅に掲示		
記事内容			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>できたよ観光マップ 速水小6年生 JR河毛駅に掲示</p> <p>湖北町の内図三枚を張り付け、速水小学校の戦国武将・浅井氏や名所をまとめた観光マップを作製した。昨年20年ぶりに武者行列が復活した八朔大祭など、町内全域の見どころをイラスト入りで紹介している。持ち帰り用に案内図の縮小コピーや手描きのしおりも用意した。</p> <p>六年生三十六人が一学期に歴史探訪、二学期に一人一人がパソコンで案内図を作った。これを参考に、八人が中心となり一月半ばかりマップづくりに取り組んだ。境惇介君は「湖北町の歴史がいろいろ分かった。駅を利用する方にぜひ見てもらいたい」と満足げだった。(近藤歩)</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>手作りの観光マップを掲示した速水小の6年生ら—湖北町のJR河毛駅で</p> </div> </div>			

8 本事業で児童が作成したガイド資料一覧

- ①ガイド活動用「鳥パネル」
- ②野鳥センター設置・配付用「縮小版鳥パネル」
- ③河毛駅設置「観光ガイドマップ（手書き版）」
- ④配布用縮小版「観光ガイドマップ（手書き版）」
- ⑤試作「観光ガイドマップ（コンピュータ版）」
- ⑥小谷城戦国歴史資料館設置・配付用「ガイドブック（手書き）」

湖北町へのお越しをお待ちしています！



子どもボランティアガイド

<参考資料>

石橋記念公園 NPOかごしま探検の会 モデル事業実施報告書

1 推進主体

(1) 体制

石橋記念公園 NPOかごしま探検の会
代表 菅井 寛

事務局 石橋記念公園 管理事務所内
〒892-0812 鹿児島県鹿児島市浜町 1-3
事務局担当 田峰・末吉
かごしま探検の会 東川 隆太郎 ・ 東川 美和

(2) 所属組織概要

① 鹿児島県立 石橋記念公園 平成 12 年 4 月開園

〒892-0812 鹿児島市浜町 1-3

鹿児島県都市公園

主管：鹿児島県都市計画課

指定管理者：セイカスポーツセンター・南日本総合サービス・

井上総合緑化建設共同事業体管理(平成 18 年 4 月～)

平成 19 年 2 月「日本の歴史公園 100 選」認定

② かごしま探検の会(特定非営利活動法人 まちづくりフォーラム・かごしま探検の会)

〒892-0815 鹿児島市易居町 1-2-6 ソーホーかごしま 18 号

「鹿児島まるごと博物館」構想をテーマに鹿児島の魅力を再発見しそれらを、
観光・教育・まちづくりに活用する活動を展開している。

2 対象地域概要

石橋記念公園内

鹿児島市の中心部を流れる甲突川に架けられていた五つの石橋のうち平成 5 年 8 月の水害で流失を免れた 3 橋を移設・復元した公園。

公園内には歴史的遺構が多く、平成 19 年度には入園 100 万人達成し、開園以来多くの県民に広く親しまれている。

石橋記念館は、石橋の架橋技術や歴史を学べる資料館となっている。

また、周辺地域は「鹿児島のはじまり上町」といわれる地域であり、郷土の歴史を学び・感じることでできる公園となっている。

3 事業全体の概要

(1) 活動趣旨（児童・生徒によるボランティアガイドの基本的な考え方）

石橋記念公園・記念館において、「子ども学芸員」を設置し、子どもたちが石橋の歴史や架橋技術を学び、体験する中で、鹿児島の歴史や故郷への興味をもってもらい、様々な発見・感動の場所として、また子ども自身が考え、調べ、学ぶ力をつけることができる場所として提供し、今後の公園の利用促進に資する。

また、「子ども案内ガイド」としてのグループ活動のできるリーダーの育成や発表の場としての提供も行う。

(2) 活動内容

- ① 活動時間 平成20年4月1日 ～ 平成21年3月31日（数回）
- ② 活動対象 イベントや勉強会に参加できる小中学生親子すべて
- ③ 長期休みを利用した勉強会 別紙参照
- ④ 園内ガイドの育成と実施

4 活動実施報告

(1) 子ども学芸員申込み < 29名 >

(2) 夏休み勉強会

実施日	実施名	参加人数
平成20年8月3日（日）	1日職員体験 午前・午後	8名
平成20年8月9日（土）	歴史探検 I N石橋記念公園 午前	11名
〃	〃 午後	2名
平成20年8月23日（土）	〃 まとめ発表	9名

(3) 子どもガイド申込み < 13名（全て学芸員申込み者） >

(4) 園内ガイド育成勉強会

実施日	内容	参加人数
平成20年10月4日（土）	ガイドについて説明・担当・グループ決め	13名
平成20年10月11日（土）	園内ガイド勉強・案内状作成	13名
平成20年10月18日（土）	園内ガイド勉強・案内状作成	13名
平成20年10月25日（土）	園内ガイドリハーサル	13名

(5) 子どもガイド・勉強会実施状況

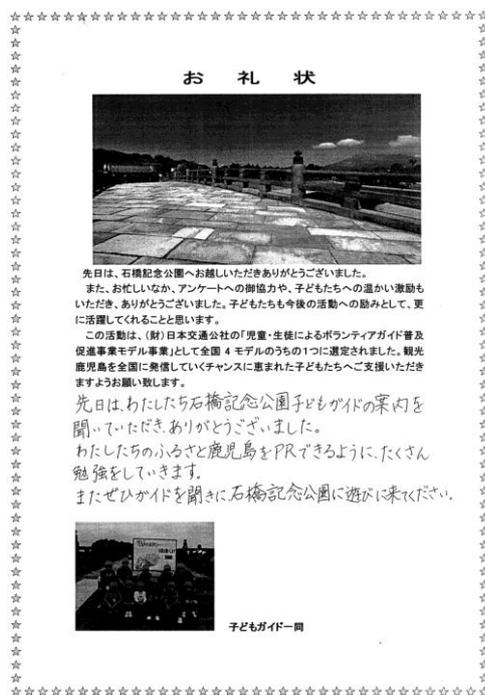
平成 21 年 3 月 14 日状況

実施日	実施内容	実施時間	案内数	参加人数
平成 20 年 11 月 1 日(土)	活動紹介	9:00～ 秋のお祭り開催式		13 名
平成 20 年 11 月 1 日(土)	ガイド	10:00～12:00	13 組 15 名	13 名
平成 20 年 11 月 22 日 (土)	ガイド	10:00～16:00	11 組 39 名	13 名
平成 20 年 12 月 13 日 (土)	勉強会 多賀山探検	10:00～12:00		10 名
平成 20 年 12 月 20 日 (土)	ガイド	10:00～16:00	10 組 50 名	11 名
平成 20 年 12 月 26 日 (土)	ガイド	10:00～12:00 自主ガイド実施	3 組 50 名	4 名
平成 21 年 1 月 10 日(土)	勉強会 多賀山探検 まとめ発表	10:00～勉強会 (薩英戦争について) 11:00 と 14:00～ ガイダンスホールにて各班毎 「まとめ」発表		12 名 保護者 6 名
平成 21 年 1 月 24 日(土)	ガイド	10:00～16:00 *悪天候のため資料整理作業	1 組 1 名	10 名
平成 21 年 2 月 14 日(土)	勉強会	10:00～12:00 黎明館で学び! 史跡をたどる		10 名
平成 21 年 2 月 28 日(土)	ガイド	10:00～16:00	10 組 44 名	10 名
平成 21 年 3 月 14 日(土)	勉強会	10:00～16:00 シティビューに乗って春の史 跡探検		12 名
平成 21 年 3 月 21 日(土)	ガイド	10:00～16:00		
平成 21 年 3 月 28 日(土)	ガイド	10:00～16:00		
計			48 組 199 名	

5 P R活動実施状況

①子どもたちの手書きの「招待状・お礼状」の作成

マスコミ・個人宛に招待状を送付し、また、ガイド利用をいただいたお客様へお礼状を発送している。どちらも反応が良くマスコミ取材や利用客のご紹介をいただく状況である。



②公園HPやイベント情報サイトを使ったP R

石橋記念公園HP 新着情報 <http://www.seika-spc/jp/ishi/>
YAHOO!Japan 全国イベント配信 [@nifty 旅行イベント](http://local.yahoo.co.jp)
<http://travel.nifty.com/cs/catalog/travelevent1/1.htm>

6 アンケート調査結果 平成21年2月28日現在

(1)利用者アンケート 回収数 57枚 (59名分)

①子どもガイドの取り組みをご存じだったか?

知っていた	16
知らなかった	43

②知っていたの回答の方で何でお知りになりましたか?

チラシ	0
新聞記事	3
招待状	5
その他	16

③子どもガイドを利用して

とても良かった	47
よかった	10
もう少し頑張れば良くなる	1
もっと頑張っ欲しい	0
その他	1

④子どもガイドの利用は？

子どもガイドに限らずガイド利用は初めて	31
ガイド利用はあるが子どものガイドは初めて	0
以前に子どもガイドを利用したことがある	28
その他	0

⑤今後の利用について

またぜひ利用したい	39
機会があれば利用したい	20
あまり利用したいと思わない	0
利用したくない	0
わからない	0

⑥取り組みについて

よいことだ	49
自分の子ども参加させたい	5
他の場所でもやってほしい	13
やる意味が感じられない	1
その他	2

性別

男	18
女	25
無回答	16

⑦ 感想・子どもたちへの激励（平成21年2月28日現在）

- * 寒い中ありがとうございました。もう少し世間にアピールしたら良いと思いました。
- * すごく良かったです。どんどん勉強して知識も増やしてってください。
- * 子どもによる「ガイド案内」という新鮮味あるイベントは良かった。
- * 子どもさんたちが良く説明してくださり、今までわからなかった事が良くわかり嬉しく思いました。
- * 地元の歴史を勉強する事はとても大切です。素晴らしい企画なり。
- * いろんな事に興味を持つ姿勢！人の役に立つことをする姿勢！とても素晴らしいと思います。一生懸命勉強したのだな～と思うと感動します。これからも期待します。
- * 良い案内を受けて何となく素通りしていた橋も、いろいろな理由があって石工さんたちが苦勞して作られたものだとわかりました。砲台跡も知ってびっくりしました。
- * これからも歴史の勉強をして「鹿児島の案内」ができるようにしてほしいです。
- * 1人、1人が調べたレポートを丁寧に説明してくれたことがとても良かった。ただ石碑を見たり説明看板を見たりするのと違いとても良い。今後も頑張ってください。
- * みんなで一生懸命説明をしていただいていた、とても分かりやすかった。勉強になりました。質問にもよく答えてもらって勉強していることがよ～くわかりました。これからも頑張ってください。
- * 歴史をよく知らないなので、大人のガイドはなかなか聞きづらいところを感じていました。けど、子どもガイドは、言葉一つ一つがわかりやすく、子どもさん自身も話しやすくとても良い時間でした。これからも頑張ってください。
- * 子どもたちが照れながらも、一生懸命説明してくれる姿がとても可愛かった。丁寧に説明してくれたので分かりやすく聞くことができた。とても良い取り組みだと思うのでぜひ続けてほしいです。
- * わかりやすく教えてくれて嬉しかったです。一生懸命さが伝わり、また利用したいです。ありがとう。可愛かった。
- * 5～6年生がガイドを担当してくれました。各自いろいろ勉強してきており、わかりやすいガイドでした。有意義な時間を過ごさせてもらいました。本当にありがとうございました。
- * ご兄弟で説明していただきました。伺ったところ自主的とのこと、感激いたしました。
- * 鹿児島の歴史、日本の夜明けの歴史を自信をもって誇りをもっていろいろな人に伝えてほしいと思います。とても可愛いガイドさんで素敵でした。

一生忘れません。

- * 次回は、友人を連れてまた「子どもガイド」に案内をお願いしたいと思いません。
- * 都会ではなかなかできない素晴らしい活動です。
- * 旅の記念になりました。これからもアピール頑張ってください。
- * ありがとうございます。とても良かったよ。これからも頑張ってお客さんが楽しい思い出を作れるよう頑張ってくださいね。
- * 歴史を振り返ることができ、大変勉強になりました。これからも鹿児島のために頑張ってください。
- * 自分たちの町の歴史を知るとはとても素晴らしいことで、それをガイドするというアイデアに関心しました。本当にしっかりとガイドしてくれて勉強になりました。
- * 言葉使いがとても良い。
- * “子どもガイド”初めての体験をさせて頂きました。ありがとうございます。とても熱心に説明してくれて、分かりやすかったです。こんな素晴らしい取り組みをもっとアピールしなければと思います。たくさんの人に“かごしま”を伝えてください。ありがとう！！
- * 石橋について良く調べていて驚きました。鹿児島や日本の歴史について興味をもってくれるきっかけとなれば良いと思いました。子どもたちが可愛いです。
- * 石橋記念公園へ初めてきました。時間があまりなく、御門までのガイドでしたが、次回は全部案内してほしい。
- * 大変勉強になりました。ありがとうございます。がんばってね
- * 頑張ってください。旅にきた人たちの最高の思い出になると思います。
- * 自分の故郷を知り、ガイドすることにより故郷を愛する心を育てるよいことだと思います。
ガイドをしてくれた二人の少年の将来に幸あれと祈ります。ありがとうございます。
- * 一生懸命説明していました。篤姫の渡った橋ですか～初めて知りました。いいですね。
子どもたちの「ガイド」心が癒されます。
素晴らしい建造物と景色と癒しの空間がつくられています。職員の皆さんの日頃の思い入れや努力が、こういった空間を作りだしているのだと思いました。
子どもたちをありがとうございます。これからも愛情いっぱい育ててください。感動しました。

<検討意見>

- * 熱心で良かったですが、案内板を上手に利用して、案内板の場所で案内したら良いと思う。
- * 案内箇所から次の場所までの「沈黙」が課題と感じた。
- * 「次は〇〇です」があれば分かりやすいと思った。
- * 他のイベントの音響で声が聞き取りづらかった。
- * 大きな声でゆっくりと説明できれば、もっと良いガイドになると思います。

<アンケート結果より>

11月1日より、6回のガイド実施で、回を追う毎に利用者数は増えている状況であるが、「子どもガイド」認知度は低く、お客様よりPR不足を指摘されることが多い状況である。また、県外客の利用は多いが、県内客は少なく今後のPR展開の検討が必要である。当日、来園いただいたお客様を案内し、来園者が少ない日や悪天候時などは、記念館で待機し、勉強会や資料整理等を行うという状況が、子どもたちに合せた活動状況であり、余裕のある活動内容であることが、質の良い「ガイド実施」につながると考えており、その結果、ガイドに対しての評価が高いことにつながっていると思われる。ガイドに追われることなく、気持ちに余裕を持たせ、「明るく・元気よく・笑顔で」ガイドのできる環境作りが、活動継続や定着へもつながり、子どもたち自身の活動意欲を高めることになると考える。

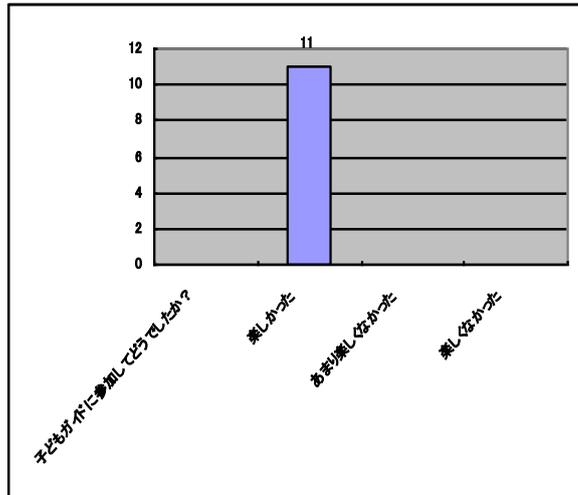
また、感想からわかるように子どもたちとの「ふれあい」が、お客様に大変好評をいただいております、特に年配のお客様などは、ガイド終了後も子どもたちと交流し、満足していただいている状況である。

ガイドだけではなく、バスのお見送りや、なにげない会話に、子どもたちは「気持ちよくお帰りいただく」という気持ちが自然に芽生え、自然と動いている。この気持ちは、ガイドだけではなく、日常生活や将来に役立ち、自信につながり、この「ふれあい」が相互に良い環境を生み出している。

PRについては今後も、子どもたちを交えたPR展開を行うが、子どもたちの「招待状やお礼状」を主として、子どもたちに合わせたPR展開を行い。成長に合わせた「気持ちを大切に」した活動と指導を行いたい。

(2)児童・生徒アンケート 回収数 11枚 平成20年11月1日実施分

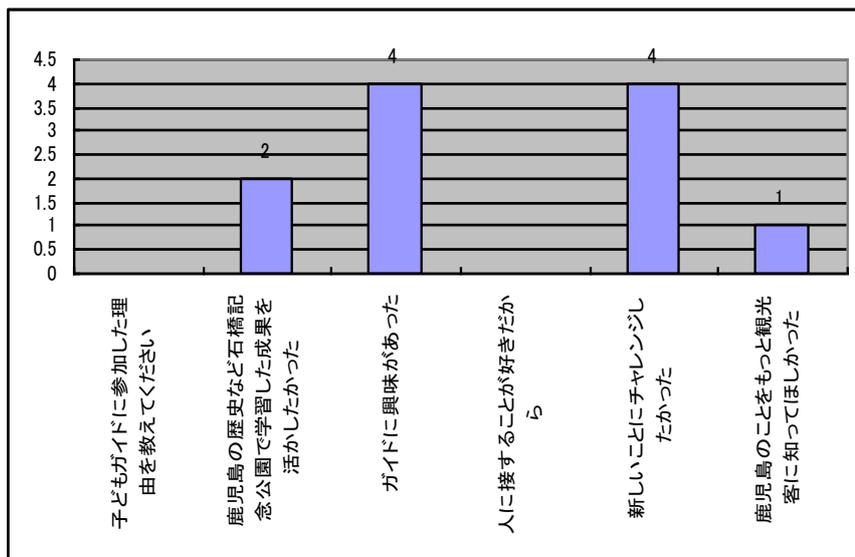
①子どもガイドに参加してどうでしたか？



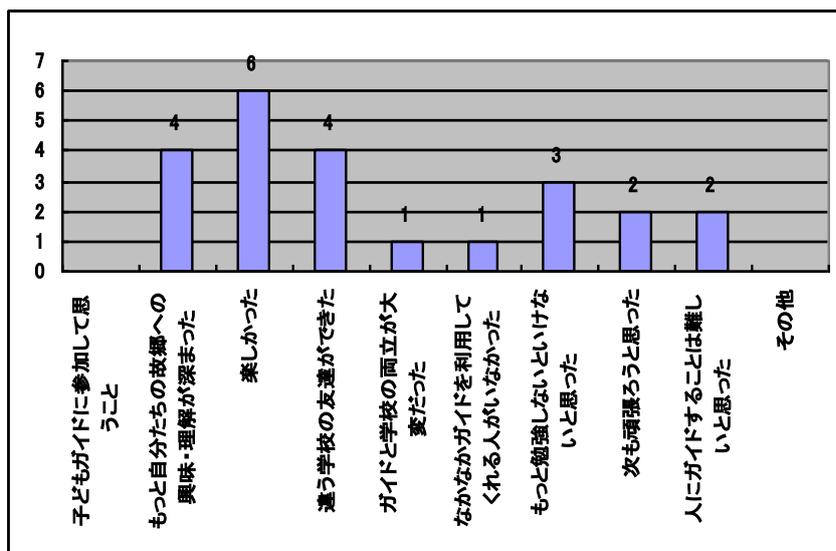
<その理由>

- *お客さんがとっても優しかったから
- *やりがいがあったから
- *僕の全然知らないことが知れたから
- *色々なことを知れたし、皆と仲良くなれた
- *色々なことがわかって面白かった
- *初めてだったけど友達とも仲良くなれた
- *偉い人を案内できたし、満足できたから
- *いろいろなお客さんに会えたから

② 子どもガイドに参加した理由



③ 子どもガイドに参加して思うこと



＜今後どのような勉強会がしたいですか？＞

- * もっと歴史の勉強がしたい
- * 新上橋の勉強がしたい
- * 調所広郷の勉強
- * 記念公園だけでなく、近くの施設や遺跡の勉強がしたい
- * 鹿児島だけでなく、日本中にこの公園を知らせる勉強会
- * ずっとガイドがしたい
- * 石橋や篤姫のことについて「もっと」知りたい

(3) 児童・生徒アンケート 回収数 13 枚
子どもガイドに参加して良かったと思うこと

平成 21 年 2 月 28 日実施分
複数回答

違う学校の友達ができた	9
歴史が好きになった	8
勉強会が面白い	8
自信がついた	4
新しいことにチャレンジすることができた	3
お客様に喜んで（褒めて）もらった	6
人のペースに合わせるできるようになった	2
その他	2

＜その他意見＞

- * 人とのふれあいが多くなった
- * 年下の子とのふれいが楽しかった

子どもガイドに参加して大変だったこと

複数回答

学校や習い事との両立	5
資料準備	8

人前で話すこと	2
ガイド利用が多くてガイド回数が多くなり休めない	
勉強会がむずかしい	2
その他	1

<その他意見>

- * 資料整理

これまでのガイド活動で自分が「1番がんばった」ところと「もっとがんばらないといけない」ところは？

< がんばった（自分は1番ここが良くなった）ところ >

- * ハキハキ声を出すこと
- * 勉強会の話をよく聞くようにした
- * 話し方
- * 資料を集める
- * みんなの前で恥ずかしがらないで話すこと
- * 声の大きさ
- * 資料作り
- * お客さんを案内するのは緊張したけど頑張った
- * 言葉使いやマナー

< もっとがんばらないといけないところ >

- * 挨拶
- * いろんなことにチャレンジする
- * 話し方
- * 資料整理のときに人に頼ること
- * 声が小さい
- * もっと勉強
- * 話を聞いていなくて資料整理等遅れるからちゃんと聞くようにする

これからの自分の目標と全体目標

< 自分の目標 >

- * 精一杯勉強して思いっきり楽しむ
- * 資料を見ないで説明できるようになりたい
- * もっと勉強
- * 落ち着く
- * 聞かれたことに答えられるようになる
- * 大きな声でガイド

< 全体目標 >

- * みんな自分の意見をもとう！発言できるようになろう！
- * さわがない

- * ガイド回数を多くするぞ～！
- * 声を大きく！元気よく！笑顔のガイド！
- * みんな仲良く！
- * ふざけない
- * みんなで一緒の行動をする

保護者アンケートから

- * 年下のお子さんとのふれあいが楽しそうだった
- * 鹿児島県の歴史や、石橋について学べてよかった
- * 異年齢集団の中で学ぶことは、昔の郷中教育に通じると先生方がおっしゃっていた通り、お互いを認め合うことで、この一年成長したのではないかと思います。有難いことです。
- * 学校や習い事との両立を頑張っていました。
- * がんばんなきゃ！と鼻息荒くやったことではなく自然に活動に夢中になっていました。

勉強会で課外授業的に二回ほど、外に出て勉強させていただき本当に有難かったです。

- * 毎回ガイドに行くのが楽しいようで親としては、素晴らしい出会いに感謝しています。歴史の勉強だけでなく、成長の一途としていろんなことを（マナーや人間関係）を学ぶ機会になってほしいです。
- * もっと案内内容が良くなれば
- * 意見を言えるようになれば
- * 毎回、帰るとその日の勉強会やガイドの様子を楽しそうに話し家族に授業してくれます。異年齢の集まりで指導や説明等も大変だろうと感謝するばかりです。ありがとうございます。

7 今後の活動計画

(1) 広報活動

- ① ガイド定着に向け広報活動
かごしま探検の会・まちの駅・県観光連盟と連携をとりながら「子どもガイド」を交えた積極的なPR展開を行う。
- ② 子どもたちが作成する「招待状」の発送先の拡充
子どもガイドからの「招待状・お礼状」は、マスコミ・個人客ともに反応が良い。
- ③ 子どもガイドのテレビ局・新聞社の見学・訪問の検討
- ④ 石橋記念公園HPでのPR
- ⑤ 県観光連盟・広報誌を活用したPR

(2) 21年度活動予定日(4月～3月)

勉強会	4/11・5/9・6/13・7/11・8/8・9/12・10/10・11/14・12/12・1/9・2/13・3/13
ガイド	4/25・5/23・6/27・7/25・8/22・9/26・10/24・11/28・12/26・1/23・2/27・3/27

(毎月第二土曜日 勉強会 第四土曜日 ガイド活動)

学芸員勉強会・イベント等サポートにより、活動日の増あり。

(3) 今後の課題と対応

< 課題 >

- ① ガイドの資質向上のための勉強会や研修会
- ② ガイドの確保、学校行事との調整、サポーターの確保

< 対応について >

21年度の活動継続に向け、ガイド内容の充実を図る必要があるが、子どもたちのモチベーションを保ちながらの勉強会や研修は、勉強会の内容検討をはじめ企画・準備に時間が必要となり、経費部分も考慮しなければならず、また子どもたちの気持ちとタイミングにあった実施が難しいのが現実である。子どもたちの興味や勉強意欲に合わせた勉強会や研修の実施をこころがけ、なによりも子どもたちが楽しく学び、体験し自主的な活動ができるような環境づくりを行う必要がある。また、ガイド実施は、大変好評をいただいておりますが子どもたちは休む暇なくガイドを行う状況であり、学校行事等と重なると人数が少なくなる日があり、その中で活動する子どもたちにかかなりの負担となっている。負担が多ければ基本である「笑顔」で「自主的」なガイドの実施は難しくなるため、ある程度のガイドの確保と学校行事等を考慮しながら臨機応変に活動を実施し、子どもたちの負担軽減のサポートをする大人のサポーターの確保に努める必要があるが難しい状況である。

(2) 活動について

- ① 20年度より、石橋記念公園において、「子ども学芸員」を募集・設置し、子どもたちの勉強・体験・発見の場所として、「歴史探検 in 石橋記念公園」・「1日職員体験」を実施し、更に「子ども学芸員」の中から「子どもガイド」の育成を行い、現在小学1年生～中学2年生までの13名が、第二土曜日の「勉強会」第四土曜日の「園内ガイド」の活動を行っている。

子どもたちの「ガイド知識」への向上心は非常に高く、勉強日以外の日も資料整理等に熱心に取り組んでおり、年長者が年少者へ指導を行うなど「鹿児島島の良き伝統である郷中教育」の姿がみられる。ガイド活動だけではなく、生活面の指導も行い、年長者は年少者への指導しながらリーダーとして、学び成長して

きており、勉強に指導に熱心に取り組んでいる。
 年少者は年長者に指導を受けながら、リーダーとしての姿を学び、認め成長している様子がみられ、学校や学年の枠を越えたふれあいの場所としても提供が
 できている。
 また、子どもたちから出す「招待状やお礼状」への反応は、マスコミ、個人客
 ともに良く。今後もこのような活動も継続しPR活動を子どもたち自身が行う
 ことで、更なるPR効果が高まると思われる。
 子どもたち自身も、次年度への活動意欲が高く、勉強会への要望案や活動案が
 出されるようになり、積極的な活動展開が期待される。
 特に保護者からの活動継続の要望は強く、今後も「子ども自身の力」を伸ばし、
 育てる活動展開を行い、21年度も新たな「学芸員」の募集を実施し、「石橋記
 念公園秋のお祭り」において、「子どもガイド二期生」をデビューさせたい。
 二期生の募集・育成を行うことで、現ガイドへの意識向上や活動刺激にもなり、
 また、二期生の勉強会等の準備・指導に加わることで、郷中教育の実践になり、
 更にリーダーとしての成長が望めると考える。子どもガイドの活動を継続する
 ことにより、公園利用の促進が更に計られると考える。

8 広報状況 (1) 新聞記事

平成 20 年 11 月 6 日 (木) 南日本新聞

平成 20 年 11 月 6 日 (木) 毎日新聞

鹿児島市浜町の歴史を
 継承する公園で、子
 ども学芸員による、
 ガイド活動。園内
 には、石橋や史跡
 があり、園内には
 小中学生の学芸員
 のガイド活動が行
 われている。今後、
 毎月第4土曜日に
 園内を案内する「こ
 ども学芸員」の活
 動が行われること
 となっている。

子ども史跡ガイド名物に 石橋公園

鹿児島市浜町の歴史を継承する公園で、子ども学芸員によるガイド活動が行われている。今後、毎月第4土曜日に園内を案内する「子ども学芸員」の活動が行われることとなっている。

資料を手に園内を案内する子ども学芸員
 一日、鹿児島市浜町の県立石橋記念公園



二大でカマシ朝相
 小六年の藤澤君は武
 闘もあつた。歴史に
 親しんでもらおうと
 今年初めて企画。
 夏休み期間中から学
 習を重ねた市内の小
 1年〜中学3年の11人
 が「学芸員」に挑戦
 した。

【福岡静哉】

**夏休みから歴史を学習
 石橋記念公園でガイド**

小中学生が「学芸員」に挑戦

鹿児島市浜町の石橋記念公園でこのほど、公園内をガイドする



資料を見ながら、市民に石橋について
 説明する「子ども学芸員」たち

子どもたちは、訪れた市民らと一緒に園内を歩きながら、県指定文化財「西田橋」などの「五石橋」や、西南戦争の戦没者慰霊塔など、史跡を解説した。明和小6年、徳沢海斗君(10)は「逆に歴史の知識を教わることもあった。また勉強不足。もっと頑張りたい」と話していた。

今後、原則毎月第4土曜日に活動に取り組むという。

イベント「子ども学芸員」があった。歴史に親しんでもらおうと県が今年初めて企画。夏休み期間中から学習を重ねた市内の小1年〜中学3年の11人が「学芸員」に挑戦した。

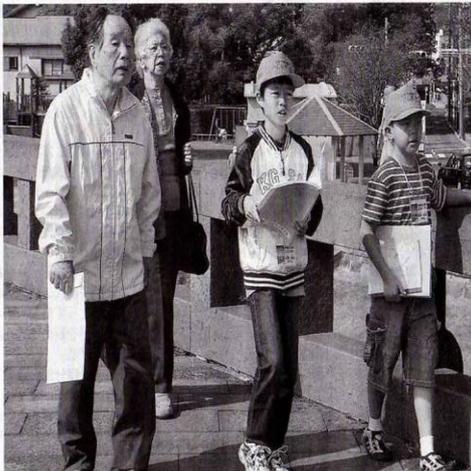
【福岡静哉】

2008年(平成20年)11月16日(日曜日) 読 売 新 聞

鹿児島市浜町の県立石橋記念公園で、小中学生が園内を案内する「子どもガイド」がスタートした。県内の小学1年から中学2年までの男女11人で、見物客と園内を一緒に歩いて回りながら石橋や碑にまつわる歴史などを紹介している。

子どもガイドデビュー

鹿児島 石橋記念公園の歴史紹介



子どもガイドは、今年度から始まった同公園の子ども育成事業の一環。11人は夏休み以降、NPO法人「まちづくり地域フォーラム」がこしま探検の会」の指導を受け、公園内の歴史を勉強し、週末にはガイドのりハールも重ねてきた。

初めてのガイドに挑戦した日、オレンジ色の帽子をかぶった11人は公園内に張ったテントに集まり、来園者から依頼を受けると資料を片手に案内をスタートさせた。

このうち高船の夫婦の案内をしたのは梶塚拓斗君(鹿児島市立武岡小5年)と、上野智哉君(指宿市立柳田小5年)。園内の高麗橋前にさしかかると2人は「ここはNHK大河ドラマ『龍船』の撮影があったんです」と説明し、夫婦は「あんなに面白いドラマは見たことありません。とても楽しかったです」と話していた。

案内を受けた高船の夫婦は、梶塚君の祖父の庄三郎(84)、テルさん(79)で、庄三郎さんは「こんなに歴史深い公園とは思わなかった。孫たちに案内してもらい、とてもうれしい」と目を細めていた。上野君と梶塚君は緊張しただけで、とても楽しかった」と話していた。

ガイドは毎月第4土曜日に行う予定。問い合わせは同公園(099-2480660)へ。

園内をガイドする梶塚君(右端)と上野君

(2) 取材状況

日付	会社名	番組名・放送日
平成 20 年 11 月 1 日 (土)	MBCラジオ	二見いすずの土曜の朝は(平成 20 年 11 月 1 日)
平成 20 年 11 月 22 日 (土)	BTVケーブルテレビ	こちらBTV情報局(平成 20 年 11 月 22 日)
平成 20 年 12 月 20 日 (土)	BTVケーブルテレビ	こちらBTV情報局(平成 21 年 1 月)